

七隈の杜

七隈の杜

NANAKUMANOMORI

Active
福岡大学

2018 / 第14号

2018/第14号

Vol. 14

FUKUOKA UNIVERSITY

「
違いと共に
」



福岡大学



福岡大学

建学の精神

思想堅実・穩健中正・質実剛健・積極進取



教育研究の理念

「人材教育」と「人間教育」の共存
「学部教育」と「総合教育」の共存
「地域性」と「国際性」の共存

「違いと共に」

少子高齢化による生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、情報技術の発展など、私たちが生きていく世の中は急激に、大きく変動しています。そのような中で私たちが直面する問題・課題を乗り越えていくためには、既存の考え方やシステムにとらわれず、年齢、性別、国籍、家族の形態、性格などそれぞれが持つ「違い」を見つめ、考え、生かしていくことが大切でしょう。今号ではテーマを「違いと共に」とし、私たちの周りに存在するさまざまな「違い」や、それと共に生きていくことについて考えます。

九州北部豪雨で被災された方およびその関係者の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。今般、緊急に臨時特集を組み入れ、被災の実情、水害発生理由の分析、本学の支援活動等を掲載しています。自然災害に関して何か皆さまのご参考になれば幸いです。

七隈の杜 第14号／2018年

目次

建学の精神
七隈の杜 第14号テーマ「違いと共に」
目次

キャンパスギャラリー

福島善三「鉄灰釉壺（てつはいゆうつぼ）」 福岡大学人文学部文化学科教授 植野 健造	4
特別インタビュー 人間国宝の認定は、新たな挑戦への入口 小石原焼陶芸家／重要無形文化財保持者 福島 善三さん	6

学長室から

違いを知り、共に生きる	福岡大学長 山口 政俊	11
-------------	-------------	----

特集「違いと共に」

「新 移民時代」の到来感じて	西日本新聞社編集局社会部記者 古川 努	15
性の多様性について	福岡大学医学部教授 川寄 弘詔	21
家族の多様化と国際家族年－同性婚の問題を中心に－	福岡大学法科大学院教授 小川 富之	27
多様性と向き合う社会－台湾の多元文化と「郷土言語」教育－	福岡大学人文学部文化学科教授 宮岡 真央子	33
不自由を力に	福岡大学法学部准教授 所 浩代	39
RoboCup から見た、ロボット・人工知能と人間の違い	福岡大学工学部電子情報工学科助教 秋山 英久	44

臨時特集「九州北部豪雨」

災害に備える 2017年7月九州北部豪雨について	福岡大学工学部社会デザイン工学科教授 渡辺 亮一	50
--------------------------	--------------------------	----

「災害医療」～福岡大学病院 DMAT の活動～	福岡大学病院救命救急センター副センター長 喜多村 泰輔	57
九州北部豪雨の経験から	福岡大学工学部社会デザイン工学科助手 古賀 千佳嗣	64
九州北部豪雨のボランティア経験を通して	福岡大学人文学部教育・臨床心理学科4年次生 本村 晨弥	71

随筆

回顧：世界遺産・沖ノ島の考古学調査	福岡大学名誉教授 小田 富士雄	75
山笠がつなぐ地域	博多祇園山笠振興会会長 豊田 侃也	80
福大 DNA とボランティア精神	福岡大学学生部長 永星 浩一	88
新天町商店街の秘密	福岡大学経済学部産業経済学科教授 木下 敏之	93
ミツバチと人	福岡大学理学部地球圏科学科助教 藍 浩之	99
日本とドイツのさまざまな違いについて	福岡大学人文学部歴史学科1年次生 ラート・デニス・ミカエル	106
私にとっての野球－日本代表になったピッチャーとキャッチャー－	福岡大学附属大濠高等学校3年生 三浦 銀二・古賀 悠斗	112
津軽と三味線と私	福岡大学附属若葉高等学校2年生 高野 夏美	117

福大トピックス

「日本型」疾病管理手法と糖尿病重症化予防への応用	福岡大学筑紫病院内分泌・糖尿病内科教授 小林 邦久	121
福岡大学の「あたたかい医療」をここ博多駅で －福岡大学博多駅クリニック－	福岡大学博多駅クリニック形成外科助教 西田 美穂	128
4号館（新工学部棟）・福岡大学西新病院		135

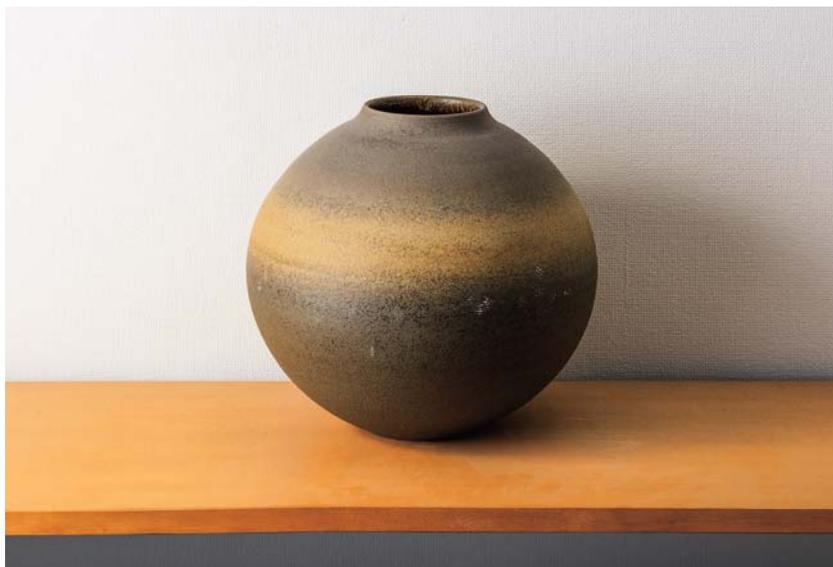
七隈花便り

七隈キャンパスは百花繚乱	福岡大学広報課 吉住 誠司	136
「福岡大学公式ウェブサイト」が全面リニューアル		149
第13回（平成29年度）全国高校生川柳コンクール入選作品		151
福岡大学校歌		153
広報誌		154

キャンパスギャラリー

福島善三「鉄灰釉壺（てつはいゆうつぼ）」

福岡大学人文学部文化学科教授 植野 健造



福島善三「鉄灰釉壺（てつはいゆうつぼ）」

轆轤（ろくろ）成形・陶土

高さ 32.2cm 径 34.0cm 口径 10.4cm

1992年 福岡大学所蔵

桐箱蓋表墨書：(右上)「小石原焼」(朱字長方印)／小石原焼 (中央) 壺

(左下)「窯」(ちがいわかま) (朱字印)

蓋裏墨書：(左下) 善三作

おだやかで安定感のある丸みを帯びた器形が好ましい。全体にかかる独特の深みのある緑色は、草木の灰を主成分とした釉（うわぐすり）を用いる灰釉（はいゆう、かいゆう）をかけたもので、膨らんだ胴の中央部に帯状にかかる薄い黄土色は、鉄分を含んだ鉍物質を用いた鉄釉（てつゆう）を重ねたものである。全体に渋さの中にシンプルでモダンな意匠と緊張感のあるクラシックな造形感覚が共存する魅力的な壺である。

作者の福島善三は、伝統的な小石原焼の制作技法を高度に体得し、伝統的に用いられてきた原材料や釉薬を研究。その特質を活かしたさまざまな表現による作品によって日本伝統工芸展等で受賞を重ね、高い評価を得ている。

2017年7月21日、国の文化審議会が「重要無形文化財保持者（人間国宝）」として4人を認定するよう文部科学大臣に答申し、福岡大学卒業生である小石原焼陶芸家の福島善三（ふくしまぜんぞう 本名・福島善三 ふくしまよしぞう）氏が重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定されることになり、同年10月2日に認定された。

小石原焼は、現在の福岡県朝倉郡東峰村小石原に伝わる伝統的な陶芸技法で、文禄・慶長の役後に伝えられた朝鮮半島の陶技が、初期の高取焼を経て17世紀末に同地に定着したのがその始原であるとされている。

福島善三は、小石原に17世紀末から続く小石原焼窯元・ちがいわ窯を営む父・福嶋司の長男として生まれ、祖父・福嶋荒次郎、父に師事して小石原焼の技法を習得した。その後さらに技法表現の研究を重ねながら技の錬磨に努め、伝統的な陶芸技法を高度に体得した。古来小石原において用いられてきた原材料や釉薬を研究し、これに精通している。特に、同地から産する陶土および、釉薬の原料に使われる鉄鉍石などの特質に注目。これらに含まれる鉄分を調整し、その焼成時の酸化あるいは還元による発色を効果的に使い分け、さらに創意工夫を加えることによって、「鉄釉（てつゆう）」「中野鉛釉（なかのあめゆう）」「鈞窯釉（きんようゆう）」「中野月白釉（なかのげっぱくゆう）」などによるさまざまな表現に取り組んできた。これらの表現による作品は、いずれも現代感覚あふれるものであり、その作風は極めて芸術性が高く、小石原焼の世界に新生面を拓いたものとして高い評価を得ている。

執筆者紹介

植野 健造（うへの けんぞう）

1960年生まれ。福岡大学人文学部文化学科教授。石橋財団石橋美術館（現・久留米市美術館）に25年間学芸員として勤めた後、2011年より現職。研究テーマは日本近代美術史、博物館学。





人間国宝の認定は、新たな挑戦への入口

小石原焼陶芸家／重要無形文化財保持者
福島善三さん

2017年10月、福岡県朝倉郡東峰村でつくられている小石原焼が重要無形文化財に指定され、陶芸家・福島善三さんがその保持者（人間国宝）に認定されました。57歳という若さでの認定に、福島さんは「この年齢で認定されたことに驚きましたが、実用品として歴史を刻んできた小石原の焼物が芸術としても認められたことは、本当にありがたいことだと思っています」と控えめに喜びを語ります。「この35年間、小石原で取れる原材料を生かし、『飛鉦』『刷毛目』などの伝統的な文様を取り入れながらも常に新しい表現に挑戦してきました。その作品が少しずつ評価されるようになり、今回の認定につながったと思います」。

ただ、ここまでの道のりは、決して平坦なものではありませんでした。陶芸以外のことには見向きもせず、気の遠くなるような試行錯誤を繰り返してきた福島さん。その孤独な戦いを支えてきたのは、飽くなき探求心でした。

美大出身でない自分ができること

1682年開窯の小石原焼窯元「ちがいわ窯」で生を受けた福島さん。手先が器用で、ものを作ることが好きだった幼稚園児の頃から窯場に入って轆轤を回して遊んでいました。やがて関心は野球やサッカーなどに移っていきましたが、将来家業を継ぐことは自然に受け入れていたと言います。高校卒業後は美術



福岡県朝倉郡東峰村にある小石原焼窯元「ちがいわ窯」

系大学への進学も考えましたが、そうなる福岡を離れなければなりません。父親や祖父が地元の大学への進学を希望していたこともあり「規模が大きな大学の方が、いろいろな人に会える」と、福岡大学に進学します。

大学時代はさまざまなアルバイトに精を出し、友人たちとも大いに遊びました。やがて大学3年次生になり周りが就職活動を始めると、福島さんは「全国の窯場を見て回ろう」と思い立ちます。広島、岡山、大阪、奈良、京都…。高校時代の友人たちの下宿先に世話になりながら、全国の窯を見て回りました。良い窯場があれば卒業後、修業に行くことも考えていましたが、訪れる窯場が二桁になろうとする頃、福島さんは確信します。「轆轤の技術は、小石原の方が上だ」。

「幼い頃から祖父や父、職人さんたちの仕事を見てきたので、轆轤技術の巧拙はある程度、分かるのです。よそで修業するよりも家で修業した方が身になると思いました」。

こうして大学卒業後、福島さんは小石原へと戻ります。

後年、ある高名な美術評論家から「福島君は、どの美大を出たの」と尋ねられたことがありました。「美大には行っていません。地元の福岡大学経済学部を出ました」と答えると、大きく頷いて「だから今の君があるんだね。美大に行っていたら、このような仕事（＝作品づくり）をしていないだろうな」と言われました。

美大では絵の勉強に重点が置かれるため、美大出身の多くの陶芸家は、絵を描くことに秀でています。福島さんは絵の勉強をしていないため、陶芸家として個性を出すには絵付以外の何かで特徴を出す必要がありました。それが後述する釉薬の研究につながり、独特の表現力が生まれたのです。

当時はその言葉にピンとこなかったようですが、今ではとても納得していると言います。

釉薬の土俵で勝負する

小石原に戻った福島さんを待っていたのは「民陶ブーム」でした。美術品ではない生活雑器が目されるようになり、かつては村に10軒ほどしかなかった窯元が40軒以上になっていたのです。経験がなくても機械の轆轤で石膏型を作り、小石原焼の特徴である「飛鉦」「刷毛目」などの文様を入れれば売れるという状況でした。こうした器は職人が作ったものより安かった分よく売れましたが、中に

は未熟なものもあり、陶芸関係の本では小石原焼に対して批判的な書かれ方もしました。心を痛めた福島さんは、「自分が良いものを作って、小石原焼を認めてもらうようにしなければ」と心に誓います。

その頃、福島さんは「自分はどこで勝負すればよいのか」と考えていました。絵の勉強はしていない。轆轤だけなら他に優れた職人がたくさんいる。「自分にしかできないことをやろう」と目を付けたのが釉薬の研究でした。釉薬とは、灰や砕いた土石類などを水で溶いたもので、器の表面に塗って焼くと表面をコーティングする効果があり、発色にも影響を与えます。福島さんは高校時代の化学の教科書を引っ張り出し、独学で勉強を始めました。

原料となる土にもこだわりました。小石原の土は目が細かく、焼き上がると引き締まって密度が濃くなるため、水が漏れにくいという特徴があります。福島さんは特殊な篩ふるいを使って土の粒子をさらに細かく分別し、焼き上がった時の収縮率を釉薬のそれに近づけることで、表面のヒビかんにひび（貫入）が入らないようにしました。貫入をデザインとして扱う器も多くありますが、貫入のない器を目指した福島さんは、どこまで粒子を細かくすれば貫入が入らないか研究を繰り返しました。代表作の一つであり、薄い青みを含んだ透明感ある白が美しい『中野月白げつぱく白瓷』シリーズは、この土と釉薬の研究なくして生まれなかった作品です。



『中野月白瓷四方鉢』

全ての運を、作品に使いたい

仕事としての器づくりと並行して、県展での入選を目標に作品づくりに取り組む日々が続きました。数年後、県展で入選を果たし達成感を味わいますが、それも東の間、同じ時期に開催されていた日本伝統工芸展を見て衝撃を受けます。そこに並ぶのは人間国宝レベルの人たちが出展しているレベルの高いものでした。福島さんは図録を買って帰り、繰り返し掲載されている作品を眺めました。時間を作っては展示会に赴いて実物も眺め、高い評価を受ける作品とはどういうもの

なのか、目に焼き付けました。

ただ、陶芸は、他の工芸品と同じようにすぐに結果が出るものではありません。例えば青を基調とした作品を作るのであれば、釉薬の調合を少しずつ変えて複数の青い器を作り、焼き上がった時に使えそうなものは残します。そして、その色をベースに再び複数の器を作って窯に入れます。窯入れの期間は短くても1週間、長くと3週間。そうして取り出した試作品のほとんどが日の目を見ることはありません。

「長くやっていると、ある日突然『おっ』と思わせるものが出てくることがあります。しかし、もう一度やってみると同じ色は出ない。くじけそうになった時、少しだけ希望の光を見せてくれる。なかなかうまく具合にできていると思います」。

しかし、そのひたむきさがやがて花咲く時を迎えます。28歳の時、日本伝統工芸展で初めて入選。39歳では日本陶芸展で大賞桂宮賜杯を、そして43歳の時に西日本陶芸美術展の大賞、日本伝統工芸展の日本工芸会総裁賞を立て続けに受賞したのです。

「例えば日本伝統工芸展は、陶芸のほか染織や漆芸などの7部門が対象となります。そこでは技術的なものはもちろんですが、その作品が醸し出すオーラや雰囲気といった目には見えないものが結果を左右します。僕は普段、宝くじも買わないし、お年玉付き年賀状の当選番号すら見ない。そういうところで運を小出しにせず、全てを作品のために使いたかった。遊びにも誘われましたが、『一人前になったら誘ってください』と断りました。何かを成し遂げようと思えば、何かを我慢しなければいけない。そんな時期があると思います」。

後継者の育成にも意欲

東峰村は2017年7月の九州北部豪雨で大きな被害を受けました。ただ、メディアに取り上げられたことで、小石原焼の認知度が上がった一面もあったと言います。復興支援の一環として、注文が入るようになった今が正念場だと福島さん



日々、新しいものに挑戦し続ける福島氏

は気を引き締めます。

「忙しいからといって手を抜いた商品を出してしまうと“小石原焼はこんなものか”と思われ、二度と注文は来ません。“小石原では良いものを作っていますね”と言われる仕事をしないといけない。焼き物に携わっている私たちは、良いものを作って提供することが支援してくれた方への恩返しになると思っています」。



「後継者の育成にも力を入れていきたい」と語る福島氏

人口約2,200人の東峰村は約50軒の窯元がある「陶芸の村」。それだけに地域の発展には小石原焼の存在が欠かせません。福島さんは、後継者の育成にも意欲を見せます。

「今は、公募展に出そうという若い人が少ないんです。『そこそこ、売れているからいい』と現状に満足している。だけど、もっと違う世界があり、違うやり方があることを伝えたい。これまではその窯のやり方があると思いうのを遠慮していましたが、こういう立場になった以上、話をしなければと思うのです」。

今回の認定を受けて人間国宝の先輩から送られてきた手紙には、祝辞とともに「大成することを望んでいます」と書かれていました。

「その手紙を読んだ時、今回の認定は入口なんだと気が引き締まる思いでした。この年齢で認定をいただいたということは、まだまだ新しいものに挑戦しなさい、ということだと思っています」。

モノづくりに終わりはない。その思いを新たにした福島さん。東峰村の「ちがいわ窯」には、今日も夜遅くまで明かりが灯っています。

福島善三氏プロフィール

1959年、小石原村（現・朝倉郡東峰村）生まれ。1982年、福岡大学経済学部経済学科を卒業後、家業の小石原焼窯元「ちがいわ窯」に従事し16代目に。第15回日本陶芸展大賞桂宮賜杯（1999年）、第50回日本伝統工芸展日本工芸会総裁賞（2003年）など入選多数。2014年には紫綬褒章を受章。2017年、重要無形文化財（小石原焼）保持者に認定された。

学長室から

違いを知り、共に生きる

福岡大学長 山口 政俊

執筆者紹介

山口 政俊（やまぐち まさとし）

1948年生まれ。1983年4月福岡大学薬学部助教授となり、1990年教授。薬学博士。専門は薬品分析学。薬学研究科長や薬学部長等を歴任し、2015年12月から福岡大学長、学校法人福岡大学専務理事。スローガン「アクティブ福岡大学」を掲げる。



「普通」とは何でしょうか

ある女子大での出来事です。入学後しばらくして、ある学生の口の周りがうっすらと黒くなりました。最初に「その学生は男性ではないか」と慌てたのは教職員でした。それが保護者会に伝わり、混乱が生じました。一方、学生たちは大した動揺もせず、現実をありのままに受け入れ、やがてこの問題は沈静化していったそうです。

学生たち若い世代は、周りの「違い」を受け入れる感覚を知らず知らずのうちに身に付けているのでしょうか。一方、教職員や保護者世代の人たちは、その感覚に乏しいのかもしれませんが。

「普通」とは何でしょうか。社会的多数派（マジョリティ）が「普通」で、少数派（マイノリティ）を「違い」と思っているだけではないのでしょうか。「普通」は一部の人のためのみ「普通」なのかかもしれません。「普通」と「違い」との区別は、どちらが真の「普通」なのか、そもそも「普通」は存在するのか。このことを考えることは、私たち一人一人が暮らしやすい環境をつくるためのポイントになると思います。

「ダイバーシティ」とは？

近年、「ダイバーシティ」という言葉を、頻繁に耳にするようになりました。日本では「多様性」と翻訳されています。

このダイバーシティを生態系の面から見れば、さまざまな「種」の生き物が共存していることを指す「生物の多様性」が挙げられます。自然界では、動物、植物、昆虫など多くの種類の動植物が各々の特性を有しつつ、生命活動を営んでいます。しかし、それらは、単独で生きているのではなく、互いに影響しつつ共存することで自然界全体のバランスを保っています。言い換えると、このバランスが存在するからこそ、生態系はうまく成り立っているのです。

では、人間社会での多様性、ダイバーシティとは、いったい何を指すのでしょうか。年齢、性別、人種、宗教の違いにとどまらず、最近では社会の複雑化に伴い、性格、学歴、生活スタイルなど多様性の範囲が広がりつつあります。

欧米諸国を中心に普及してきたダイバーシティに対する考えは、近年、日本国内でも広がりつつあります。性別、国籍、障がいの有無等の多様性を認めることが、ひいては社会、組織の活性化につながっていくと考え始められたからです。その一つとして、わが国の政策においても「すべての女性が輝く社会の実現」を標榜し、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みがなされています。

社会構造そのものがダイバーシティを帯びていると言えます。しかし、人々がその多様性を認め合うことの重要性をより意識したのは、比較的最近のことです。つまり、全ての人々が多様性を認め、個性を生かす社会を実現するためには、これまでさまざまな属性に由来する要因により社会への参加を阻まれてきた人々が活躍できる環境を整えることが必要であると認識され始めたのです。そして今、ダイバーシティの推進の機運が高まっています。特定の属性を理由とした差別的な扱いを解消することは、今日の普遍的な課題の一つであり、ダイバーシティの実現は、現代に不可欠であると同時に、私たち一人一人が学び、考えなければならぬものであると言えます。

このような背景のもと、私たちを取り巻く環境はより一層複雑化しています。複雑になっていくと、それまで接してこなかった“種”が登場することで、誰しもが多数派にも成り得るし、少数派にも成り得ることを、想定しておかなければなりません。社会の変化に柔軟に対応していくために、外部の環境変化に応じて私たち自身が変わっていくことが重要であると思われます。変革の時代にあって、

大学教育においても、学生が社会の構成員の一人として力強く歩みを進めていくために、自らの力で将来を切り開いていく力を養成することが重要です。当然、教職員自身が、先ずダイバーシティについて考察し、そして行動することが求められています。これからは、学生が多様性を受容する能力を育むための教育はどのようなべきかを追究することも不可欠です。社会の変化に柔軟に対応し、どのような状況に直面してもそれを乗り越える力を培うことができる教育の実現が期待されます。

ヒューマンライブラリー活動

ダイバーシティの本質を知るうえで、障がい者など社会的マイノリティの方たちの状況や考え方をすることが肝要です。その方法の一つとして、2000年にデンマークで始まった「ヒューマンライブラリー (human library)」という取り組みを紹介します。

「ヒューマンライブラリー」は、“人を本に見立てて読者に貸し出す図書館”という意味で、障がい者などのマイノリティの方たちを「本 (=知識)」に見立て、「読者」に「その本を読んでもらう (=その人に接し、対話をする)」という図書館をイメージしたものです。「ヒューマンライブラリー」では、社会的マイノリティの方々、例えば、うつ病経験者、トランスジェンダー、性暴力被害者、さまざまな病気や障がいを持つ方を招き、来場者にその人生や経験を語ってもらうことで、社会的マイノリティの方を知り、相互理解をより深めることを目指しています。

この取り組みは、2008年に日本に初めて紹介され、その後、例えば明治大学では、9回もの会合がなされ、2016年は34冊の「本 (=マイノリティの方)」と300人の「読者」が参加したとのこと。また2017年にはヒューマンライブラリーに関する学会も設立されました。

このように広がりを見せるヒューマンライブラリーに来場した人たちの多くから、「本」の方々と対話をする中で、「今まで知らなかった世界や素敵な生き方を知ることができた」「視野が広がった」「人生観が広がった」「自分自身について考えるきっかけになった」などの感想があったと聞きます。

「ヒューマンライブラリー」などを通して、社会的マイノリティと呼ばれる方々の環境や考え方を知り、これらの方々への差別や偏見のない世界ができていくこ

とが可能になるかもしれません。

違いとのふれあい

本学においても、マイノリティの方と本学学生や教職員がふれあう活動を行っています。一例を紹介すると、昨年12月に「ふれあいスポーツフェスタ2017 in 福岡大学」として、障がい者の方を対象とした2つのサッカーイベントを本学で開催し、約500の方が集いました。

一つは、精神障がいの方のフットサル大会「第10回九州・四国スキャンピオカップ」で、サッカーを通じて、精神障がいの症状の安定や社会生活の回復を目指したものです。

もう一つは、視覚障がいの方のフットサル大会「ブラインドサッカー西日本リーグ2017」です。リーグ戦以外に、アイマスクを着け、視覚障がいの方と同じ条件でフットサルを行うブラインドサッカー体験会も実施しました。この体験会には、スキャンピオカップ参加選手、本学の市民向け講座「キッズ・サッカークラブ」の受講者である幼児や小学生、本学学生、一般の方など多くの参加がありました。

このイベントの開催には、本学医学部、スポーツ科学部、福岡大学病院の教育職員等が大きく関わりました。そして特筆すべきは、本学の一般学生やサッカー部員合わせて約200人がボランティアとして、会場設営、誘導、参加チームへの帯同、審判、交流行事の準備等、運営全般に携わったということです。学生たちが、いろいろな境遇の方とスポーツを通してふれあうことで、視野を広げ、考えを深めてもらえればと思います。このような一つ一つの地道な活動の積み上げが、「ダイバーシティ」を真に認識することにつながり、「違いを知り、共に生きる」ことにつながっていくことになると考えています。

今回の『七隈の杜』では、「違いと共に」を全体テーマに掲げました。本誌を通じて、皆さまに自ら考え、お互いに学び合う機会を提供できればこの上ない喜びです。

特集「違いと共に」

「新移民時代」の到来感じて

西日本新聞社編集局社会部記者 古川 努

執筆者紹介

古川 努（ふるかわ つとむ）

1973年生まれ。長崎県佐世保市出身。1996年、福岡大学人文学部文化学科卒業。長崎新聞記者を経て、2007年から西日本新聞記者。社会部で「新移民時代」や九州北部豪雨の取材に携わる。



始まりは小さな情報

「福岡市の一角に、ネパール人の若者たちが集まって暮らす『国際通り』があるらしい」。

西日本新聞は2016年12月から、在住外国人との共生を考えるキャンペーン報道「新移民時代」を始めた。きっかけは同僚記者が聞き込んできた、こんな小さな情報だった。

確かに、福岡市内の街角では近年、アジア系の人々とよくすれ違う。耳を澄ますと、聞いたことがない言葉が聞こえてくる。どんな目的で来日し、どんな生活をしているのか。「国際通り」があるとされる福岡市南区に向かうと、珍しいネパール料理の専門店や食材店があった。自転車に乗ったネパール人とおぼしき一群が通り過ぎる。拙い英語で話し掛けてみた。すると、屈託のない笑顔とともに、流ちょうな日本語が返ってきた。「ネパールから来ました。日本語を勉強しています」。

彼らの正体は、日本語学校で語学習得に励む留学生。大学や専門学校に進学、日本企業に就職し、いつかは母国に錦を飾る。そんなサクセスストーリーを思い

描く途上国の若者たちだった。日本語学校に聞くと、ネパール人留学生は5年ほど前から増えてきたという。

裏方から見える場所に

なぜ、最近になって目立つ存在になってきたのか。その答えの一つは留学生数の増加だが、それだけではないようだ。見えない場所から、見える場所に出てきた、という理由もあるという。

途上国からの私費留学生は学費と生活費を賄うためにアルバイトが必須だ。5年ほど前はまだネパール人へのなじみがなく、採用してくれる職場は、深夜の弁当工場や運送会社の配送センター、スーパーの裏方など目につかないところばかりで、弁当販売店でも調理場。それがいつしか、レジ係や居酒屋のホール係などとして表に立つようになった。



カトマンズ郊外の日本語学校で学ぶネパール人学生

「ネパール人全体への信頼感が増したのでしょう」。日本語学校関係者はこう分析する。この関係者は、弁当店で働く学生が「先生、初めてレジを任されたよ」と報告するうれしそうな顔が忘れられないと語った。もちろん、中国人や韓国人の留学生もコンビニのレジで働く。ネパール人と中国・韓国の学生には大きな違いがある。それは、彫りが深い顔立ちと褐色の肌。「最初は経営者たちも警戒感を抱いていたが偏見だと気付いた。今ではネパール人学生たちの勤勉な働きぶりとなつっこい笑顔を評価し、貴重な人材として積極的に採用してくれるようになった」という。ネパール語の文法が日本語に似ていて覚えが早いという特性も好印象につながったのだろう。

留学ビジネスの現場へ

そもそも、なぜ、ネパールなのだろうか。その疑問を抱き、同僚記者と2人で現地取材に向かった。

南はインド、北はチベット自治区に挟まれた内陸の小国ネパール。国内経済は大国の動向に左右され、政治デモが頻発する。主な産業はヒマラヤ観光。この国から年間2万人近い若者が来日する。首都カトマンズの空港に降り立つと、いきなり日本語が聞こえてきて驚いた。「タクシー、乗りますか」。聞けば、話し掛けてきたタクシー運転手は日本で働いた経験があるという。

カトマンズの学生街「バグバザール」に足を踏み入れ、目を疑った。「JAPAN」があふれていたからだ。れんが造りの5、6階建てのビルに、日本への留学を誘う語学学校の看板が無数に設置されていた。その数は500軒とも言われ、正確な数字はネパール政府も把握できていなかった。路地裏にも、近くの別の通りにも広がっていた。日本語学校関係者によると「学生を1人送り出せば報酬10万円」。公務員の月給が3万ルピー（約3万円）の国で、「留学ビジネス」は瞬間に一大ビジネスに急成長していったという。

あるネパール人の語学学校経営者は「私たちの子どもたちが日本でしっかり勉強できるようサポートするのが仕事」と自信満々に語っていた。流ちょうな日本語を話すネパール人教師を雇い、真面目に教育に力を入れる教育機関もあった。だが、地方都市の語学学校では、日本語を理解する教師が存在しないところもあった。一部の語学学校の看板には、こんな無責任な文言もあった。「授業料無料」「留学ローン完備」「100%仕事保証」「成績が悪くてもノー・プロブレム」一。まさに玉石混交。留学ビジネスの過熱ぶりを物語っていた。



ネパールの首都カトマンズの学生街「バグバザール」には日本留学を誘う「JAPAN」の看板があふれていた



カトマンズから西に200km離れた地方都市ポカラにも「JAPAN」

苦学する九州の留学生

ネパールはアジア最貧国の一つ。日本との物価差は10倍以上という。日本留学の初期費用は学費や寮費の前納分、渡航費などで100万円を超える。親が人生の長い期間をかけて貯蓄した財産を取り崩したり、土地を担保に借金したりして工面するのが一般的だ。

来日後は借金を返済したり、物価差を利用してアルバイトで親に仕送りをしたりする。もちろん留学生の本分は勉学だが、彼らにとって、勉学とアルバイトは不可分だ。アルバイトができなければ学費も生活費も滞り、勉学を怠って学籍を失えば留学ビザは取り消される。さらに、入管難民法で彼らは「週28時間以内」という就労制限を課されている。時給900円ならば月収は10万円が限界だ。このうち半期ごとに支払う学費として5万円を積み立てる必要があり、残る5万円から家賃や食費、その他を捻出することになる。法を守れば困窮し、破れば摘発の対象となるジレンマを抱える。リスクを承知で、生きるために、アルバイトを掛け持ちする留学生も多い。

首都圏ならば深夜アルバイトで時給1,800円という職場もざら。倍の収入を得ることも可能だ。しかし、地方ではそうはいかない。苦学は地方の外国人留学生たちの宿命とも言える。留学生の苦境ぶりが東京で問題化せず、西日本新聞が九州から問題提起を始めた一つの理由はここにもある。

日本語学校や専門学校の中には学生管理が行き届かないところも散見された。授業中に寝たり、ゲームに興じたりと学級崩壊状態の教室もあった。学校側の十分なフォローもないまま、耐えきれずに勉学を怠ってアルバイトに明け暮れる「出稼ぎ留学生」となったり、失踪して難民申請したりするケースも少なくない。日本語学校から逃げだし、難民申請して群馬県で働くネパール人男性は「月給30万ルピー稼げる」という留学仲介業者の甘い言葉を信じて来日し、挫折したと告白した。

ひずみ生む「移民ネグレクト」

日本国内の外国人労働者は2016年秋、初めて100万人を突破した。そのうち2割を占めるのが働く留学生たちだ。別の2割は、途上国への技術移転が目的とされる技能実習生だ。取材では、技能実習生たちも、実習とは名ばかりの労働者に他ならないことを明らかにした。担い手の減少が止まらない農漁業や製造業、建

設業などの現場では、安価な労働力として不可欠の存在となっていた。改善が進んでいるとはいえ、一部では「現代の奴隷労働」とも指摘される人権侵害も見聞きした。

経済協力開発機構（OECD）の加盟35カ国の外国人流入者数（2014年）を西日本新聞が独自に分析し、日本が世界第5位の移民流入国であることも明らかにしてきた。だが、日本政府は「いわゆる移民政策は取らない」と繰り返す。事実上の労働移民は年々増加するが、政府はその存在を認めず、対策も取らない。国民的議論も必要な法律やセーフティネットの整備もないまま、「雇用の調整弁」として扱う。この「移民ネグレクト」こそが、わが国の「国策」であることに気付かされた。

国策の建前と、現実との乖離^{かいり}が、ひずみを生み出す。「出稼ぎ留学生」や偽装難民、送り出し国で過熱する留学ビジネス、国際貢献とは名ばかりの技能実習…。

政府には、生活者としてどう迎え入れるかという視点が決定的に欠けている。一方で、外国人が多く暮らす地域では、共生に向けた努力も草の根レベルで続けられている。福岡市東区の保育園では園児の4割が外国人。給食はイスラム教の戒律に従ったハラール食に対応していた。また、増加する外国人観光客に対応しようと、福岡県柳川市では、方言や敬語を使わずに文章を短く区切り、はっきり、ゆっくりと発音する「やさしい日本語」を取り入れたサービスを始めている。定住者に対しても応用が利きそうだ。

問題点や課題を指摘する一方、こうした共生社会の実現に向けた先進例も盛り込み、第1部から第9部までの連載や記事で報告。解決の道筋を探してきた。

社会が動き始めた

キャンペーンと並行するように、政治や行政、経済界でも新たな動きが始まった。法務省は日本語学校のチェックを強化し、九州の自治体は留学生特区の共同提案、経済界は外国人向けの民間奨学金制度創設へと動き始めた。政府の骨太方針2017と未来投資戦略2017に



ヒマラヤ観光でにぎわうポカラの観光地「サランコット」

は、外国人労働者の「日本語教育の充実」「生活環境の改善」「就労環境の改善」などが盛り込まれた。福岡県や沖縄県では、本来はライバル関係にある日本語学校同士が情報を共有したり、研修会を開いたりして留学生対応の改善に乗り出す動きも生まれた。

2017年6月に福岡市で開いたシンポジウムには、中国出身の医師や在日ネパール人団体関係者を含む12人のパネリストが登壇。約180人が聴講し、「労働者」「生活者」としての外国人をテーマに討議し、受け入れ環境の整備の必要性を確認した。同年10月には、一連の報道が第17回「石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞」草の根民主主義部門大賞に選ばれた。記事内容はインターネットでも発信し、書籍化も実現した。受賞をきっかけにさらに多くの人の目に止まることを願っている。

九州の日本語学校で学ぶ留学生の国籍はネパール、ベトナム、ミャンマー、スリランカ、アフリカ諸国など多彩だ。なじみのない国もあり、言葉や文化、宗教の違いなどから、敬遠してしまうこともあるかもしれない。でも、少し勇気を出して、簡単な日本語で話し掛けてみてほしい。彼らの笑顔と、少したどたどしい日本語の受け答えに接すれば、あなたも「新移民時代」の到来を実感するはずだ。



書籍紹介

「新移民時代
外国人労働者と共に生きる社会へ」

(本体1,600円+税)

西日本新聞紙上で2016年12月から展開してきたキャンペーン報道「新移民時代」の連載記事やニュース記事、公開シンポジウムの詳報を収録。2017年11月出版(明石書店)。

特集「違いと共に」

性の多様性について

福岡大学医学部教授 川寄 弘詔

執筆者紹介

川寄 弘詔 (かわさき ひろあき)

1958年生まれ。福岡大学医学部精神医学教室教授。専門は精神医学一般、遺伝学、分子神経生物学、リエゾン精神医学、気分障害、司法精神医学。日本精神神経学会代議員、日本生物学的精神医学会監事、日本神経化学会評議員等。



はじめに

福岡大学病院では、「性同一性障害の性別の取り扱いに関する法律」いわゆる性同一性障害特例法が施行された2004年と同じ年にジェンダークリニックを設立し、主に性同一性障害の治療を開始した。性同一性障害とは、心の性(性自認)と体の性(生物学的性)が一致しない状態のことをいう。2003年に放映された『3年B組金八先生』で上戸彩さんが性同一性障害の生徒を演じたことで初めて知った人も多いだろう。しかし、現在も性同一性障害の知識や治療が特に広がっていないのが現状で、ジェンダークリニックを掲げている大学病院は全国に福岡大学病院を入れて数カ所しかない。本稿では、性同一性障害やLGBT、また、現在注目されている SOGI (ソジ) という概念について紹介したい。

性同一性障害 (GID)

国際的な診断基準として使われている、アメリカ精神医学会の「精神障害の診断と統計マニュアル (DSM-IV)」によれば、以下の4つの項目を満たすと「性同一性障害 (Gender Identity Disorder: GID)」と診断される。

- ・反対の性に対する強く持続的な同一感
- ・自分の性に対する持続的な不快感、またはその性の役割についての不適切感
- ・その障害は、身体的に半陰陽を伴っていない
- ・その障害は臨床的に著しい苦痛、または社会的、職業的、または他の重要な領域における機能の障害を引き起こしている

この中で、体の性が男性で心の性が女性の場合は、「MTF (male to female)」もしくは「トランス女性」と呼ばれ、体の性が女性で心の性が男性の場合「FTM (female to male)」もしくは「トランス男性」と呼ばれる。

診断と治療

診断と治療は、日本精神神経学会が作成した「性同一性障害に関する診断と治療のガイドライン（第4版）」に沿って行われる。まずは、精神科医が数カ月から数年にわたり面接を行い、幼少期からの生活歴、性別違和の実態、自らの性別に対する持続的な違和感・不快感、反対の性別に対する強く持続的な一体感、反対の性別の役割を求める気持ちや現在の生活などを聴取しながら診断する。続いて、泌尿器科医や婦人科医によって、身体的性別の判定（染色体検査、性ホルモン検査、身体診察）が行われる。その後、さらに1人の精神科医の診断（セカンドオピニオン）が行われる。患者がホルモン療法や性別適合手術を望む場合は、他職種（精神科医、産婦人科医、泌尿器科医、形成外科医、臨床心理士、弁護士等）で結成する判定会議で身体治療導入判定が行われる。なお、本院では、性別適合手術を行っておらず、弁護士は参加していない。

その後は、ホルモン療法のみの場合や乳房切除のみの場合、性別適合手術までする場合、名前の変更や戸籍の変更などさまざまだが、患者自身にとって違和感のない、もしくは違和感をより感じにくい状態になるようサポートする。性別違和があるからといって必ずしも性別適合手術をして戸籍を変更するわけではない。

性同一性障害から性別違和へ

2013年に発表された、アメリカ精神医学会の「精神障害の診断と統計マニュアル (DSM-5)」では性同一性障害という名称は消え、性別違和という名称となっ

た。以下6項目のうち、2項目以上を6カ月以上満たす状態があれば、性別違和と診断される。

- ・自分が体験するジェンダーと性徴の著しい不一致
- ・自分の体験する性徴から開放されたいという欲求
- ・反対のジェンダーの性徴を強く望む
- ・反対のジェンダーになりたいという強い欲求
- ・反対のジェンダーとして扱われたいという強い欲求
- ・反対のジェンダーの定型的感情を持っている確信

この名称変更が意味するところは、性同一性障害の脱病理化である。2018年改訂されるもう一つの国際診断基準である WHO（世界保健機関）の「疾病及び関連保健問題の国際統計分類 (ICD-11)」でも性同一性障害から性別不一致もしくは性別不調和と変更される予定である。ただ、当事者やその支援者の中にも、疾患として扱うべきだと主張する人々も多く存在する。その一因には、性別適合手術やホルモン治療などの身体的治療に保険の適用がなく、当事者たちは高額な治療費を捻出しなければならないという現状もある。

LGBT だけでは語れない

現在、「LGBT」という言葉をテレビや雑誌など日常でもよく目や耳にするのではないだろうか。改めて説明すると、LGBTとは「レズビアン (Lesbian)」「ゲイ (Gay)」「バイセクシュアル (Bisexual)」「トランスジェンダー (Transgender)」を意味する言葉である。これは医学用語ではなく、当事者から広まった言葉であり、長年偏見や差別を受けてきた当事者たちが尊厳を取り戻すために多様性を強調する意味でつくったといわれている。LGBTは、例えば「性同一性障害」のように他者から与えられた（医者から診断された）ものではなく、自らを主張するためにつくられたものであるため、LGBTに入っていない人たちが声をあげ、「Intersex（身体的性別の分化が非典型的の者）」や「Questioning（自分の性からわからない人）」などを入れて「LGBTIQ」ということもある。これが進み、一部の地域では「LGBTIQ2SA」「LGBTQQIAAP」と表記されることもあるらしい

(興味がある方は、それぞれの意味を調べてみてください)。

性を構成する要素

性を構成する要素として、大きく4つある。まずは「身体的性」、それからどの性別を好きになるかという「性的指向」、次に自分がどの性に当てはまるかという「性自認(心の性)」、そして社会的・文化的・地域性の要素が強くなる「性役割」の4つである。LGBTのうちLGBは性的指向であり、Tは性自認ということになる。性的指向や性自認だけでも、それぞれ男・女・両方・どちらでもない・分からないなどがあり、単純に考えてもこれらをどう組み合わせるかでカテゴリーがどんどん増えていくことになる。“性的マイノリティ=LGBTではない”という理解は非常に重要である。

SOGIやSOGIEという概念

「多様な性を尊重する」という意味なのか、Facebookの性別欄には50個以上の選択肢があるという。初めて聞く方は想像すらできないと思われるが、性の多様性はそのようにLGBTだけでは表現しきれないのだ。現在、このような理由もあり、国連などを中心に国際社会では、「SOGI(ソジ)」もしくは「SOGIE」という言葉が使われている。SOGIとは「性的指向(Sexual Orientation)」と「ジェンダー・アイデンティティ(Gender Identity)」の略語を組み合わせることで性の多様性を表している。ここに、どのような格好をするかという「性表現(Expression)」を追加してSOGIEと呼ぶこともある。

実は性的マイノリティという言葉も徐々に使われなくなっており、代わりにSOGIという言葉を使うことが多くなってきている。性的マイノリティが誰を規定しているか分かりにくいという理由もあるようで、例えば、小児性愛やSM(サディズムとマゾヒズム)などは線を引くためである(小児性愛やSMが良いか悪いかは別の話である)。

メディアの問題

テレビでSOGIが取り上げられるのは「NHKかバラエティー」と言われてきたが、最近では、その中で「オネエ」と呼ばれる人たちを見る人が多い。メディアではゲイ、トランス女性、女装家、女性っぽい男性などなんでも一括りにオネエ

と紹介し、また当事者(?)もそう自称することが多い。タレントのKABA.ちゃんが「オネエタレント」から「女性タレント」になった途端にメディアへの露出が減ったと報道されていたが、「オネエ」でなくなるとどう取り扱っていいのか分からなくなるのだろうか。社会的な面やビジネス的な面も含めてメディアや当事者たちの意図もあるだろうが、SOGIという言葉を理解すれば「オネエ」という言葉がいかに乱暴かは理解できるだろう。われわれにできることはまずは知識を持つことではないだろうか。

現場の問題

医療現場でSOGIについての知識を持つ者は少なく、残念なことに、性同一性障害の診断を行うとされている精神科医においても多くない。身体科治療においては保険適用でないということが大きく関わっているだろう。教育現場においては、平成27(2015)年4月30日に文部科学省は教職員向けに「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細やかな対応等の実施について」を通達している。性教育の中に男と女だけでなくSOGIについても盛り込もうという意見もある。ただ、日本では性教育自体が現在においてもまともに行われていないという現状がある中で、超えなければならないハードルは幾つもあると思われる。医療現場、教育現場での知識の底上げが必要である。

「どのように関わればいいのでしょうか？」

家族、会社や学校からこのようなことを聞かれることは多い。まずは、その人がどう扱われたいかについて本人と話すことである。多様性という言葉が使われることから分かるように、それぞれどう扱われたいか、扱われたくないかは違う。本人の了解を得ることなく、性的指向や性自認について暴露する「アウトティング」により当事者が精神的、社会的に追い込まれることもある。本人の話聞くことに加え、知識を持って関わるのが出来ればなお良いであろう。SOGIという言葉を知るだけでも、自分がいかに男と女の二元論のみで思考しているかということに気付くだろう。

子どもにおいては、より慎重により長く関わる必要がある。性別違和は幼い頃からみられる場合が多いが、性別を決めることを急がせないことは重要である。どの性別として生きるかは、大人になっても右往左往して迷って当然なのである。

最後に

国際学会 WPATH (The World Professional Association for Transgender Health) の「ケア基準」(SOC-7) に従っていえば、LGBT の医療に係る専門職者には、「多様性に対する偏見・差別・スティグマを払拭し、公共政策や法改正に向けた取り組みを通じて社会的寛容や平等を推進していくこと」が求められている。まずは医療者や教育者など当事者と関わる機会の多い専門職の方々の知識や理解が広がることを望んでいる。

執筆協力：永野健太（福岡大学医学部精神医学教室）

特集「違いと共に」

家族の多様化と国際家族年 — 同性婚の問題を中心に —

福岡大学法科大学院教授 小川 富之

執筆者紹介

小川 富之（おがわ とみゆき）

1956年生まれ。福岡大学法科大学院教授。専門は家族法。アジア太平洋法律協会（LAWASIA）家族法部会長、国際家庭裁判所調停裁判所協会（AFCC）執行理事、世界会議「家族法と子どもの人権」（WCFCR）顧問等を歴任。



1 はじめに

21世紀に入り家族の国際化・多様化が加速する中で、国際連合により1994年が「国際家族年（International Year of the Family）」とされ、「家族から始まる小さなデモクラシー（Building the Smallest Democracy at the Heart of Society）」がスローガンに掲げられた。家族の中に民主主義を確立し、国際的に家族の問題を見直す手始めの年とされた。国際家族年を設定するにあたって、まず「家族とは何か？」を考えなければならなかった。家族形態としては、さまざまなものがある。祖父母・両親とその子どもで構成される三世代家族、父母と未成熟子で構成される婚姻家族（核家族）、子どものいない家族、同性（婚）家族、友人との共同生活、単身者等、さまざま、かつての日本の「家」制度といったような超世代的家族もある。また、国籍や民族、宗教の異なる者から構成される家族も増加している。国際家族年では、これら全てを含め、さまざまな家族をその対象とし、それら全てのニーズに応え、基本的人権を尊重することが求められた。筆者は、この国際家族年の記念事業として、国際児童年の理念も盛り込む形で計画・創設された「世界会議『家族法と子どもの人権』」に設立メンバーとして参加し、



4年ごとに世界大会を開催してきた。

「世界会議『家族法と子どもの人権』」は、1991年に西オーストラリア州の州都パース市で開催した「アジア・太平洋法律協会（ローエイシア・Law Association for Asia and the Pacific）」の会合でその枠組みを決定し、翌92年に、マレーシアのペナン島で開催した「第1回アジア太平洋法律協会・家族法部会国際会議」で世界会議のプレ大会を兼ねて、賛同する法律家が世界中から集まり話し合いの機会を持った。ローエイシアの本部はオーストラリアにあり、筆者は当時、西オーストラリア州立大学ロースクールの客員教授で、オーストラリア法曹協会の会員でもあったことから、ローエイシアの家族法部会員として、その後は部長、執行理事として、国連の国際家族年担当ディレクターの協力を得ながら「第1回世界会議『家族法と子どもの人権』シドニー大会」を1993年に開催した。第2回大会はアメリカ合衆国サンフランシスコでの開催で、世界会議の執行部がホワイトハウスを訪ね、当時のファーストレディーであるヒラリー・ロドハム・クリントンさんに議長を依頼して「国際家庭裁判所・調停裁判所協会（Association for Family and Conciliation Courts）」との共催で1997年に開催した。第3回大会は2001年にイギリスのパース市で、元アイルランド大統領で当時国連人権高等弁務官、その後に国際法律家委員会委員長を歴任されたメアリー・ロビンソンさんをパトロンに招いて開催した。第4回大会は2005年に南アフリカのケープタウン

で、ネルソン・マンデラさんの協力を得て開催し、第5回大会は2009年にカナダのハリファックス、第6回大会は2013年に創設20周年を記念して初回の開催地シドニーに戻り、直近の第7回大会はアイルランドのダブリンで2017年に開催し、現在は2021年の第8回大会の準備を進めている。

2 多様化する家族

「世界会議『家族法と子どもの人権』」で検討したテーマは多岐にわたるが、筆者が会議の国際顧問として関わったものだけを抽出しても、家族の多様化の急速な進展を痛感させられる。振り返ってみると、1993年の第1回大会では「婚姻外の家族関係（Un-married Family Relationships）」を全体会で取り上げた。ここでは、Homosexuality and Procreation（同性〔愛〕・生殖）ということをよく耳にした。当時、筆者は全体会のパネリストとして議論にも参加したが、その打ち合わせのときにコーディネーターから「同性愛者が子どもを産むことについての意見を求めたい」と質問され、正直なところ「同性愛者が子どもを産む」ということに疑問と驚きを感じたことを今でもはっきりと覚えている。現在では、同性愛者の婚姻が徐々にではあるが認められるようになり、これらの人たちに対しての生殖補助医療の提供の可否という観点から議論されている。1990年代初頭の第1回世界会議のころの議論として、同性愛者、異性愛者といったようなことで差別することなく「家族形成権」として全ての人が「幸福を追求する権利を有する」ということを確認して大会宣言を提示した。

1990年代後半の第2回世界大会のころになると、そもそも男女の性別自体をどのように考えるかということが議論された。男女の違いは生物学的に決まるのか、つまり、染色体の違いが男女を分ける基準かどうかということである。この問題についての打ち合わせの際に、筆者は次のような質問を受けた。「小川さん、もしあなたが明日の朝目覚めた時に、あなたの体が女性の体になっていたらどうしますか?」と問われたのである。私には想像もできないことだったので、素直にそう答えると、質問者から「現実には、毎朝このような経験をしている人たちがたくさんいるんですよ」と教えられた。この問題は、現在では性同一性障害として検討されており、大会では、法律的な意味での男女は基本的には本人の意思を最大限尊重して判断されるべきであると宣言した。

2001年の第3回世界大会では、アメリカが同時多発テロの被害を受けた直後

だったことから、戦争と家族、特に戦争に駆り出される子どもや、戦争の被害にさらされる非戦闘員である女性や高齢者の問題を議論した。もちろん、これら以外にも、離婚と子の養育、宗教と婚姻など、さまざまな問題が取り上げられた。

3 多様化する家族と家族の人権にかかわるさまざまな問題

同性愛者の婚姻を認める国が増えているということに耳にする。かつて、同性愛は精神的疾患・倒錯と見なされ、国によっては刑罰の対処とされ警察によって取締りの対象とされていた時代もある。第二次世界大戦中に、何十万人もの同性愛者がナチス・ドイツの強制収容所で処刑されたが、彼らの権利は国連の人権条約の枠から漏れていたため、賠償請求すら認められなかった。

1973年にアメリカの精神医学会が精神障害から、1993年には世界保健機構（WHO）が国際疾病分類から同性愛を除外し、現在では異性愛・両性愛と同様に、性的指向の一つと考えられるようになってきた。しかしながら、婚姻については、欧米ではキリスト教の影響も強く、男女が教会で儀式を挙げることによって成立するとされ、法律上も二人の異性関係の存在が要件とされてきた。裁判所の判断も、「生物学的意味での男女間においてのみ婚姻が成立する」との見解が示されてきた。

1989年にデンマークでいわゆる「同性婚法」が制定され、北欧諸国へと拡大し、これが欧米全体に波及していったとされる。一般には、同性愛者の婚姻が法的に認められるようになったと受け止められているようであるが、正確には、婚姻している男女と同様な法的扱いをすることで、その保護を図るものであり、法律婚として認めたものではない点には注意が必要である。家族形態の一つとして、男女の婚姻カップルとは別に同性愛者のカップルを法的に承認したもので、正確には「登録パートナーシップ」と称される。

同性での正式な婚姻が認められるようになるのは、21世紀に入ってからで、オランダで2001年4月1日に世界で初めて同性での法律婚を認める法律が施行された。その後、同性婚を認める国は、20カ国以上と増え、ベルギー、スペイン、ノルウェー、スウェーデン、ポルトガル、アイスランド、デンマーク、フランス、南アフリカ、アルゼンチン、カナダ、ニュージーランド、ウルグアイ、イギリス、ブラジル、アメリカ合衆国、ルクセンブルク、アイルランド、フィンランド、オーストラリアなどである。

同性婚を認める国と地域

国名	法律施行日	国名	法律施行日
オランダ	2001年4月1日	ウルグアイ	2013年8月5日
ベルギー	2003年6月1日	ニュージーランド	2013年3月29日
スペイン	2005年7月3日	イギリス <small>(北アイルランドを除く)</small>	2014年3月29日
カナダ	2005年7月20日	ルクセンブルク	2015年1月1日
南アフリカ	2006年11月30日	アメリカ合衆国	2015年6月26日
ノルウェー	2009年1月1日	アイルランド	2015年11月16日
スウェーデン	2009年5月1日	コロンビア	2016年4月28日
ポルトガル	2010年6月5日	フィンランド	2017年3月1日
アルゼンチン	2010年7月22日	マルタ	2017年9月1日
アイスランド	2010年6月27日	ドイツ	2017年10月1日
デンマーク	2012年6月15日	オーストラリア	2017年12月9日
ブラジル	2013年5月16日	オーストリア	2019年1月までに
フランス	2013年5月18日	台湾	2019年5月までに

4 おわりにー日本の動向は？ー

家族に関しては、日本も世界の国や地域と同様だと考えがちであるが、実は、その基礎となる考え方には大きな違いがあり、少なくとも日本の家族は、世界基準からは大きく隔たったものであるといえる。例えば、日本では、夫婦が合意することで離婚が成立する「協議離婚」が離婚の9割を占めており、これが一般的な離婚であると考えられているが、欧米諸国のほとんどの国では、裁判所の介入なしに離婚を認めていない。言い換えると、日本のような、「協議離婚」の制度を認めている国は存在していないのである。婚姻についても同様で、戸籍制度を持つ世界でも稀な^{まれ}国である日本は、役所に届出を提出するだけで婚姻が成立するが、欧米諸国では、教会で結婚式を挙げることで婚姻が成立する。このことから、当然、欧米の同性婚の考え方と日本では大きな違いが存在するといわれてきた。

このような中、最近になって、日本と類似の制度を有するアジアの近隣諸国で、同性婚に関する新たな動きが出てきた。2017年1月から、台湾の立法院（国会）で同性婚の導入に向けた議論が始まった。2016年に台湾法務部が行った世論調査では、国民の71%が同性婚に賛成するという結果が出た。そこで、推進派は、性的マイノリティの人々の差別を無くし人権を守るために、同性婚を民法で認める

ように求めている。これに対して反対派は、同性婚は婚姻を男女に限る憲法に違反し、子どもや社会にも悪影響を及ぼすと批判する。この問題は、大法官会議（一般には憲法裁判所といわれる）で検討され、婚姻を男女に限定するのは、憲法に反するという判断が昨年（2017年）示された。台湾の制度では、この「憲法不台致」の判断が示されて2年以内に法改正がなされないと、この判断に従った扱いが法的に適用されることになるので、2年以内に「同性婚」が正式に認められることになるわけである。

他方、韓国や日本では同性婚に対して、まだまだ消極的な意見が強い。2014年の韓国での世論調査では、LGBTを受け入れると回答したのは23.7%にすぎなかった。2016年にソウル大学の学生会長選挙でレズビアンであることをカミングアウトした女性が90%近い得票率で選出されるなど若い人たちを中心に、理解は広がりつつある。しかしながら、同性婚を認めるよう求めた訴訟では、2016年5月に原告側が敗訴している。

日本でも、2003年に性同一性障害者の性別変更特例法が制定されるなど、少しずつ性的少数者の差別解消や人権尊重に向けた動きが活発化してきた。特に、2016年3月に東京都渋谷区が同性カップルに証明書を発行するための条例を制定して同性パートナーの証明書を発行した。性的マイノリティに対する配慮を求める自治体は、東京都世田谷区、兵庫県宝塚市、沖縄県那覇市、三重県伊賀市、北海道札幌市、千葉県千葉市など広がっている。

この件について、2017年11月に、筆者が日本側のコーディネーターを務める「新・アジア家族法（日本・韓国・台湾）三国会議」で検討した。この会議は35年以上にわたり、戸籍制度を基礎とし儒教的考え方を共有する三国がそれぞれの国の家族に関わる法制度の課題や方向性について議論することで、望ましい制度構築を図るべく活動をしており、今回の会議の成果についても2018年8月に『同性婚や同性パートナーシップ制度の可能性と課題』（日本加除出版）として公表する予定である。

特集「違いと共に」

多様性と向き合う社会

—台湾の多元文化と「郷土言語」教育—

福岡大学人文学部文化学科教授 宮岡 真央子

執筆者紹介

宮岡 真央子（みやおか まおこ）

1971年生まれ。福岡大学人文学部文化学科教授。専門は文化人類学・民俗学、台湾原住民族研究。現在、福岡市文化財保護審議会委員、福岡市歴史文化基本構想検討委員会委員等を兼任。



鉄道の車内放送



私は、文化人類学を専攻し、台湾の先住民の歴史と文化を主なテーマとして研究をしている。フィールドワークのために台湾に通い始め、20年以上が経った。台湾の総面積は約36,000平方キロメートルで、九州よりやや小さい。福岡から台北の空港へは、飛行機に乗って2時間半余りで到着する。東京へ行くよりも少し遠いぐらいの距離だ。

初めて訪れた時に驚いたことの一つは、4種類の言葉で繰り返される鉄道の車内放送だった。4種類というのは、①中国標準語②閩南語③客家語④英語である。

①はいわゆる中国語、ただし中国大陸とは異なり表記には画数の多い「繁体字」が

使われる。台湾は1895年から半世紀間、日本による植民地統治下におかれた。1945年にそこから脱すると、今度は中国国民党政府の統治下に編入された。日本語に替わり新たな「国語」となったのが①である。以来、行政や教育などの公的場面ではもっぱら①の中国標準語が使われてきた。もっとも、それ以前から台湾に暮らす漢民族にとって中国北方の言葉に由来する①は外来語であり、それとは別の言葉が使われてきた。それが②と③である。

②の閩南語は、台湾で多数派を占める17世紀以降に現在の中国福建省南部から移民してきた人々の言葉で、「^{ホーロー}福佬語／^{ホーロー}河洛語」「台湾語（台語）」とも呼ばれる（「閩」は福建地方を表す）。③の客家語は、やや遅れて現在の中国広東省の東部や福建省近くから移民してきた「客家」と呼ばれる人びとの言葉である。①から③はいずれも中国語系の言葉だが、それぞれの語彙や発音には大きな違いがあり、互いに全く通じない。

そして、東海岸の花蓮や台東などの街では、駅構内や鉄道車内の放送にさらにもう1種類が加わる。かの地の先住民アミ（Ami 阿美族）の使う「アミ語」である。先住民の言葉が車内放送で流れるのは、この地域、しかもアミ語に限られる。それでも、このような車内放送からは、台湾の文化の多様さの一端をうかがい知ることができる。

先住民

中国大陸からの移民が押し寄せるはるか以前から、台湾には多様な集団が自律的に暮らし、独自の言語と文化を伝えてきた。今日の台湾で「^{ユンチュウミン}原住民／^{ユンチュウミンズウ}原住民族」と公称される先住民である。先住民の言語や伝統的生業、宗教的観念などの基層文化は、中国よりも東南アジア^{とうしや}島嶼部やオセアニアとの共通性が大きい。彼らの言葉はみな、言語学上の大分類でいえばこれらの地域と同系統の「オーストロネシア語族」に属する。

今日、先住民人口は約55万人（台湾全人口の約2%）で16の民族が政府に公認されている（2016年末現在）。その多くが、19世紀末まで漢民族による開発が及ばなかった中央山脈山麓部や東部平野など、大都市から離れた土地に居住してきた。伝統的な社会の在り方、伝統的住居・服飾の形態などは、民族ごとに大きく異なる。アミは先住民の中でも人口20万人と最大規模を誇るが、人口数百人という極めて小規模な民族も複数存在する。そして、みなそれぞれが独自の言葉を使



先住民ツオウの村のクバと呼ばれる男子集会所は、ツオウ文化の象徴的存在である。約10年に一度、村人の手で屋根の葺き替えが行われる（2004年）



ツオウのマスヴィという祭りの風景。右手には男子集会所が見える。この祭りは、2011年に「国家重要民俗」（日本の重要無形民俗文化財に相当）に指定された（2011年）

い伝えてきた（どの民族も固有の文字は持たない）。今では西部平野の都市圏に居住する人も多く、その比率は先住民人口の46%にのぼる。

他方、西部平野で早期に漢民族と接触し同化した先住民もおり、「平埔族」と呼ばれる。彼らは、日本の統治下で漢民族と同列に扱われ、その後も先住民とは公認されてこなかった。しかし、先住民としての承認を求める平埔族の粘り強い運動の結果、2017年8月、政府は平埔族を「平埔原住民」という新たなカテゴリーの先住民として承認することを閣議決定した。現在は具体的な制度の整備が進められている。

「郷土言語」教育

今世紀になり、義務教育の「郷土言語」という教科で、これら先住民の言葉を週1時間教えるようになった。「郷土言語」とは、台湾の人々が生活の場で用いてきた言葉、母語（mother tongue）を指す。閩南語も客家語もアミ語もその他の先住民の言葉もみなそれぞれの母語、「郷土言語」にあたる。この教科の誕生には、以下のような経緯がある。

1つは、政治と社会の変化である。国民党政府はかつて、一党独裁体制で中国の伝統文化や歴史を重んじる姿勢を貫いていた。政府の定める「国語」に対し、それぞれの母語は「方言」と呼ばれ、教室内での使用を禁じられた。テレビでも「国語」以外の言葉による放送には規制がかけられた。ところが、1980年代半ば

以降、民主化と言論の自由化が急速に進展し、それにつれて台湾独自の歴史や多様な文化を見直し大切にしようという気運が高まった。各地の学校では、郷土教育の一環で、その土地で使われてきた言葉を教える取り組みが始まる。やがて憲法に、「国家は多元文化を肯定し、原住民族の言語と文化を積極的に維持・発展させる」という一文が追加された（「中華民国憲法増修條文」第10条、1994年制定、1997年一部修正）。「郷土言語」教育は、「多元文化を肯定する」という国家理念を体現したものなのだ。

もう1つ、学校で教えなければならないほど、少数派の言語の衰退は深刻だという現実もある。先住民諸言語の中には、消滅の危機に瀕する言葉も多い。そのような言葉を「母語」とする子どもたちにとって、それはほとんど外国語に近く、「母語」とは捉え難い人も多数いるため、教科名は「母語」ではなく「郷土言語」と名付けられたという^(注)。

先住民言語の多様性

この「郷土言語」、いったい何種類になるのだろう。2002年、政府は台湾の国立政治大学原住民族研究センター（ALCD）に先住民諸言語の教材製作を委託した。ALCDは2006年までに、先住民の言語教材として合計40種類の教科書を刊行した。

政府公認の先住民が16民族だというのに、なぜそれほど多いのか。実は、1つの民族の中でも、地域ごとに発音や語彙の違いが大きい場合や、互いに通じない場合もある。1つの民族が1種類の言葉を使うとは限らないのだ。ALCDは、各地で話されてきた言葉の実態を丁寧に調査し、各地で母語復興に尽力してきた人たちや言語学者の協力を請いながら、政府公認の先住民16民族の言語教材として38種類を作成した。

さらにこの時は、目下政府公認の先住民に含まれない平埔族のうち、カハブ（Kaxabu 噶哈巫族）、パゼツヘ（Pazéh 巴宰族）と自称する人々の言葉、「カハブ語」と「パゼツヘ語」の教材もつくられた。どちらも話者はごくわずかだが、何とかそれを後世に伝えようと努力する人たちもいる。これらを合わせて、合計40種類である。

九州ほどの広さの土地に40以上の言葉があること、その一つ一つに教材が作成され、表記法が開発され、指導者が地元から輩出されていることに、感嘆の念を

抱かざるを得ない。そしてその背後には、各地で自分たちの言葉を残そうと奮闘する人たちがおり、それを支え協力する研究者たちがいる。

兄妹2人のための授業

私が20年来通う中部の山村、嘉義県阿里山郷は、先住民ツォウ（Tsou 鄒族）の村である。ツォウは人口約6,600人（2016年末現在）、言葉は村によって多少の発音の違いがあるが、ツォウ語の1種類である。

村で私が居候させてもらっていた家の娘で、私が「次女姉さん」と呼ぶ女性には、30代になる息子がいる。私が彼と初めて出会ったのは、彼が大学生になる頃だった。

その後、ツォウの女性と結婚して一男一女の父になった。彼の子どもたちは村の小学校を卒業すると、ある球技の強豪校として知られる平地の中学校に入学した。村からは遠いので、寮に住み、部活に励む毎日を送る。

村から離れたその中学校で、兄妹は週に一度「郷土言語」を学ぶ。彼らが選んだのはもちろんツォウ語だが、その言葉を選択したのは全校中で彼ら2人だけだった（その中学校の圧倒的多数の生徒は、閩南語を母語とする）。それでもその中学校は兄妹2人だけのために、ツォウ語の講師を招き、週に1時間のツォウ語の授業を開講している（もちろん、講師が手配できなければ、生徒の希望した言葉の授業を開講することはできないし、そういう事例も実際にはあるようだ）。

多様性と向き合う社会

言葉の習得に、週1時間は十分とは言えない。しかし、たとえ週1時間であれ公教育の場でそれを保障しようとする姿勢は、尊いものに思える。台湾に多くの言葉が存在し、それらを母語としてきた異なる文化的集団が数多く存在すること、そしてどんな弱小言語でも、それらはみな等しく学ぶべき価値を持つのだという



ツォウの村の小学校の入口。中国語の校名の下には、英語とツォウ語の訳語が並び、壁画はこの村に住むツォウの青年画家の作品（2014年）

ことを、子どもたちに実感させる場になっているだろうと考えるからである。

聞くところによれば、2018年からの新たな教育課程では、東南アジアの諸言語もこの「郷土言語」の選択肢に加わるという。なぜか。1990年代以降、農村部を中心に台湾の男性がベトナムやインドネシアなど東南アジア諸国の女性と結婚する事例が激増した。そのようなカップルの間に生まれ、小中学校で学ぶ子どもの数が、2013年には20万人を超えたというのだ。東南アジア出身の母を持つ子どもたちにとって、母の話す言葉は当然「母語」である。それらも新たな「郷土言語」として学校教育で教える機会を設けようということだ（ただしこの背景には、東南アジア諸国家との関係強化を目指す現政権の思惑もあると指摘されている）。

台湾は、複雑な歴史を持つ多民族社会である。それがゆえに、さまざまな違い、多様性に向き合わざるを得ない。そして、人々は果敢にその違い、多様性に向き合おうとする。

さて、日本で暮らす私の周りにも、さまざまな違いは存在する。それら身近な違い、多様性とどのように向き合い、付き合えばよいのか。台湾社会の果敢さを前に、いつも考えさせられるのである。

(注)教科名は当初中国語で「郷土語言」と表現され、後に「本土語言」と改められた。ここではどちらの訳語も「郷土言語」に統一している。

特集「違いと共に」

不自由を力に

福岡大学法学部准教授 所 浩代

執筆者紹介

所 浩代 (ところ ひろよ)

福岡大学法学部准教授。専門は労働法。福岡県労働委員会公益委員、福岡地方労働審議会公益代表委員。近著に「18歳から考えるワークルール」(共著・法律文化社)。



北海道で起きたある裁判

先日、久方ぶりに、大学時代を過ごした小樽を訪れた。日本労働法学会に出席するためだ。

大学の先生は、教員と研究者という2つの顔をもっているが、後者の大事な務めの一つに、「研究成果報告」というものがある。私は今年、その成果報告を先の学会で行うことになっていた。労働法の学会というのは、学界の重鎮だけでなく、実務家（弁護士や社会保険労務士）や官公庁の労働政策担当者など、労働の現場に関わる専門家が集結しており、議論では、そのそれぞれから厳しいコメントが報告者に投げられる。私は学会報告を苦手としていたが、今回は故郷である北海道での、しかも母校である小樽商科大学での開催ということもあって、いつもよりはリラックスした気持ちで、当日を迎えた。

報告の朝、札幌にある両親の家から母校へと向かう。私は20数年ぶりに、当時利用していた小樽行の各駅停車に乗り込んだ。実家から母校までは、小一時間ほどの距離である。札幌—小樽間は、海岸線をなぞるように線路が敷かれており、電車が札幌市内を抜けると、その後は、小樽に着くまでの半時間ほど、車窓に広

がる日本海を楽しむことができる。その日は、やわらかな朝日が斜めに海面に差し込み、空と海の境界線が淡く霞んでいた。

しばらくすると、馴染みのある駅名がぼつぼつと耳に入ってくる。「つぎは～『ほしおき（星置）』～、ほしおき～」（あっ、ちょうど半分来たな）、「つぎは～『あさり（朝里）』～、あさり～」（ああ、冬に、このスキー場で「体育」の授業があったなあ）。

20数年前の記憶を辿りながら郷愁に浸っていると、「つぎは、『みなみおたる（南小樽）』～、みなみおたるう～」とのアナウンスがあった。私は、そのアナウンスを聞いて、ある労働裁判を思い出した。それは、脳出血を発症し、その後遺症で右半身に麻痺が残り、体育の実技ができなくなった教員が、職場への復帰を拒否され、復職を求めて高校を訴えたというものだ。裁判の舞台となった私立高校は、この「南小樽駅」からほど近い場所にある。

この事件は、一審と二審で結論が大きく異なり、最終的には労働者の敗訴に終わった。障害のある人を職場でどのように受け入れるべきかという、大事な問題が含まれているので、私は、しばしばゼミの教材として紹介し、学生たちに「あるべき姿」を考えてもらっている。事件のあらまは、次のようなものである。

体育では「先生のお手本」が必須？

平成5（1993）年秋、小樽にある女子高の教員であったX（当時46歳）は、授業中に脳出血を発症し、命は取り留めたものの右半身に麻痺が残った。Xは、復職を目指して懸命にリハビリに取り組み、その病状は杖を使えば自力で歩行ができるようになるまでに回復した。利き手である右手は麻痺し不自由であったが、その後の訓練で、左手を使えば、字を書いたり食事をしたりすることができるようになった。またXは、休職中に通信講座で高校の「地理歴史」と「公民」の教員資格を取得し、「高校教諭一種免許状」を得て復職の準備を進めていた。

Xは、発病から2年が過ぎたところで高校に復職を願い出たが、学校側は、Xの申し出を受け入れなかった。学校は「正規教員として雇用を継続することは



小樽駅のガス灯

できないが、時間講師（非常勤教員）として雇い直すことはできる」と回答した。Xがこれを受け入れなかったため、学校側はXを解雇処分とした。

Xは、「障害があっても、それを補う工夫を施すことによって保健体育の授業を行うことができるし、不足なところがあるならば、社会の科目も担当することができるので、『業務に耐えられない』として自分を解雇することは法的に許されない」とし、高校を相手に裁判を起こした。

地裁の裁判官が出した答えは…

平成10（1998）年3月、第一審を担当した宮森裁判長は、次のように説示して、X勝訴の判決を下した（札幌地裁小樽支部・平成10年3月24日判決）。

たしかに、学校側が主張するようにXは、体育の授業において、実技の手本を生徒に見せることができないし、たとえば生徒がケガをするといった緊急事態が起きた場合にも、生徒を自分で運ぶことができない。しかし、障害がなくても、人は高齢になれば自ら実技の手本を見せることが難しくなるし、生徒を自ら持ち上げて運ぶことだって難しくなる。そのような場合には、たとえば、授業中は生徒にまず実技を行わせて、その良い点や悪い点を口で説明するといった対応をすれば足りるし、ケガなどの緊急事態においては、他の生徒に指示をだして保健室に運ばせたり他の教職員に協力を求めたりといった対応ができる。

またXは、緊張すると「どもり」が出るため、説明が聞きづらくなったり、麻痺により字を書くのが遅かったりするが、それは事前にプリントを作成し配布する、模造紙に図表を用意し黒板に貼り付ける等の工夫をすれば足りる。

授業以外の業務を考えると、その一部についてはX一人で対応できないものもあるが、それらの業務はそこにいる教員の得手不得手を考えて柔軟に割り当てることができるものであるし、実際にその高校では、複数の教員が協力しあって業務を回していた。

さいごに、Xが障害を負っているにもかかわらず、これを克服するために懸命に努力し業務を遂行している姿を生徒に見せることは、彼女らの人格の形成・発展に良い影響を及ぼす可能性があるから、教育を担う学校としてはこの点を考えて処分を決めるべきである。

以上から、Xの状態が「身体の障害により業務に耐えられない」とは言えず、高校がXを解雇したことは違法である。

ひっくり返る判決

このように、第一審の裁判官は、高校の教員という職業の特徴を考慮して、障害と向き合いながら仕事に励むという先生の姿を示し、「違い」を受け入れ協力し合う社会の大切さを生徒に示すことこそが、学校という教育機関の役割であると説いた。右半身不随という重い障害がある教員を受け入れることによって、職場の状況は大きく変わる。たしかに以前とは別な配慮が必要で、他の教職員にもそれまでとは違う仕事の進め方が求められることになるであろう。しかしながら、裁判官はそれでも、病気や障害は人間であれば誰しも抱えるリスクであり、そのような不自由と向き合う人を受け入れ支援する体制をつくる努力を放棄することは許されないと考えた。障害者の解雇をめぐる裁判は多いが、ここまで明確に共生社会の理念を示して使用者に雇用の維持を求めた判決はなく、その説示は、多くの人を勇気づけた。ところがこの結論は、その後にかかれた控訴審において180度ひっくり返ることになる。

平成11(1999)年7月9日、控訴審を担当した大出裁判長は、地裁判決を取り消し、労働者敗訴の結論を下した(札幌高裁・平成11年7月9日判決)。その理由は、次のようなものだった。

Xは、高校で行われる運動競技の実技のほとんどを自ら行うことができず、座学の授業をみても、話す速度や板書の速度が、高校の教員として通常求められるレベルに達していない。またXの麻痺の状態をみると、生徒の緊急事態に適切な措置がとれないことが予想される。授業以外の仕事、たとえば学園祭や修学旅行といった校内イベントの指導も、Xは単独でそれを行うことができない。またXは、保健体育の教員として雇用されたのであるから、公民や地理歴史の教員としての業務ができるという点は、「業務に耐えられる」かどうかを判断する際に考慮することはできない。

Xは、「身体の障害により業務に耐えられない」状態であり、高校が行った解雇処分は違法なものとは言えない。

不自由を補う力がチームを強くする

小樽の女子高でおきた労働裁判は、このように労働者敗訴という結末で終わった。私は、「南小樽」の駅舎を車窓から眺め、「Xもこの駅からあの高校に通っていたんだろうな。5年にわたる裁判を戦い続けるほどに、教員という仕事に愛着

があったんだろうな」と、しみりしてしまった。

2020年、東京でオリンピックとパラリンピックが開かれる。その影響もあってか、テレビでは時折、障害のあるスポーツ選手の競技映像が流れている。選手たちの躍動する姿は、障害が「ある」とか「ない」とかを語るレベルを離れて、スポーツの楽しさをストレートに伝える。障害がある教員は体育の先生にふさわしくないとか、障害がある教員は生徒の緊急事態に対応できないとか。私たちは、いつも、障害のない人のやり方を「標準」に据えて、障害のある人の「できないこと」だけを数えていないだろうか。

右半身に麻痺がある先生が、グラウンドで生徒と一緒にスポーツを楽しむ。保健の授業で、自らの闘病経験を話してくれる。修学旅行では、先生と一緒に段差のある道路や使いにくい改札口を見つけて、ユニバーサル・デザインを考えてみる。そうやって、障害のある人と時を共に過ごして互いの違いを認め合うことが、すべての人が暮らしやすい社会を創る契機となる。不自由を補う力は、チーム全体を強くするはずである。事件の舞台となった小樽の高校には、そういった柔軟な組織力が十分に育っていなかったように思えてならない。

高裁の裁判官の判断は、組織の効率性を重んじる立場からみれば、納得のものである。しかし、最初から「できない」と排除するのではなく、「できること」に着目して組織のあり方を変える勇気を忘れてはならない。効率重視のきりきりとした学校では、懐の深い大人を育てることはできないだろう。

小樽のやわらかな水面は、日本列島の左肩をなでるようにして福岡の海へとつながっている。故郷で起きた事件が伝える教訓を福岡の地につなぎ、互いの「できること」を持ち寄りあえる心を、学生の中に育てていきたい。



日本労働法学会で報告をする筆者

RoboCup から見た、 ロボット・人工知能と人間の違い

福岡大学工学部電子情報工学科助教 秋山 英久

執筆者紹介

秋山 英久 (あきやま ひでひさ)

1976年生まれ。福岡大学工学部電子情報工学科助教。専門は知能情報学。RoboCup サッカーシミュレーションを中心に、マルチエージェントシステムの研究に従事。RoboCup 世界大会で3回の優勝。



はじめに

ここ数年、人工知能 (AI) 技術に関する話題が度々耳に入ります。身近な話題としては、将棋や囲碁でコンピュータが人間に勝ったことが挙げられるでしょう。人工知能搭載を謳ったさまざまな製品が発売されており、最近では、音声対話機能を持った製品が話題になっています。ロボットに関して言えば、掃除ロボットは当たり前のように使われるようになりました。自動車の自動運転も人工知能技術の応用の一つです。普段の生活にロボット・人工知能が入ってきつつあると感じている方は多いでしょう。

身近になりつつあるとはいえ、ロボット・人工知能と聞くと、どのようなものを想像するのでしょうか。映画に出てくるような人間と同等以上の知能を持ち、人間を凌駕し脅かす存在を想像する方もいるかもしれません。では、現在研究されているロボットや人工知能は、人間と比べてどのくらいの能力を持っているのでしょうか？

私は、「RoboCup (ロボカップ)」というロボット競技会に長年参加しています。ロボット競技会と書きましたが、私自身は実機ロボットを扱っていません。

私は、サッカーシミュレーションリーグという、コンピュータ上で仮想的にロボットを扱う競技に関わっており、人工知能ソフトウェアを主な研究対象としています。今回は、RoboCup への取り組みを通して私が感じてきた「ロボット・人工知能と人間の違い」を説明したいと思います。

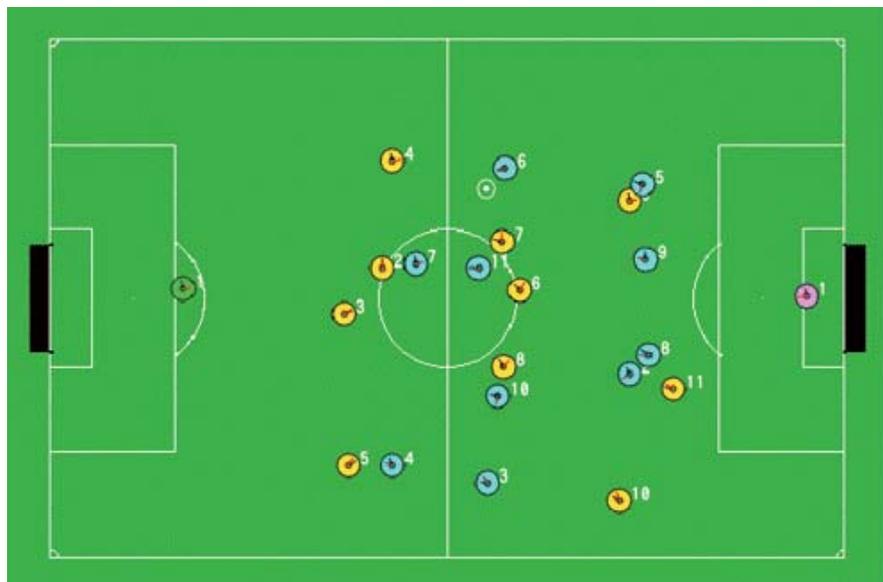
RoboCup とは

RoboCup は、ロボット工学と人工知能の融合・発展のために自律移動ロボットによるサッカーを題材として提唱されました。日本の研究者が主体となって開始されたプロジェクトですが、現在では世界中に活動が広がり、各地で研究開発が進められています。RoboCup の最終目標は「2050年にサッカーの世界チャンピオンチームに勝てる自律移動ロボットのチームを作る」と設定されています。自律移動ロボットによるサッカー競技を実現するには、広範囲の技術を統合する必要があります。競技会の形式を取ることで多くの研究者による競争と協調を促し、研究開発を推進することがRoboCup の狙いです。そして、RoboCup における研究開発成果をさまざまな分野の基礎技術として波及させていくこと、これがRoboCup の目的となっています。

自律移動ロボットによるサッカー競技として始まったRoboCupですが、現在ではサッカー以外を題材とした競技も行われています。2017年大会では、災害救助へのロボット技術の応用として「レスキュー部門」、日常生活におけるサービス対応を想定した「@ホーム部門」、産業分野での応用として「インダストリアル部門」、次世代の技術者育成を目指した「ジュニア部門」などが組織されています。これらの部門内でさらに幾つかのリーグに分かれて競技が行われています。2017年大会のサッカー部門では、小さいロボットとフィールドで行う「小型」、縦横50cm未満のロボットが大きいフィールドで競技する「中型」、ヒト型のロボットを使う「ヒューマノイド」、各チームが同じロボットを用い、プログラミング性能を競う「標準プラットフォーム」、そして、コンピューター上のフィールドで人工知能プログラミングされたプレイヤーがサッカーをする「シミュレーション」の5つのリーグがありました。各リーグ内でさらに幾つかのサブリーグに分かれる場合があります。シミュレーションには2Dと3Dの2つのサブリーグが存在します。私が参加しているのは、サッカーシミュレーションの2Dリーグです。

サッカーシミュレーションは、2D、3Dともに実機ロボットを使わず、コンピュータ上の仮想フィールドでサッカーの対戦を行います。見た目にはテレビゲームのサッカーのように見えますが、一体一体の選手が独立しており、全ての選手を統一的に制御することはできません。プログラムされたソフトウェアのサッカー選手を動かす、という点では違いはありませんが、3Dが二足歩行ロボットのシミュレーションによるサッカーを目指しているのに対して、2Dではかなり単純化されたシミュレータを採用しています。2Dリーグのシミュレータではボールや選手は円で表現されています。また、あくまで2次元平面上での運動であるために、これらが空中を飛ぶこともありません。しかしながら、サッカーのゲームとしての複雑さは十分に再現されており、チームワーク研究のプラットフォームとして利用されています。

チームワークという言葉の意味を調べると、「同じ目標を達成するためにチームメンバーで協働すること」などとなっています。チームワークを扱う上でサッカーはまさしくうってつけです。チームの目標は試合に勝利することで、11人の選手それぞれが自律的な判断を求められます。熟考する時間のあるボードゲーム



2Dリーグのシミュレータを実行した様子

とは異なり、刻々と状況が変化するサッカーでは瞬時の判断が求められます。そのため、選手間のコミュニケーションを充分に取ることもできません。また、個々の選手が盤面（フィールド）の状況を完全に把握することは困難であり、不完全な情報に基づいて意思決定をする必要もあります。このように、サッカーというゲームは、従来の人工知能研究が扱ってきたゲームよりも複雑、高難度化した研究対象といえます。

ロボット・人工知能と人間の違い

将棋・囲碁ではコンピュータが人間よりも強くなったという話をしました。では、サッカーではどうでしょうか？まず、実機ロボットに目を向けてみましょう。

実機ロボットによるサッカーは、「車輪型ロボット」と「二足歩行ロボット」に大きく分類することができます。近年の車輪型ロボットは高い機動力、ボールキック性能を発揮できるようになっているだけでなく、サッカーとしてのチームワークもある程度見せるようになっていきます。運動性能に関しては人間に勝る部分もあるでしょう。しかしながら、環境認識能力、戦術的な判断力と言った点ではまだまだ人間の方が圧倒しています。RoboCup世界大会では中型リーグ優勝チームと人間（プロ選手ではなくRoboCupに参加している研究者）とのエキシビジョンマッチが行われますが、人間チームが圧勝しています。もう一方の二足歩行ロボットに関しては、運動制御の部分に依然として課題が残っています。歩行はスムーズになってきていますが、走る・跳ぶといった激しい運動が可能なロボットはまだ実用化されていません。動物が無意識に行っている姿勢制御をロボットで実現することは、未だに大きな壁となっているのです。とはいえ、この数年で非常に高い運動性能を持つロボットが現れ始めており、これらの生産が低コスト化すれば新しい世界が見えてくるかもしれません。

ロボットが人間と同程度の運動能力を手に入れたとしても、それだけでロボットが人間と同等の性能を発揮することはできません。例えば、ロボットと人間の最大の違いの一つとして、「自己再生・修復の能力」も挙げられるでしょう。人間は多少の疲労や怪我であれば自力で回復しますが、ロボットは部品に故障が発生したらそれを交換しなければなりません。連続稼働による劣化が自然に回復することはありません。これらはもちろん人間がメンテナンスします。ロボットが自分の不具合を自分自身で修復する、という能力はサッカーとは別の次元に存在



RoboCup 世界大会の様子

する困難なタスクです。

次に、シミュレーションについて考えてみましょう。2Dリーグでは、ボールを蹴る、前に走る、体の向きを変える、などの制御コマンドを1秒間に10回実行することで選手が動作します。1秒間に10回という細かな意思決定を繰り返すことは、人間には不可能です。行動を起こす際の反射神経という意味では、人間はコンピュータに全く太刀打ちできません。このような、精密な計算を高速に実行する、同じような計算を何度も繰り返す、といった作業は人間が不得意とするものです。

一方で、人間は得意でコンピュータは不得意なことも多くあります。例えば「大局観」「適応能力」「他者の意図推定」などが挙げられます。全体を見渡し、中長期的な戦略を立て、それに基づいて個々の動きを決めていく、という思考をコンピュータで実現することは難しいです。サッカーであれば、試合の展開を観察・分析してチームの戦略・戦術を修正する、というチーム全体的話だけでなく、先の展開を見越して現時点では一見悪手に見えるような動き（^{おとり}となる動きなど）をする、という数十秒単

位の予測ですら、汎用性の高い技術・手法の確立には至っていません。相手の意図を読むことも非常に難しいです。もちろん、人間でもできない場合はありますが、それでもわれわれは何かしらの方法で周囲の意図を予測して行動しようとしています。自動車の運転を考えれば分かりやすいでしょう。周囲のドライバーが何をしようとしているのか全く予想がつかなければ、運転などできようはずがありません。だから難しいのです。同じようにサッカーは敵味方を含めて常に相

手の意図を読み、それに適応して先手を打つように行動し続けなければチームとしての性能を高めることはできません。

RoboCupを通して見ると、ロボット・人工知能は一つ一つの能力では人間を上回っているものがあるものの、それらを統合して運用する、複数の行動主体間の調整を行う、といった能力は人間には遠く及んでいないことがよく分かります。もちろん、これらは今後の研究課題ではありますが、より人間に近い汎用人工知能の実現はまだ遠い先になりそうです。

おわりに

今回は、RoboCupから見たロボット・人工知能と人間の違いについて説明しました。現在ブームとなっている人工知能は、過去の経験から推測する「教師あり学習」と呼ばれる手法が中心です。画像認識能力などで人間よりも高い性能を示すこともあり、これによって人間の作業支援が実現されるだけでなく、特定の仕事を奪うこともあるでしょう。しかしながら、ロボット・人工知能はあくまで道具です。人間の代わりに動いてくれる道具としていかにうまく使いこなすか、を考えることが重要だと思います。

〈参考〉

RoboCup 公式ウェブサイト <http://www.robocup.org/>

臨時特集「九州北部豪雨」

災害に備える 2017年7月九州北部豪雨について

福岡大学工学部社会デザイン工学科教授 渡辺 亮一

執筆者紹介

渡辺 亮一（わたなべりょういち）

1965年生まれ。福岡大学工学部社会デザイン工学科教授。福岡大学水循環・生態系再生研究所所長。水循環・生態系再生に関わる研究に従事しており、ボランティアサークル「はかたわん海援隊」を結成し「水」をテーマに、さまざまな地域環境保護・環境意識啓発に携わる。水循環に関しては、雨水を生活に活用する設備を備えた自宅「雨水ハウス」で日々実験を行っており、有明海再生に向けた干潟再生にも取り組んでいる。



1. 今回の水害の特徴

2017年7月5日13時頃から福岡県朝倉市周辺に降り始めた雨は、これまでにわれわれが経験した降雨の中でもまさに豪雨と言える強度の雨であった。図1は朝倉杷木地区に降った降雨量を福岡県のデータを基に示している。注目するポイントとして、短い時間に強い雨が継続したという点が特徴である。一般的には、連続的に250mm以上の雨が降った場合に、土砂災害が発生する可能性が高くなると言われている。図1から分かるように、今回の豪雨では2017年7月5日13時台から21時台までの9時間で785mmの雨が降っている。1時間平均で87mmの雨が9時間降り続けている。特に、14時台から16時台までは、1時間に93、124、114mmの豪雨が3時間連続で降っていることが分かる。われわれが都市部の社会基盤整備を行う際に、設計の目安としている豪雨は1時間にどんなに強い雨でも、概ね1時間に100mm程度であることからすれば、今回の雨は、まさに数百年に一度レベルの豪雨であったと推察される。

このため、朝倉市、東峰村を中心として花崗岩質の山では斜面崩壊がいたると

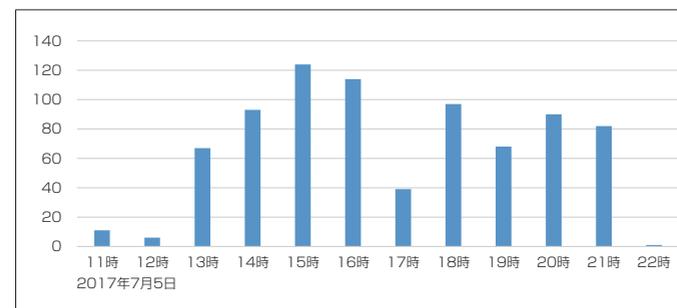


図1 朝倉杷木地区 降雨量 (mm)

ところで発生し、濁流となって沢を下り、下流の集落を埋め尽くしていった。また、同時に山を覆っていた木が流木となり、一緒に流下することでその破壊力は通常では考えられないような状況となり、濁流が川筋を流れずに街中を流れていくような状況になっていた。

この地区は2012年7月に発生した九州北部豪雨でも浸水被害を受けており、5年間で2度目の被災となった。ただし、前回と今回では大きく被災状況が異なっている。写真1（朝倉杷木地区：出典 Google Map）は、2012年7月に被災して8カ月後の復旧している途中の写真である。この時、浸水被害も発生しているが、護岸が被災した箇所を復旧している様子が分かる。写真2は、今回の被災直後に筆者がほぼ同じ地点で撮影したものである。この写真から、川筋が全て土砂で覆い尽くされ、周辺の道路も含めて全て流路となって流木とともに流れ下った様子が確認される。特に、写真中の左側住宅の2階部分に流木が突き刺さっていることから、概ね住居の一階部分まで浸水していたことが分かる。また、手前にあった小屋は完全に流出している。

実は、5年前朝倉杷木地区での水害復旧ボランティアで、学生と一緒に泥の掻き出し作業を行った。まさかわずか5年後に再びこのような大雨によって被害が発生するとは、私としても想定外であった。前回のボランティア時には、復旧までの期間は2週間程度で、学生ボランティアが土砂を掻き出すなどの作業がスムーズに行えたと記憶している。しかしながら、今回の被害は、前回と比較にならない規模で発生しており、いまだに復旧作業が進んでいない家屋がたくさんあるのが実情である。



写真1

撮影日: 4月 2013 © 2017 Google



写真2

2. 福岡大学周辺での水害

福岡大学がある福岡市城南区および周辺で発生したここ最近の水害は2009年7月24日に発生した短時間の大雨による浸水被害があげられる。今回、朝倉杷木地区で発生した水害との違いはどこにあるのか？図2は、2009年の大雨の10分ごとの降雨量と同区を流れる樋井川の水位を表している。総降雨量196mmであるので、概ね今回の九州北部豪雨の4分の1程度の降雨と考えられる。1時間雨量の最大値としては90mmの雨で、樋井川の水位は急激に上昇し、19時40分過ぎに樋井川からの越水が始まり浸水被害が拡大した。しかしながらこの時、浸水被害は少なくとも18時30分には内水氾濫（下水道管からの逆流）として始まっていたと

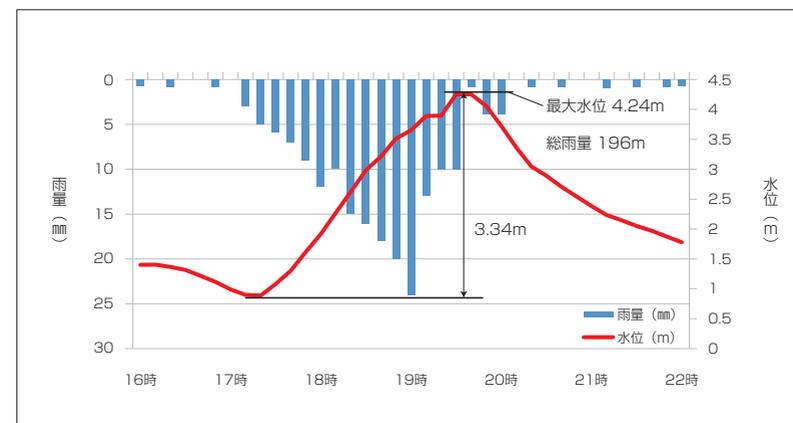


図2 2009年7月24日における樋井川（田島橋付近）の降雨量と水位

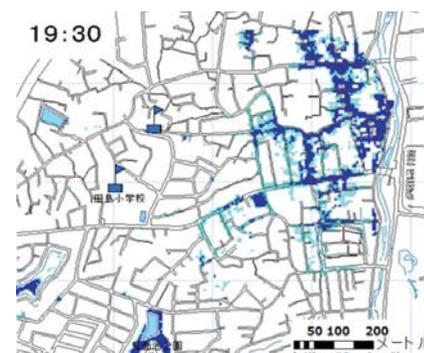


図3 田島校区の浸水状況（19：30）

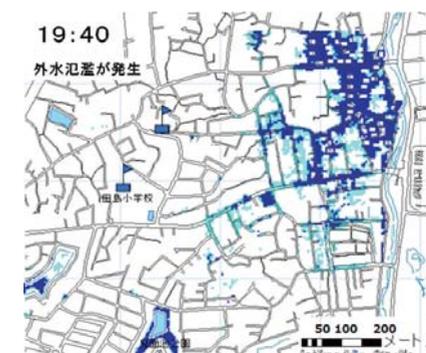


図4 田島校区の浸水状況（19：40）

考えられる。テレビなどを通じて避難勧告が出され始めた19時30分過ぎには既に樋井川沿いの家屋周辺は浸水している箇所がほとんどで、指定の一時避難所に向かうことは不可能な状態であった（図3・図4、田島校区の浸水状況参照）。

この時の大雨は、城南区長尾・田島・別府・鳥飼校区に甚大な被害をもたらした。これを契機に、樋井川整備計画が策定され前回の豪雨に対応する整備が行われた。この整備は5カ年で行われ、樋井川については前回と同じ豪雨であれば、浸水被害の発生しにくい河川整備が完成している。しかしながら、あくまでも前回と同様の降雨パターンでの被害軽減が担保されているのであって、どんな豪雨

が来ても大丈夫なわけではないことをよく理解しておく必要がある。

今回、朝倉杷木地区に降ったような豪雨が福岡市城南区に降った場合にどのような事態が発生するかを考察することは全く意味がないとは言いきれない側面があるため、以下に、2009年の豪雨を上回る規模の大雨が発生した際に城南区内で発生する恐れがある土砂災害に関して考察する。

このクラスの雨が、福岡市の油山周辺に降ったと仮定すると、花崗岩質で形成される油山で斜面崩壊が発生し、沢筋に位置する箇所は土石流の被害を受けることが想定される。2014年8月20日に広島市安佐南区で発生した土砂災害も同じような花崗岩質の部分で発生した災害である。この時は、今回の朝倉での水害と同様に線状降水帯が発生し、3時間で200mmを超える大雨によって土石流が発生し、大きな被害をもたらしたことは記憶に新しい。この時、私はテレビのニュースを見ていて城南区周辺とのある共通点を記憶している。実は、この時の土砂災害の避難所が梅林（ばいりん）中学校となっていたところである。この「梅林」という漢字は、城南区内では「うめばやし」と読む。この「梅林」という地名は、実は土石流と深い関係にあり、内閣府のウェブサイト以下のような記述がある。

「梅」の読みの「ウメ」は「埋める」の意味を持っていて、埋立地であったこと、土砂崩れの土で埋まったところを示しています。⁽¹⁾

すなわち「梅林」は、土石流が流れ下ってきて埋まったところにできた林を意味していると推測される。おそらく、昔の人々は地名にこのような特徴ある名前をつけることで、後世の人々に警鐘を鳴らしていると考えられる。

3. これまでと同じ、それが災害…「天災は忘れた頃に来る」寺田寅彦

以下は、寺田寅彦の随筆『津浪と人間』から抜粋し、そのまま記載している。

昭和8年3月3日の早朝に、東北日本の太平洋岸に津波が襲来して、沿岸の小都市村落を片端から薙ぎ倒し洗い流し、そうして多数の人命と多額の財物を奪い去った。明治29年6月15日の同地方に起こったいわゆる「三陸大津波」とほぼ同じような自然現象が、約満37年後の今日再び繰返されたのである。

同じような現象は、歴史に残っているだけでも、過去においても何遍となく繰返されている。歴史に記録されていないものがおそらくそれ以上に多数にあったであろうと思われる。現在の地震学上から判断される限り、同じ事は未来においても何度となく繰返されるであろうということである。

こんなに度々繰返される自然現象ならば、当該地方の住民は、とうの昔に何かしら相当な対策を考えてこれに備え、災害を未然に防ぐことが出来ていてもよさそうに思われる。これは、この際誰しもそうおもうことであろうが、それが実際はなかなかそうならないというのがこの人間界の人的自然現象であるように見える。

学者の……以下省略⁽²⁾

この一文は、寺田寅彦が1933年に発生した三陸大津波に関して考察している随筆である。実はこの後、2011年3月11日に発生した東日本大震災にもつながっていくのであるが、やはり同様に甚大な被害が発生している。私は、2009年の樋井川周辺での水害を契機に、2010年田島校区、2011年鳥飼校区、2012年長尾校区において水害避難ガイドブックを地域の防災委員の方々と作成してきた。本当は、4年目の2013年に別府校区でも作成する予定であったが、地元から必要がないとのことで、作成を断念した。この水害避難ガイドブック作成時、当初から非常に熱心に取り組まれたのは田島・鳥飼校区であったのを記憶している。田島校区は水害発生後1年目に作成したため、防災委員の方々も危機感を持って作成されていたのを覚えている。また、2年目の鳥飼校区は1963年にも浸水被害が発生したことを記憶されている方も多く、水害に対する危機感が他の校区よりも数段高いレベルにあった。これは、鳥飼地区は地質学上「鳥飼低地」と記載されていることとも無関係ではないと考える。しかしながら、鳥飼校区は高層のマンションが多く、浸水被害の記憶がない方も多く住んでおられ、意識の高い方との差が大きかったことを記憶している。3年目の長尾校区では、最初の説明時に防災委員の方々から、「もう必要ない」と言われたのをはっきりと記憶している。そして4年後は……である。

われわれ、大学に勤務し研究する者は、寺田寅彦の言う「人間界の人的自然現象」をよく理解しておく必要があると思われる。おそらく、今回の朝倉杷木地区で発生した水害も時を経ていくと、記憶があいまいになり、危機感も薄れてい

くことは当然ながら考えられる。ただし、われわれは非常に長いスパンでの記録と知恵を持ち合わせている。この「記録」と「知恵」は大学が地域に還元可能な財産であり、一番の地域貢献になると思われる。

〈参考文献〉

- (1) 内閣府ウェブサイト
- (2) 寺田寅彦『津浪と人間』寺田寅彦全集 第七巻

臨時特集「九州北部豪雨」

「災害医療」

～福岡大学病院 DMAT の活動～

福岡大学病院救命救急センター副センター長 喜多村 泰輔

執筆者紹介

喜多村 泰輔（きたむら たいすけ）
1968年生まれ。福岡大学病院救命救急センター副センター長、日本 DMAT 隊員。福岡大学病院講師。



2017年7月5日から6日にかけて対馬海峡付近に停滞した梅雨前線に南からの暖かく非常に湿った空気が流れ込みました。この影響で九州北部に線状降水帯が形成・停滞したために猛烈な雨が継続し、福岡県朝倉市や大分県日田市などの地域において土石流や河川の氾濫がおきました（写真1）。



写真1 土砂で埋め尽くされた田んぼには流木も散乱している

私たち福岡大学病院でも上述のように、7月5日からの大雨による被害状況について情報収集していました。当日夕方の時点では、大きな被害は出ていないとの情報を得ていました。しかし、翌朝には甚大な土砂災害が発生しているとの情報から「DMAT」派遣の可能性があると考え、福岡大学病院は DMAT を派遣待機としました。



DMATとは

ところで、DMATというものをご存知でしょうか？最近では、東日本大震災や熊本地震などでDMATが派遣されたというニュースが流れたり、DMATを題材としたドラマが放送されたこともあり、認知度が高まってきました。

DMATとは「Disaster Medical Assistance Team」のことで、日本語では「災害派遣医療チーム」といいます。災害急性

期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チームと定義されています。具体的には医師・看護師・業務調整員（医師・看護師以外の医療職および事務職員）で構成され、県から認定されている「災害拠点病院」の職員が「日本DMAT隊員養成研修」という4日間の講義や実践訓練を受けたのち、病院がDMATとして厚生労働省から認定されるというものです。

実際の出動の際は、それぞれの病院から出動しますが、各チームがバラバラに活動をしてはその効力は半減します。そのため、各都道府県単位で「DMAT調整本部」が組織され、複数の病院のDMATが一緒になって協力して組織的な活動を行うことになっています。

さて、話を九州北部豪雨災害に戻しましょう。今回の災害では福岡大学病院DMATは2隊7人を派遣しました（福岡県庁のDMAT調整本部に1隊2人、朝倉の災害現場に1隊5人）。この2隊がどのような活動を行ったのか、以下に紹介していきます。

福岡県庁内DMAT調整本部派遣

今回、まず派遣要請があったのは福岡県庁に立ち上げられた「福岡県DMAT調整本部（以下、DMAT調整本部）」の活動でした。7月6日16時36分に2人の派遣要請があり、筆者（医師）と福岡大学病院庶務課員1人の派遣が決まりました。同55分に福岡大学病院を出発し、福岡県庁に開設されたDMAT調整本部に向かいました。前日の夜から情報収集を続けていたチームとの引き継ぎでした。

「本部」と言っても、県庁の医療指導課を間借りし、ホワイトボード数枚と長机



写真2 福岡県DMAT調整本部（福岡県庁内）



2つで作った小さな「本部」でした。田川市立病院2人、聖マリア病院1人に本院2人を加えた5人で、医療指導課の方々や県庁から近い九州大学病院の医師の支援を受けながら活動しました（写真2）。

県の災害対策本部や朝倉市の災害対策本部とDMAT調整本部から情報を収集しました。被害情報はかなり錯綜さくそうしており、「朝倉市で100人以上の住民が孤立している」「その中に治療を必要としている人がいる」「重篤な傷病者が4人いる」という情報や、「東峰村（小石原・宝珠山）にも孤立地域があり、自衛隊が調査中」との情報など、多岐にわたりました。

同時に各地域の避難所開設状況と場所について市町村のウェブサイトや災害対策本部からの情報を基にデータ収集を行いました。被災情報や避難所の情報は、広域災害救急医療情報システム（EMIS：イーミス、災害時の情報共有システム）に入力します。この情報は、DMATやJMAT（日本医師会災害派遣チーム）が行う避難所での医療ニーズ調査に用いられるものです。従って、正確に入力しないとそれぞれのチームが迷子になってしまう可能性があり、手分けして注意深く行いました。また、7月7日朝方には北九州や宗像でも水害の危険性が高まり、避難所開設の情報がもたらされるなど、休む間もなく情報収集に努めました。

もちろん、情報収集だけを行っていたわけではありません。現在派遣中のDMATの交代要員として朝倉市役所DMAT調整本部へ3チーム派遣の決定・調整を行いました。さらに、7日早朝から孤立地域の住民をヘリで搬送し、朝倉

医師会病院で傷病者の受け入れを行うことになったため、追加 DMAT の派遣を決定しました。ヘリで搬送されてきた孤立住民のトリアージ(治療優先度の決定・選別)に1チーム、朝倉医師会病院で傷病者の受け入れ支援に1チーム、治療を行うために1チームの計3チームの派遣を決定し、その調整にあたりました。派遣チームはいずれも福岡県内のチームであったため、災害が続発した場合、その地域の DMAT 隊員が出勤しているとその地域の災害医療のマンパワーが減少することが危惧されました。幸い他の地域に大きな災害は発生しなかったため、本部長である田川市立病院の田中潤一先生と胸をなで下ろしたのを覚えています。

現場へ派遣された福岡大学病院 DMAT

実際に現場(朝倉市)に派遣された DMAT は医師・看護師2人・薬剤師および病院庶務課員の5人でした。7日午前4時に福岡大学病院に集合、同30分に出発しました。5時30分に参集場所の朝倉市役所に到着し、現地 DMAT 調整本部の指揮の下、ブリーフィング(簡単な状況説明・報告)(写真3)後に他の派遣チームとともに救護所の赤エリアの担当となりました。準備が整った午前6時頃から患者さんが徐々に運ばれてきました。



写真3 現場でのブリーフィング
(朝倉医師会病院)

孤立地域からの患者さんは自衛隊ヘリや防災ヘリで朝倉市役所近くの甘木公園の臨時ヘリポートに搬送されました。そこで福岡済生会総合病院 DMAT 隊員によるトリアージを受け、治療が必要と判断された方は救急車や搬送車で救護所のある朝倉医師会病院に搬送されました(図1)。待機していた DMAT は重症度に応じて赤(緊急)、黄(準緊急)、緑(待機)のエリアに分かれて治療を行いました。活動中、病院に搬送されてきた17人のうち11人の治療を担当しました。このうち1人は心筋梗塞の診断で福岡大学筑紫病院にドクターヘリで転院となりました(写真4)。



図1 孤立住民の搬送



写真4 重症患者さんを福岡大学筑紫病院にドクターヘリで搬送

患者さん(被災者)の声を聞いて

今回の DMAT 活動は災害発生から約2日が経過していたため、すぐ治療をしなければ命の危険があるような外傷患者さんはいませんでした。搬送されてきた患者さんの多くは泥まみれの状態で憔悴(しょうらい)しきった方が多く見られました。濁流で家が流されそうな状態の中、着の身着のまま最低限のものだけを持ち出し避難してきた方は、リュックサックの中の服や靴、通帳、お薬手帳も泥まみれでし

た。また、自宅が流された方は、日頃飲んでいいる高血圧や糖尿病の薬などがなくなっ方も多くいらっしゃいました。お薬手帳がある方はすぐに同様の薬が出るのですが、ない場合はお話を聞きながら最低限の薬を出して、できるだけ早くかかりつけの病院で受診をしてもらうことにしました。日頃から薬を飲んでいいる方はお薬手帳を持っておいた方がよいと感じました。

そのほかには、自宅の塀が流され足場の悪い中を避難する際に転倒し胸部を打撲した方がおられました。泥まみれになりながら自力で避難所へたどり着きましたが、「(打撲した胸が痛かったけれど) 周囲の人たちもみんな大変な時だから」と我慢して病院へ行かなかったといいます。結局、肋骨骨折の診断でしたが、幸い大事に至らず帰宅することができました。ご年配の方には、特に周りのことを気に掛け、自分のことは後回しにする方がいらっしゃいます。私たち医療従事者がご年配の方々のちょっとした変化に気付き、その症状を気軽に話せるような雰囲気をつくれるようになりたいと思いました。

また、病院に着いて安心したのか、災害発生時の極限状態を思い出してお話をしてくださる傷病者もおられました。「大雨で川が氾濫しそうだから、今の雨が少し弱まってから避難しようと思っていたところ、3分くらいで家の中に浸水してきて、さらに3分くらいで床上まで水が上がってきた。自宅の2階に上がったが危ないと思って屋根に上がった。そしたら、村に一つしかない橋が流されていくのが見えた。家が流されたらもう終わりだと覚悟した」と生々しい状況を話されました。続けて「家の物はなんもかんも流された。残っているのはリュックだけ。村も全部流された。明日からどうしようかね?でも、命があったけん良かった。1日なんも食べてなかったけど、生きとったけんごはんも食べさせてもらった。生きとうけん私たちはまだ大丈夫」と、笑顔で話されたのには正直驚かされました。昨日そこにあったものが全て流され、明日からの生活のことも心配でしょうし、問題が山積みのはずなのに、笑顔でこのような話ができるのは、極限状態からの生還がそうさせるのか、元来の人間の強さなのか分かりませんが、このような話を聞かせていただき、私たちももっと何かお手伝いをすることがないか、この先の復旧復興へのお手伝いをしなければならぬと感じました。

話はまだいろいろあるのですが、孤立地域から来られた方が家族と再会された時は正直涙が出そうでした。安否が分からなかったご家族が朝倉医師会病院に搬送されたと聞いて訪ねて来られ、久しぶりの涙の再会、ほっこりする瞬間でした。

さいごに

「天災は忘れた頃にやってくる」。土佐出身の寺田寅彦の言葉ですが、いつ起こるか分からないのが災害です。どこで起こるか分からないのが災害です。災害は明日、あなたの身近な場所で起こるかもしれないと言っているのだと思います。今回の九州北部豪雨災害はこのことを再認識させられました。「災害に対する備えをしよう」と唱えるのは簡単ですが、なかなか実行できていないのも事実です。これを機に一人一人が自分の身にも災害は起こり得ることを肝に銘じて、避難場所の確認、災害時持ち出し袋(もちろんお薬手帳もこの中に!)、災害備蓄(水・食料等)を各職場やご家庭でも見直されてはいかがでしょうか。

臨時特集「九州北部豪雨」

九州北部豪雨の経験から

福岡大学工学部社会デザイン工学科助手 古賀 千佳嗣

執筆者紹介

古賀 千佳嗣（こが ちかし）

1981年生まれ。福岡大学工学部社会デザイン工学科助手。専門は道路・土質。茶道裏千家淡交会福岡青年部部长。福岡県朝倉市在住。



九州北部豪雨の一日

2017年7月5日、私は共同研究者との打ち合わせがあり、福岡県久留米市の広川にいた。天気は良好で、現場試験を行う条件や、配置場所、施工日程を決め、大学に戻る準備をしていた。

14時26分に妻から連絡が入った。日常では聞いたことのない声色で、大雨で家の床下に雨が流れ込み、避難すべきか、避難するにしてもどこに避難するか悩み、落ち着きのない様子だった。福岡市内や久留米市広川周辺は天気も良く、大雨の気配はなかったため、最初は不思議に思った。広川からは直接、朝倉に帰る方が近いため、大学に連絡し直接帰宅の許可をもらい、帰宅することにした。高速道路に乗り、鳥栖インターチェンジに差し掛かると、大きな黒い雲に覆われ、視界を失うような激しい大粒の雨が降りつけ、これまでに経験したことのない状況に気持ちが焦った。

15時15分、大雨で速度規制のため、いつもより時間が掛かったものの、朝倉インターに到着した。大雨は依然として振り続き、視界は塞がれていた。家までの経路はまだ通行可能な状態だったため、容易に着くことができた。近くの河川は兩岸の道路面まで水位が上がり（写真1）氾濫寸前の様子だった。妻には待機し



写真1 近くの河川の水位の様子



写真2 氾濫前の自宅前の様子

ている間に、避難用道具や毛布等を車に積み込んでもらい、幼稚園に通っている娘たちの安全も考え迎えに行き避難してもらった。避難場所は高台にある町の公民館が安全と考え避難させたが、まだ他に誰も避難していなかった。5年前の豪雨時の経験があったため、地域の方々はどうかなと考えていたのかもしれない。未経験だった妻は余計に危機感がつり、かえってそれが幸いだったのかもしれない。

15時48分、地域の方々、氾濫対策や他の雨水の侵入を防ぐため、土のう袋を作製していた。しかし、到着時の15時20分に足のくるぶし程度であった水位が自動車のタイヤの半分まで達し（写真2）、作製も困難になったため、全員で避難することになった。私は、できる限りの戸や雨戸を閉め、少しでも水害から家を守ることができればと必死だった。避難所に来ない私を心配して、妻から掛かる電話がひたすら鳴り響いていた。ようやく一通り片付けた私は、妻たちの待つ町の公民館へ避難した。幼稚園までの経路は、川の氾濫により一般の道路が川と化していたため通行できず、幼稚園は孤立した状態になった。先に幼稚園へ迎えに行った妻の判断は良かったと改めて思った。

私たちの地域は高齢者が多く、自力での避難が困難なため、地元の警察官の方や消防団員の方と共に避難作業に当たった。道路は川となり、成人男性でも歩くのに苦勞するほどで、避難道具の中に防水着は用意していたものの、服は中まで

濡れ、長靴の中は水でいっぱいだった。そんな中、ベッドに横たわり避難を拒む方や、足が不自由で動けない方を公民館まで移動させた。日頃より地域活動が多く、誰が住んでいるかお互いに把握していたため、皆無事に避難することができた。避難誘導の中、私の家から子どものおもちゃや自転車やタンスが流れ出ているのをただ見ることしかできず、只々、悲しくあり、切ない気持ちとさまざまな感情が重なった。

16時04分、いったん、雨脚が弱くなり水位が下がった(写真3)。各々、家の様子を伺うとともに、貴重品の盗難防止や二次災害にも備えるため帰宅した。地域の半数の家が灯油ポイラーで風呂を沸かすため、流れ出た灯油で周辺には強い臭いが漂っていた。また、ブレーカーを落とし、プロパンガスの元栓を閉めた。これらは家の外側周辺だったため作業ができたものの、水と土砂に足がとられ身動きが難しかった。家の雨戸はかろうじて残っており、まだ、気持ちに余裕があった。

17時06分、再度雨が降り出したため、危険を感じ早急に避難した。その後、再度大きな濁流が流れ込んできた。一部の方は、家屋等の二次災害を防ぐために家に帰っていたため取り残され、救命ボートによる救出となった。のちにニュースで大きく取り上げられていたが、比良松中学校付近の堤防が決壊したため一時的に水位が下がっていたことが分かった。

避難所の公民館には60人近くいたが、子どものいる世帯は私の家族のみだった。避難所は停電しており、三女は暗闇と不安で泣いていた。周囲の方たちは家族に連絡はできても、国道と高速道路の通行止めにより帰宅できず、皆もどかしい状態だった。15km先から車を止め、歩いて帰宅する人も多くいた。私の家族は、祖母、母、妻と娘三人で、偶然、祖母はリハビリで老人介護施設におり、母は福岡市内にて茶道教室の指導のため不在で無事だった。

眠れない一晩が過ぎ、周囲は今までに見たことのない風景が広がり、大量の土砂と各家庭から流れ出た家具や車、自転車が散乱していた。道路の一部はア



写真3 自宅周辺の様子

スファルトが剥がれ、アスファルト舗装板が家に刺さる状況だった。私の家は高低差の一番低い位置にあったため、土石流の流れ道になり、一階は跡形もなく、土砂が床上に1.5m堆積し、家の中にも入れない状態だった。また、家が古民家だったため、壁は土壁で水流により流し出され横壁はなくなり、柱の下部の梁が幾つも折れていた(写真4~6)。多くの思い出のある地域の姿はどこにも残っていなかった。他の地域では、家の形が残っていない方や、行方不明者や命を奪われた方がおり、家族の無事を有り難く思った。

復旧に向けて

災害の次の日から、何をしていくべきか、何からやればよいのか、さまざまな思考を巡らせた。

まずは動線の確保が重要であり、道路上にある土砂の撤去を優先することとなった。地域の方々が重機を出し、バックホウ(油圧ショベル)で土砂を積み込み搬出した。これまでの震災などの経験も踏まえ、処分の分類や、仮置きすべき場所の選定が重要であることを知っていたため、地域の方と打ち合わせをし、それぞれの私有地を有効利用して場所を選定した。

地域全体での活動もあり、2日後の7月7日には動線を確保することができた。7月8日には、研究室の先生、学生たちおよび卒業生が駆け付けてくれた。さら



写真4 水害後の自宅前の様子



写真5 横壁は流し出されて消えた



写真6 柱の梁も折れている



写真7 研究室の学生が掻き出し作業を手伝ってくれた



写真8 ボランティアの方による分別作業

に、消防団の同期たち、小中学校や大学の同級生、大学の共同研究の方が応援に来てくださった(写真7、8)。また、母の元で幼少より茶道をしていることから、裏千家淡交会青年部の方々も全国から集まり、重機やトラックを自走して復旧作業に当たってくださった。ボランティアセンターが開設されたのは7月9日で、それまでの作業が重要だったため大変助かった。

片付けていく中で、幾つかの問題があった。多くの人が片付けの作業を行うため、人員の配置と、必要なものと必要でないものの判別ができる人が必要で、想像していたよりも作業の進行が遅かった。また、土砂の中には母のお茶道具や思い出の品があり、一見見えそうにない物であっても、再度購入することを考えると、洗って使えるものは使いたいが、他人から見ると必要でない物であり、その判別が難しかった。また、水害のため電化製品も使用できず、水道ではなく井戸水が主体の地域のため、井戸の配水ポンプが破損して使用することはできなかった。さらに、土砂の中には細菌が多く、衣類や木材の腐朽^{ふきゅう}の進行が速く、早急に対処しなければ、柱の基礎は腐り倒壊する恐れもあった。

そのような中、ボランティアの方々の支えは大きく、作業面だけではなく心の支えにもなった。何か力になれば全国各地より参加いただき、本当に有り難く、感謝の気持ちでいっぱいだった。さらに自分がこれまでの災害に際してボラン

ティアに参加していなかったことを恥ずかしく思い、今度、何かあれば必ず駆け付けようと心に決めた。ボランティアの中には本学社会デザイン工学科卒業生のご両親で、何かできることがあるのではないかと参加されている方もおられた。また、熊本からは震災時に助けていただいたと各地域の商工会議所が団体で、機械やダンプカーを準備して復旧作業に来てくださった。

研究者の立場として、これまでは災害直後に現地入りしていたが、被災者になるとその心境も分かり、早急な調査も必要だが住民に対する配慮も十分に必要であると感じた。

今後に向けて

今回の豪雨に伴う被害は、事前に防げるものと防げないものがあるように感じた。防災の面でいえば、浚渫^{しゅんせつ}工事(河川などの底面にある土砂を取り除く作業)が行われていない河川、急傾斜地下の住宅の建設や、柿園などの農業用の地形を優先した切土により、地形が変動し、土砂崩れ発生の被害にあったものなどがある。これらは事前の防災対策が可能であり、住民への周知が必要である。また、河川堤防の増設に伴い、現状の住宅地が盆地状になるものがあり、造成の見直しが必要と感じた。大量の廃棄物や今後の家屋の解体工事に伴う廃材の処分先、さらに大量に流出している土砂の有効利用も難しいところである。

地域の現在の状況としては、解体の申請と、造成や土地の境界の位置出し、住宅再建の業者の選定などが必要で、まだまだ復旧の目途は立っていない。建屋内の土砂出しはほぼ完了しているものの、建屋からその他の家財などの搬出が多く残っている。生活面では、被災直後は妻の実家と姉の嫁ぎ先で約3カ月生活し、現在は仮設住宅での暮らしとなっている。

多くの方が、全国からボランティアに来てくださり、今後、もし災害の現場があれば必ず手伝いに行きたいと考えている。また、その際に、全ての物を被災者の思い出や大事なものとして取り扱うことを肝に銘じたいと思う。東日本大震災や熊本の震災、その他多くの被災された方が言っていた同じ言葉が、「忘れないでほしい」だった。現状、いずれの地域もまだまだ復旧段階であり、仮設住宅にまだ入居できていない人もいる。当たり前のように仕事はしなければならぬため、復旧は少しずつ進めていくしかないように思う。

家族は明るく、全員が前向きで、祖母は私が建てる家を楽しみにしていると笑

いながら言ってくれる。母、妻、娘たちは環境が変わる中、何一つ文句も言わずついてきてくれる。2018年2月には新しい命の誕生も控え、家族全員でこれからは良いことしかないだろうと頑張っている。これも周囲の方々の支えがあるからこそだと思う。感謝の気持ちを忘れず、これからも頑張ろうと思う。

臨時特集「九州北部豪雨」

九州北部豪雨の ボランティア経験を通して

福岡大学人文学部教育・臨床心理学科4年次生 本村 晨弥

執筆者紹介

本村 晨弥（もとむら しんや）
1995年生まれ。福岡大学人文学部教育・臨床心理学科4年次生。準硬式野球部では主将を務めており、2017年7月15日から2日間、部活動の仲間と朝倉市でのボランティア活動に参加した。



2017年7月6日。私はテレビのニュース映像を見て、衝撃を受けました。川をふさぐ流木、氾濫する河川、壊れていく家屋、そして、避難所で困惑する人々。福岡県朝倉市を中心とする近辺で、台風3号および梅雨前線による集中豪雨で、死者37人、行方不明者4人という甚大な被害が出ました。私は、正直これが同じ福岡県で起こっている災害であるととても信じられませんでした。私は、ニュースで流れてくる映像を見ていくうちに、困っている方々が大量にいるのに何もすることができない自分への苛立ちと、どうにか微力ながら力になりたいという思いが湧き出てきました。

2016年4月に起きた熊本地震の際にも、今回と同じ思いから、熊本で被災し体育館に避難していた友人を、レンタカーを借りて熊本まで迎えに行きました。また、母の友人が熊本で被災し、水が足りないと連絡が来て、地震の1週間後に水60ℓを届けに行きました。支援について感謝の言葉をいただきましたが、知り合いを少し助けただけで、もっと現地で支援を行いたいという思いがありました。この熊本地震は被害が大きく、当時は個人によるボランティア活動も重要でした。しかし、私は部活動や勉強で時間の確保が難しく、福岡で募金や

救援物資の協力を呼び掛ける程度のことしかできませんでした。だからこそ、今回の九州北部豪雨災害では、実際に現地に行って、そこで現地の人のために動きたいという思いがありました。

私は、福岡大学準硬式野球部の主将をしていました。準硬式野球部は部員数が100人を超え、大学から試合や遠征の移動用として2台のワゴン車を提供してもらっていました。そこで私は、部員に声を掛けて共にボランティア活動をしてくれる仲間を見つけ、大学側をお願いしてワゴン車を使わせてもらうことが



準硬式野球部の仲間と

できれば、ボランティア活動に必要なスコップや作業着などの用具も運ぶことができ、現地の方に迷惑を掛けずに活動を行うことができると考えました。早速、部員に声を掛けたところ、前期の定期試験の前だったこともありましたが、7人の部員が共にボランティアに行ってくれることになりました。また、大学側にも活動の申請をしてワゴン車の貸し出しをお願いしたところ、快諾してくださいました。現地での活動では部員に危険性が伴うということで、保護者の許可を得て、ボランティア保険にも加入しました。部活動の監督にも事情を話したところ、部活を休むことができ、7月15・16日の2日間、朝倉市でのボランティア活動に参加することになりました。

迎えた1日目。6時半に福岡大学に集合し、朝倉市へ出発しました。朝倉市に近づくにつれ、堤防が決壊していたり、道端まで土砂が積み上がっていたり、想像をはるかに超える被害の大きさに驚きました。現地の方々を思うと胸に込み上げるものがありました。被害の大きさに圧倒されながら、朝倉市のボランティアセンターに到着すると、朝早くにもかかわらず、老若男女大勢の方が来ており、受付窓口の前は大行列状態でした。私たちも受付を済ませ、ボランティア活動における注意を受けてから、マッチングをしました。マッチングというのは、ボラ

ンティアを受け入れたい人の要望と、ボランティアをしたい人の要望を調整する作業のことです。私たち7人は、全員野球部ということもあり、朝倉高校野球部のみんなと一緒に、少し離れた集落にバスで移動し、そこで活動することになりました。私は、主将を務めているということもあり、この朝倉高校野球部と私たち7人の総勢40人のリーダーに任命されました。被災地で危険もある中、高校生を含めた40人をまとめ、被災された方の要望に沿った活動ができるのか、私自身もこのようなボランティアは初めてだったため、大きな不安を覚えました。しかし、やるしかない状態だったため、大学生7人を振り分け、5つのグループをつくり、各グループに高校生と大学生のリーダーを1人ずつ置いて、何かあったら必ず連絡をするように徹底しました。

その後、バスで移動し実際に活動する場所に到着しました。私のグループは筑後川沿いにある一軒家で土砂の掻き出しをすることになりました。川沿いにあるため、家のほとんどが水に浸かっていましたが、住民の方は避難していて無事とのことでした。実際に土砂を掻き出す作業をしてみると、異臭がすごく、そして、何より水分を含んでいるため非常に重かったです。しかし、地元の高校生がひたむきに頑張る姿と、「ありがとう」と何度も言ってくださった現地の方のおかげで、私自身も一生懸命頑張ることができました。また、現地の方は水も出なくて大変な中、アイスやお茶などさまざまな物を用意してくださり、こんなに大変な状態でも他人への思いやりや、気遣いを忘れない姿勢に尊敬の念を抱きました。この日は、15時半頃に土砂を掻き出す作業を終え、バスで朝倉市のボランティアセンターまで戻り、その日の作業を終了しました。

帰りの車の中ではみんなと「思ったよりも作業が苦しく明日も行うとなるときつい」「でも、『ありがとう』と言ってもらえたら、どんなにきつくても頑張れる」という話をしながら帰りました。私自身、この作業を毎日行っている現地の方は、本当に大変だと身を持って感じ、明日の活動では少しでも現地の人が楽できるように、精一杯取り組もうと考えていました。

そして、2日目。この日も6時半に大学に集合し、朝倉市に向かいました。この日は日曜日ということもあり、現地には前日よりさらに大勢の方が来られていました。この日は、社会人の方4人と一緒に近くの一軒家の土砂の掻き出しに

行きました。その家は床下まで完全に水に浸かっており、床下の土砂の除去が主な作業でした。そこに住まれている方は高齢のご夫妻で片付けにとっても苦労されており、私たちも前日の疲労など関係なく、ただがむしゃらに働きました。また、一緒にこの家に来た4人の社会人の方とも、作業をするうちに仲良くなり充実した活動ができました。この日も前日同様、被災された方が一番困っているにもかかわらず、扇風機を用意してくださり、飲み物などの差し入れまでしてくださいました。そして、作業が終わって帰る際に挨拶をすると、涙ながらにお礼を言ってくださり、「このことは一生忘れません」とまで言ってくださいました。私は感動してしまい、涙が溢れてきました。本当にボランティアに来て良かったと心から思い、これからも些細なことでも人のためになることを全力でしていこうと誓いました。その後、ボランティアセンターに戻り、終了の報告をして帰りました。みんな疲れ果てていましたが、「とても充実していた」と言っており、こんなにも人に感謝され、自分自身も良い人生経験になったから「またボランティアの機会があったら絶対に参加したい」と話していました。私自身も、こんなに充実感に満ち溢れた2日間は初めてで、これからもボランティア活動に積極的に参加したいと思いました。

このボランティア活動を通して多くの事を学び、そして、貴重な経験ができました。これから社会に出ていく私にとって、誰かのために動く喜びという体験ができたことは非常に大きな経験となりました。また、被災地では今でも多くの方がそれまでの生活を取り戻せず苦しい生活を余儀なくされています。だからこそ、災害が起こった直後だけでなく、継続的な支援をしていく必要があると思います。一人一人の力は微力かもしれませんが、一人が動くことで誰かが笑顔になってくれるのなら、動く価値は十分にあると今回の活動を通して感じました。災害時だけではなく、日頃から、人を思いやって生活していくことが大切だと思います。これから、社会人として生きていく中で、自分のためだけではなく、人のために積極的に動ける人材になっていきたいです。

随筆

回顧：世界遺産・沖ノ島の考古学調査

福岡大学名誉教授 小田 富士雄

執筆者紹介

小田 富士雄 (おだ ふじお)

1933年生まれ。福岡大学人文学部歴史学科教授を経て、現在は福岡大学名誉教授。文学博士（九州大学）。専門は考古学。1992年第1回雄山閣考古学賞を受賞。九州考古学会会長、北九州市考古博物館館長、下関市考古博物館館長などを歴任。沖ノ島には1954年から1971年にかけて学術調査で訪れており、沖ノ島の歴史解明に貢献。



2017年7月9日“神宿る島・沖ノ島”の世界遺産決定によって、新聞・テレビの連日にわたる取材攻勢からやっと解放された。マスコミの取材では、特定1社のみに応じてその他を拒否するわけにはいかない。公平性を保たねばならないのがこの世界の常識である。世界遺産決定の前日や当日になると、昼・夜かまわず予測や感想をせまられるのである。1954年に始まり1971年に終了した沖ノ島の学術調査は計10回にわたる渡島であった。私はその全てに関わった調査員唯一の“生きのこり”であること、話題の焦点となる金製指輪の発掘者であることなど、話題になりやすいところを搜してこられると、敵前逃亡もままならない立場に追い込まれてしまう。発掘調査が終了してからすでに半世紀近くが経過している。今般寄稿を求められた機会に、調査の周辺状況を以下のように回顧してみる。

沖ノ島の概要

沖ノ島は玄界灘のただ中にある孤島である。東西1km、南北0.5km、周囲4kmで東北東から西南西に脊梁^{せきりょう}が形成され、中央の一ノ岳（海拔243.1m）から東に二ノ岳、三ノ岳、白岳と続く様子が遠望できる。福岡の北西77kmにあり、対馬の

東75km、韓国釜山の東南145kmに位置している。島の東～南は急崖を呈し、北～西は緩傾斜をなして原生林が繁茂する。この島の学術調査は1932年に地質・植生などから始められた。南側の海崖には砂岩を伴う頁岩層が見え、その上には石英斑岩が堆積する層序で構成され、祭祀遺跡と関わる巨岩群は後者である。海拔約80m付近にある沖津宮付近から90mあたりにかけての谷状地形部に、頂上付近から崩落した巨岩群が累積し、原生林で覆われて昼なお暗い景観の中に遺跡が形成されるたずまいは異様な雰囲気演出している、ここに神の降臨する“神域”を訪れる人々に与え続けてきたのである。

祭祀遺跡調査開始のころ

沖ノ島に古代祭祀遺物が奉獻されている事実が中央の学会に知られるようになったのは、明治時代にさかのぼる。須恵器や滑石製の玉類、金属製品などが採集されて宗像大社に持ち込まれ保管されてきた。しかし、地元漁師達の伝統的信仰や禁忌（タブー）、さらに太平洋戦争の敗戦まで脊梁上に砲台を築いた軍事要塞があったことなどによって一般人の入島が厳しく制限されてきたために、この島の実態は殆んど分からなかった。宗像神社史編纂事業が再開された



三角縁神獸鏡

1952年以降、文献資料以前の歴史は考古学調査の成果に頼らねばならないとの議論が起こり、1954年5月に私共の第1回調査が実現した。まず沖ノ島とはどんな島なのか。また、考古学の対象となる遺跡の実態はど



金銅製龍頭1対

のような状況なのかなど、本格調査のための予備知識を得る目的でまず少人数による入島から始まったのである。20トンほどの漁船に乗って夜中に宗像市神湊を出発し、4時間半ほども波濤にゆられて明け方に到着した。南側に設けられた人工小波堤しか上陸場所はない。上陸後は波堤内海中で覗ぎをして入島の資格が与えられる。400段近くの自然階段を登って巨岩群を背にした沖津宮に参拝する。

島に滞在する宗像大社神官のお祓いを受けた後、巨岩累々たる遺跡群を一巡した。原生林の密生する一帯は湿気も多いので夏場は蛇に喰われ、足下の雑草中には蛭が棲息しており靴下の上から喰いつかれる。夜になると蚊が蛇と交替してくるとい環境である。しかし、島内には蛇がいないので原生林の中でも安心して入り込める。なお漁船と共に入島した鼠は島内で繁殖しつつあり、われわれの足下を走り回るのは日常のことであった。

第1回の予備調査時には海が荒れて帰船が予定通りに入島できず、そのためさらに3～4日滞在しなければならなかった。そこで本格調査に備えて、遺跡の状況を把握しておこうということになり、沖津宮の上手にある7号遺跡で巨岩庇下の端部に試掘溝を設定して発掘を試みた。幸運にも朝鮮新羅古墳にみるような金銅製馬具類、さらに金製指輪などを発見するに至った。このことは、さらにこれから始めようとする本格調査にとって多大の期待を抱かせることとなったのである。



筆者発掘の金製指輪

調査中の日常生活

1954年8月の第2回調査から本格調査が始まった。以来1971年まで計10回に至ったが、平均して毎回2週間ほどの滞在で、調査員も20人近くに及んでいた。私の参加は九州大学の学生時代に始まり、大学院生を経て1970～71年調査時には考古学教室の助手となり、調査団の副隊長を務めた。それ以前の調査から関係してきた調査員はすでに私だけになっていたからであろう。この間九州大学でも文学部国史学科から分離して考古学科が設立されて、調査員の中には考古学専攻学生・大学院生たちが増加するに至っていた。

調査中の生活環境も1950年代の劣悪な状況を踏まえて、準備の方も徐々にではあるが改善されつつあった。1970年以降は、九州大学と、出光興産下の出光美術館（東京都千代田区丸の内）の配慮に拠るところ大であった。日常の食事の支度は大島の漁師の方々が担当してくれた。夜のうちに海中に網を仕掛け、翌朝早くに伝馬船で網上げて新鮮な魚が朝夕の食事に供された。1950年代の調査時には、私も毎朝の網上げに参加して魚獲の醍醐味を体験したことであった。

しかし、滞在中このような楽しいことばかりではない。航海中あるいは入島中

に台風が近い頃や台風遭遇中の体験は、まさに玄界灘の怖さを見せつけられるものであった。海神に無事を祈った古代人たちも、かくの如くあったであろうと追体験させられる思いであった。しかし、このようなときにこそ海神に祈る発願心を実感できるのであり、平穏無事な現代の沖ノ島参拝行事では、真の沖ノ島信仰の根源は理解できないであろう。宗像三女神にはタギリヒメ、タギツヒメの神格があり、水の逆巻き湧き上る様子に擬らえた神格の表現であるといわれるが、まさに玄界灘の暴れ荒ぶ様子を彷彿とさせるものであろう。

調査その後・世界遺産へ

沖ノ島は、ヤマト政権の関わる国家祭祀の軌跡が4世紀後半から9世紀にまでたどられる稀有の遺跡である。それゆえに中国・朝鮮・ペルシャ系遺物も奉献されたのであった。さらに7世紀後半以降は、伊勢神宮などの奉献品とも共通する天皇直祭型の律令国家祭祀の萌芽段階まで実証された。調査の結果、“神の島”の呼称通り、4世紀以降この島は人の居住形跡はなく“祭りの島”となったことが考古学的にも実証されたのである。このことは昭和天皇のご関心まで呼んで、1978（昭和53）年2月13日には宮中に参内してご進講するに至った。天皇のご関

心は、当時一部にいられていた『日本書紀』不信論に発するものであったが、沖ノ島の祭祀品を天覧に供したことは、天皇ご自身の不安感を払拭する上にも有効であったようである。

このたび世界遺産に登録されたこと自体は喜ばしいことであるが、市や県の行政に関わる当事者達や地元民間では、とかく地元経済の浮揚につながる面ばかりが期待されがちである。これまで入島を制限することで古代環境的景観が保存されてきた。従来の景観を今後も保全し続けるためには、基本的な対応策を見直し検討する必要がある。宗像大社側では、さしあたって2018年の沖ノ島参拝を一旦中止する対応を打ち出した。賢明な策であろう。学問的検討に基づく整備と保存の対応策が望まれる。あのような小さな孤島に珍しさを求めて次々に渡島すれば、今日まで良好に保たれてきた古代的環境の破壊は目に見えて加速するであろう。今後は現状をいかにして後世にまで残していけるかの対策を急がねばならない。諸兄弟の方々の英知と提言にも期待したい。

写真提供：宗像大社



岩上祭祀段階
F号巨岩上の21号遺跡祭壇復原



岩陰祭祀段階
C号巨岩と6号岩陰遺跡

山笠がつなぐ地域

博多祇園山笠振興会会長 豊田 侃也

執筆者紹介

豊田 侃也（とよだ かんや）

1945年博多に生まれる。福岡県立香椎高等学校卒業。東海大学卒業。
昭和25年、5歳から山（千代流）を昇きはじめる。平成8年千代流運営委員会委員就任。平成11年博多祇園山笠振興会本部役員就任。平成17年同会事務局長就任。平成19年同会副会長就任。平成20年千代流五番山笠総務就任。平成26年博多祇園山笠振興会会長就任。現在に至る。



平成29年7月13日、「集団山見せ¹」知名士による山笠台上がりに、福岡大学山口政俊学長をご指名し、「博多祇園山笠六番山大黒流表側」にお願いしました。



台上がりを務める山口政俊学長（左）

頭には手拭（てのごい）、手には“てっぽう”（指揮棒）、腰に締込み、体に流の水法被を着られ、表棒捌きとして、素晴らしい勇姿を見せていただきました。そのご縁もあり、この度本誌に寄稿することとなりました。

博多祇園山笠は七百七十有余年の歴史と伝統を持つ国内外に誇れる祭りです。博多っ子が大事に守り続け、災厄を祓うこの祭りは、

¹ 「集団山見せ」 期間中、唯一博多部を離れて福岡市中心部に山笠が乗り入れる日。知名士が台上がりする。

進取に富み、開けっぴろげな博多っ子気質をそのまま表し、その勇壮さは広く知られているところです。

また、博多祇園山笠は、昭和54年の国重要無形民俗文化財指定に続き大きな勲章を手に入れました。平成28年12月1日（日本時間）に博多祇園山笠を含む33件が「山・鉦・屋台行事」としてユネスコ無形文化遺産に認定されたのです。世界から博多の宝が「日本の宝」「世界の宝」と認めていただいたのです。全国18県の祭りが同時に登録されたわけですが、合同の記念イベントを行うのは九州のみでした。九州が一つになる、まとまりの良さを全国に示すことができました。先人や今を生きるわれわれが培ってきた伝統文化を次の世代に引き継いでいかねばと責任を重く感じています。

本稿では博多祇園山笠の歴史や行事を改めて振り返りながら、地域の皆さまとのつながりや博多以外での活動についてお話しします。博多祇園山笠の魅力を多くの方にお伝えできれば幸いです。

博多祇園山笠の誕生と概史

博多の町の地名は、古く奈良時代に、「土地が『博く（広く）』物や人が『多く』、富み栄えた町（往来により活況を呈する町）」と言われたことからきているそうです。

博多祇園山笠の起源には諸説ありますが、われわれ博多祇園山笠振興会は一般に広く知られている説を取っています。それは博多の町に疫病が蔓延していた鎌倉時代の仁治2（1241）年、承天寺の開祖・高僧聖一国師弁円が宗国にて修行を積んで帰国し博多の地に戻られた年に、人々の担ぐ施餓鬼棚に乗って、祈禱水をまいて鎮めたことに由来します。それが、神仏混淆の時代にあって、災厄除去の祇園信仰と結びついて榊田神社の社祭として現在に至っているというものです。

博多祇園山笠振興会の構成員

博多祇園山笠には昇き山笠が七流²（西流、千代流、恵比須流、土居流、大黒流、東流、中洲流）あり、昇き山笠より本部常任委員を推薦して組織されています。会長、副会長は特別職とし、当該流より各1人補充してもらい10人で運営しています。振興会では、年5回の総会、5回の総務会、月1～2回の常任委員会

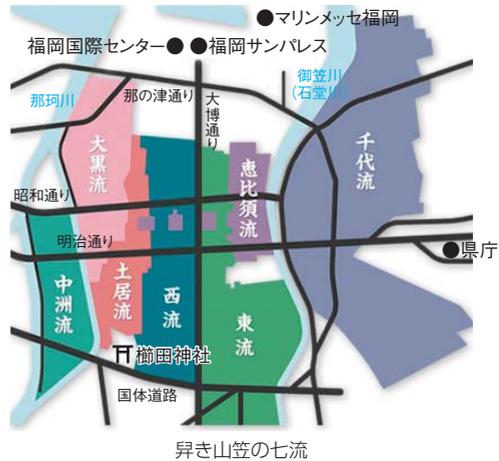
² 「流」 十数か町（旧町）を束ねた組織の呼称。現在の校区自治連合会に相当するといえる。

を行い、一年間の行事ごとのスケジュールを詳細に立てていきます。飾り山笠は十四流あります。期間中福岡市内に豪華絢爛な飾り山笠が建ち並びます。

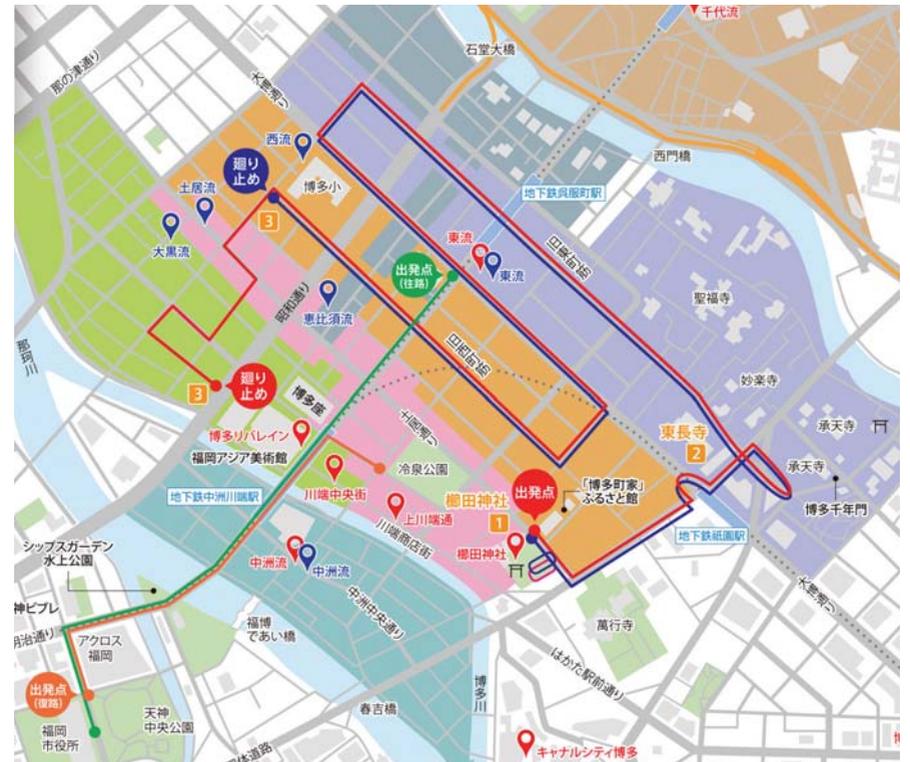
博多祇園山笠の主な行事日程

博多祇園山笠の行事は1月28日の初総会から始まりますが、祭りの初日は7月1日の「辻祈祷（注連下ろし）」で、その後、「棒洗い」「棒締め」「試し昇き」「人形飾り付け」と進んでいき、7月15日の「追い山」をもって終了します（84ページの表参照）。博多では、追い山が終わると梅雨が明け、本格的な夏が来ると言われています。

7月1日早朝「辻祈祷（注連下ろし）」。山笠に参加する七流の各町が祭りの初日を迎えるに当たって町内を清めます。そして飾り山笠公開。夕方には「当番町お汐井とり」。9日「全流お汐井とり」。昇き山笠各流の昇き手・子供たちが石堂橋-箱崎浜に集まって身を清めるお汐井（真砂）をすくい、帰りに筥崎宮と櫛田神社に参拝します。お汐井は、山笠参加前に身に振りかけ、清めるのです。10日「流昇き」。昇き山笠が初めて各流区域内を昇きまわります。11日早朝「朝山」。祝儀山とも呼ばれます。夕方「他流昇き」。流区域外を昇きます。12日「追い山ならし」。午後3時59分櫛田神社前に昇き山笠七本が初めて山列入りそろいます。各流が順に昇き出し、奈良屋町の「廻り止め」まで約4kmを駆けるのです。13日「集団山見せ」。明治通りの呉服町交差点から福岡市役所前の往復約2.1kmを昇きます。この日は、山笠に協力をいただいている知名士に台上がりをお願いします。14日「流昇き」。流区域を昇きます。15日は博多祇園山笠のクライマックスとなる「追い山」。朝日が昇るまであと少し、昇き出し午前4時59分、一番山笠が勇ましい掛け声とともに櫛田神社の清道にだれ込みます。廻りきった後、山笠を能舞台に向け、一番山笠にのみ許された、「祝いめでた」を栈敷席の観客、参加者ともども歌いあげ、その後5分おきに残りの流れが続きます。勢い水を浴



びながら第2清道、東長寺。第3清道、承天寺。それぞれの住職に台上がりが拝礼して山笠ゆかりの寺への敬意を示します。ゴールは「廻り止め」約5kmのコース終点に無事到着すると、拍手が湧き起こります。また、唯一の走る飾り山笠が12日の「追い山ならし」と15日の「追い山」で「櫛田入り」し、華麗な姿を現します。栈敷席からどよめきが起こり、盛んな拍手が送られます。全ての行事納めに櫛田神社の能舞台にて“鎮めの能”が厳かに行われます。熱気や歓声に沸いた境内に静けさを取り戻し、博多には本格的な夏がやってきます。



山笠のコース
 [追い山 (復路) 追い山ならし 集団山見せ (往路) 集団山見せ (復路)]

随筆

博多祇園山笠の行事日程

7月1日		
早朝	辻祈禱 (注連下ろし)	山笠に参加する七流の各町が、祭り初日に昇き山笠の流区域を清める。(恵比須流は6月1日に行う)
昼	ご神入れ	山笠に神を招き入れる神事。飾り山が一般公開される。
夕方	当番町お汐井とり	各流の当番町になった町の面々が法被に締め込み姿で箱崎浜に集まり、汐井(真砂)を持ち帰る。
7月9日		
夕方	全流お汐井とり	内容は当番町お汐井とりと同じ。各流の昇き手が箱崎浜で沈む夕日に拍手を打って安全を祈願する。帰路は筥崎宮と櫛田神社に参拝する。
7月10日		
夕方	流昇き	いよいよ昇き山笠が登場。それぞれの流区域内を昇き回る。
7月11日		
早朝	朝山	「流昇き」と同じだが、早朝に町総代や旧役員を呼んで接待するところから「祝儀山」とも呼ばれる。当番町の子供たちもこの日だけは山笠に乗せてもらえる。
夕方	他流昇き	流の外に出るところからこの名がある。1日2回昇くのはこの日だけ。
7月12日		
午後 3時59分	追い山ならし	追い山のリハーサル。一番山笠から順次「櫛田入り」して奈良屋町角の廻り止め(ゴール)までの約4kmのコースを全力で昇く。
7月13日		
午後 3時30分	集団山見せ	知名士が台上がりし、呉服町から天神までを昇く。昇き山が博多部を越えて福岡中心部に渡る唯一の日。
7月14日		
夕方	流昇き	未熟な昇き手にとっては、その年、山笠が昇ける最後のチャンス。「櫛田入り」の練習をする流もある。
7月15日		
午前 4時59分	追い山	祭のクライマックス。大太鼓の合図とともに一番山笠から順に「櫛田入り」。その後、境内を出て旧博多部に設けられた約5kmの「追い山コース」を須崎町の廻り止め(ゴール)を目指して懸命に昇く。 「櫛田入り」「コース」ともに所要時間を計測する。 櫛田神社の能舞台では午前6時から荒ぶる神様に捧げる鎮めの能が演じられる。

博多祇園山笠公式サイトから抜粋

※山笠関係者は「山笠」を「やま」と呼ぶ。したがって本稿では「朝山笠」を「朝山」と表記している。「追い山ならし」「追い山」も同様。

博多以外で山を昇く

博多のみならず、日本各地や海外から招かれ山を昇くこともあります。下の表は、主な遠征等を一覧にしたものです。

と き	場 所	内 容
昭和53年 10月	東京都	「全国郷土祭」に参加
55年 9月	ハワイ・ホノルル	「アロハ・ウィーク・フェスティバル」に参加
63年 5月	オーストラリア・ブリスベン	「国際レジャー博覧会」に参加
〃	ニュージーランド・オークランド	「ジャパン・ウィーク」に参加
平成2年	大阪府・鶴見緑地	「国際花と緑の博覧会」に参加
6年 7月	京都府・京都市	平安建都1,200年行事「全国祇園祭山笠巡行」に参加
16年 9月	中国・上海南京路	福岡市の市民クルーズ「三都航路」に参加
17年 10月	山形県・酒田市	「地域伝統芸能全国フェスタ」に参加
27年 4月	静岡県・静岡市	「静岡まつり」に参加(下の写真)

また、平成16年には博多祇園山笠振興会創立50周年記念式典を開催し、同年、高円宮殿下記念地域伝統芸能賞を受賞しました。さらに、平成29年5月、ユネスコの無形文化遺産への登録決定にあたっては、九州四県、山・鉾・屋台(唐津くんち、日田祇園祭、八代妙見祭、戸畑祇園大山笠、博多祇園山笠)の特別巡行を福岡市天神町において一堂に会して開催しました。

このように日本国内はもとより海外でも博多祇園山笠の勇姿を披露しています。多くの方々に山笠を知っていただき、皆さんに感動をお届けできることは私たちにとってもありがたいかぎりであると思っています。



聖一国師に恩返しと「静岡まつり」で山を昇く

山笠がつなぐ地域活動

山笠人の力は地域活動にも貢献しています。

昭和28年6月、水害復旧に協力。25日夜から降り出した雨は、北部九州で豪雨となり、各地で河川が氾濫、山崩れ、土砂崩れも発生しました。鉄道、道路網も寸断され、福岡市内でも那珂川などの堤防、井ぜきが壊れ、泥水があふれました。この時、各流の男たちは那珂川の番托井ぜきの復旧作業を行う当時の保安隊（現在の自衛隊）などに協力するため、手弁当にてシャベルをふるい、もっこを運びました。「せき止め」には各流から延べ千人が参加したといえます。

また、山笠は常に地域の人々に支えられてきました。特に印象的だった出来事をお話しします。

もともと水源に恵まれず何回も給水制限（断水）を経験している福岡市は、昭和53年5月に福岡大渇水に見舞われました。この年は5月20日から長時間断水に突入し、1日わずか5時間だけの給水となる日が続きました。タンク車がフル稼働、県警機動隊や自衛隊、他自治体の応援部隊が出動する騒ぎとなりました。この制限給水は翌年54年3月25日まで続きました。実に、287日間に及びました。そのような中で祭りの準備は進められましたが、昇き手が走る際にかける「勢い水」の確保ができるかと問題になりました。山笠振興会は福岡市役所を訪ねて、主な行事が行われる7月12日、13日、15日の3日間に計百トンの水の確保を要請。併せて各流の家庭より井戸水などを汲み、さらに博多地区の井戸水も集めました。その結果、当日は沿道にこれらの水が入ったポリバケツが並び、山笠は無事に奉納することが出来たのです。流の皆さま、福岡市民の方々の力添えのお蔭と感謝致しております。

これらの奉仕活動については、記録書に記載されています。市民の理解と協力があってこそ、博多祇園山笠は守られているのです。

ユネスコ無形文化遺産に登録されて

繰り返しになりますが、平成28年に博多祇園山笠はユネスコ無形文化遺産に認定されました。認定から約1年、776年の歴史の伝統文化は未来を担う子供たちのためにも、改めて祭りの格調護持に力を入れる必要があることを再認識した年でした。多くの先人たちの汗と涙があったればこそ、また地域の自治体のご協力のたまものです。

一昨年、昇き山笠の流の^{あかでのごい}赤手拭³以上の役職者に対し、山笠参加者の意識調査のアンケートを行いました（170人にアンケートを実施し、120人から回答がありました）。回答者の約7割弱が流町内に居住していないにも関わらず、山笠に参加、尽力しています。それはなぜか？初めて役員手拭の「赤手拭」になった時の気持ちが大きく関わっています。回答の中に「博多のために尽くさなければならぬ」と気持ちが引き締まった」「誇らしい気分になった」「責任を感じて嬉しかった」「評価してもらって嬉しかった」「担い手の地域に対する責任感が醸成され、地域との一体感を作りだしている」というものがありました。

この結果を受け、ますます祭りの格調護持、安全安心な博多山笠に全力を挙げ取り組んでいきたいと感じた所存です。

私たちは、参加する昇き手が感動し、見物に来ていただいた多くの方々へ感動していただける祭りにしていきたいと思っております。振興会一丸となり立派な奉納を目指しています。今後とも、末永く皆さまのご支援をいただきますよう、よろしくお申し上げます。

図は「博多祇園山笠公式サイト」より転載

³ 「手拭い（てのごい）」 山笠運営での役割・役職を色・柄の違いで表す。赤手拭いは山の昇き方、礼儀作法を一通り習得し、ある程度経験を積んだ上、町内で認められた者だけが受け取ることができる。

随筆

福大DNAとボランティア精神

福岡大学学生部長 永星 浩一

執筆者紹介

永星 浩一（えぼし こういち）

1961年生まれ。福岡大学商学部教授。専門は市場分析論。2015年12月から学生部長。学生部長として週末には学生の試合や演奏会、展示会などに飛び回っている。



悪は陰を忌み、善は陽を忌む。

故に悪の顕われたるものは禍浅くして、隠れたるものは禍深し。

善の顕われたるものは功小にして、隠れたるものは功大なり。

（菜根譚 前集138）

本稿の執筆中、2017年も年の瀬が近づきつつある中で、九州北部豪雨の行方不明者発見のニュースが流れてきました。そのような報しらせに接すると、あらためて災害が現在進行中であることを思わずにはいられません。いまだ鮮明な記憶として残る7月5日の昼頃、福岡県から大分県にかけて発生した記録的な集中豪雨により、九州北部の三水系で氾濫危険水位を超える洪水が発生し、多くの人々が被災しました。テレビ等を通じて、刻一刻と被害が拡大するさまを何もできないもどかしい気持ちで見るとしかありませんでした。

本学の学生・教職員をはじめ関係者については、人的被害こそなかったものの多くの人々が被害を受けました。九州は2016年の熊本地震に続き2年連続の大規模災害に見舞われたこととなります。

本学では、即座に学生向けのポータルサイトを通じて被災連絡を求める一方で、現住所もしくは実家が被災地域の学生に対して個別に安否確認を行い被災状況の

把握に努めました。2週間後には、前年の熊本地震に際して整備した「大規模災害による授業料減免規程」を適用し、本学の被災学生に対して経済支援を行う方針が決まり、手続きが進められました。また、並行して復旧ボランティア活動の人員募集も行い、定期試験明けの8月3日と4日の2日間、応募のあった約80人の学生と学生課の職員



「東日本復興夏期セミナー」の様子

とが共に現地に赴きました。残念ながら、両日ともあいにくの強雨で二次災害の恐れからボランティア受付が中止され、引き返してることになりました。

実は、災害発生直後から、既に数多くの福大生がボランティアとして現地に赴いていました。大学がボランティアを組織することは、時間をかけて広く呼び掛けることから動員力は高まりますが、場所の選定や受け入れ態勢の確認、事前研修やボランティア保険等の準備を怠りなく行うため、機動性に欠けます。他方、個人で行動する場合、個々の学生・教職員は個別の判断、個人の責任でボランティア活動に飛び込んでいけるので、比較的早い段階からの動きが可能で、実際にその動きが多数見られました。今、あらためて九州北部豪雨関連のボランティアに関する活動届の束を目の前にして、福大生が、いかに“アクティブ”であるか実感しています。これこそ、福岡大学の「建学の精神」である「積極進取」の表れであります。ボランティアサークルのみならず、学友会のクラブ単位や学生個人でも自主的に被災地に赴いています。現実のところ、活動届を出しているのはごく一部で、一般市民のボランティアの一員として数多くの福大生・教職員がボランティア活動に参加しているという報告を受けています。普段、合宿場所としてお世話になっている被災地にいち早く駆け付け、流木除去を買って出てくれたと、感謝の電話を頂戴したこともありました。名もない多くの善意を形作る行動力こそ、福岡大学の真骨頂であると思います。これは熊本地震の際にも見られたことでした。ニュース等で取り上げられた部分もありましたが、それはごく一部分であって、その陰には福大発の膨大な陽の当たらない善意があったことを忘れては

なりません。それがあったからこそ、福大生に対する、ひいては福岡大学そのものに対する社会的評価があるのだと思います。

さて、2017年度から福岡大学学友会会則の3条（目的）に社会貢献が追加されました。これは、今後そのような活動をやっていこうということで明記したのではなく、既に行っていた学友会活動における社会貢献を明文化したという意味で、大変意義深いことです。サッカー部や野球部、ラグビー部などによる地域の子どもたちに対するスポーツ指導をはじめ、アメリカンフットボール部の地域の餅つき会への参加、落語研究部やボランティアサークルによる児童福祉施設や障害者福祉施設への地道な慰問活動に加え、清掃・環境保全・防犯活動、交響楽団や吹奏楽団、マンドリンクラブ、和太鼓同好会等による各種演奏会と、学友会の活動自体が社会貢献の意味合いの強いものとして実に多く存在します。

このような福大生の地道な活動こそなかなか陽は当たりませんが、地域社会の多くの方々に歓迎され、今や、なくてはならない存在になっています。2015年、21年ぶりに福大の応援団が復活の演武会を開催しました。応援団は、一見華々しくも見えますが、他者に対してひたすら士気を鼓舞し、エールを送り、栄誉を称える“黒子”的存在です。実は、彼ら彼女らの仕事は、スポットライトを浴びない部分がほとんどを占めているのです。地道にキャンパスの一角で学友に対して他大学との試合観戦の呼び掛けを行っていますし、イベントや試合のたびに演武を披露します。各地で開催される同窓会に参加の際は、事前打ち合わせから参加し、当日はいち早く会場に到着して準備を手伝ったり、福大の職を持って設置に駆け回ったりしてくれ、その隠れた働きには頭が下がる思いです。この献身こそ功大であるといえます。そして、彼ら彼女らが身に付けている黒い学ランこそ、その黒子としての誇りであると思います。

近年、「サラブレッド」とか「エリート」などの臆面も無い表現が踊る風潮があり、何かと関東・関西の大学の方が華やかにマスコミ等から取り上げられるこ



「福西戦」でエールを送る応援団

とが多いのが現状です。課外活動でいえば、恵まれた環境で競技や活動を行えるのはメジャーなスポーツのごく一部に過ぎません。マイナースポーツをはじめとして、活動場所の確保もままならないものも多い中、福大生の多くは、自発的にアルバイトをしながらでも活動費を獲得しつつ、地道に努力し自己研鑽^{けんさん}を積んで、大学の看板を背負って大会に臨んでくれています。そのような選手諸君の多くが、誠実で心身ともにたくましい「質実剛健」を体現しています。

かつて、ある大会の表彰セレモニーの後、優勝した某有名大学の選手同士が、別の大学の選手と交換した応援Tシャツを「こんなもの欲しくないよね。〇〇大学だし」とさも馬鹿にしたかのように陰で話しているのを耳にし、憤りというより哀しさを感じました。天は人の下に人をつくりませんが、人は自分の下に人を置きたがるものです。また、全国大会で敗退した時にこういうこともありました。普通は応援合戦の最後の締めとしてエールの交換を行うのですが、こちらの応援団が相手側にエールを送ったにもかかわらず、相手の応援団は何もせずそのままぞろぞろ引き上げていったのです。そこには、心底母校の勝利を称える姿も見えませんが、敗退していったライバルに対する敬意も存在しません。応援を「やらされている感」がにじんだ光景に見えました。

本学の「建学の精神」である「穩健中正」は、穏やかで健やかであれ、偏ることなく真っ直ぐであれという意味ですし、「思想堅実」は、自分の考えをしっかりと持ち、礼節を重んじなさいという意味です。先に述べた「質実剛健」「積極進取」を含め本学の「建学の精神」は、まさに「現代の風潮」に対するアンチテーゼと言えなくもありません。福大生は、これら“福大のDNA”を受け継ぐ存在です。

“volunteer”には適切な訳語がありません。そのままカタカナで“ボランティア”と表現してイメージや意味付けがなされています。元来自由意志を意味する言葉であり、英米では志願兵を意味する言葉であったようです。日本語のボランティアには、善行をやらされている感が否めませんが、元々は自発的に始めること全てを包摂する言葉です。

1949年、本学の大学昇格（福岡商科大学）の原動力となったのが、当時の学生たちによるボランティア活動であったことはよく知られています。福岡大空襲で図書を焼失していた本学の前身校が、大学昇格の条件であった蔵書1万冊をクリアできたのも、学生たちの地方での講演活動、行商、バザーなどの活動によって

得られた浄財のおかげだったわけです。有名無名限らず一人一人の学生こそが福岡大学の礎を創ったと言っても過言ではありません。学業や課外活動にあってももちろんですが、九州北部豪雨のボランティア活動を見ても福大生から垣間見えるこの“福大のDNA”は、伝統的には日本人の美德であったはずのものであり、人として忘れてはならない指針を示してくれています。本学校歌の中に「人らしき人にあるべく」とあります。人の見ている、陽が当たる場所を選んで行動するのではなく、道は険しいかもしれませんが、内面から湧き上がる自由意志で黙々とやるべきことをやる、報いのあるなしにかかわらず力を尽くすことこそ人として尊いのだと教えてくれているようです。

冒頭に記した、人生の指南書とも言われ名言が多いことで知られる菜根譚の一節は、人目につかない善行こそ本物であると伝えています。“福大のDNA”こそ、「本物の善良なる人」を志向するものであり、現在も昔も福大生の実直な姿の数々がそれを体現していると思いますし、それを誇りに思います。

随筆

新天町商店街の秘密

福岡大学経済学部産業経済学科教授 木下 敏之

執筆者紹介

木下 敏之（きのした としゆき）

1960年生まれ。福岡大学経済学部産業経済学科教授。専門は地域経済の振興。1984年に農林水産省に入省し、その後1999年から佐賀市長を2期務めた。趣味は神社巡り。



はじめに

こんにちは。経済学部教授の木下敏之です。私は九州経済が発展していく方法を研究しており、授業では「九州経済論」という科目を担当しています。その中で、中心商店街の振興策についても15回ある授業のうちの2回ほどの時間を使って教えています。多くの地方都市では中心商店街は衰退しつつありますが、これは地域経済にとっては非常にまずいことだからです。では、どうすればよいか。そのヒントになるのが、福岡市内の西鉄福岡（天神）駅そばにある新天町商店街の仕組みです。どのように凄いのか、その点をお話したいと思います。

1. 地域経済・社会における中心商店街の重要性

福岡市内に住んでいるとピンとこないかもしれませんが、福岡県久留米市の商店街、佐賀県佐賀市の中心商店街などはかつての繁栄を失いつつあります。自治体は振興策を講じては失敗を繰り返していますが、「大規模ショッピングセンターがあるから、衰退しても良いのでは」という意見もよく聞きます。では、商店街の衰退により何が困るのかについて、主な影響を以下に述べます。

(1) お金が県外に流出する

困る理由の第一は、地域経済で循環しているお金が県外に流れ出ることです。京都大学大学院教授の藤井聡先生の研究などによると、県外資本の大規模なショッピングセンターで使ったお金の8割は県外に流れ出ているそうです。売っている製品も地元産のものは少ないです。一方、地元資本のお店で買い物をすると、使ったお金の5～6割が地元で還流します。地元製品を多く販売しているということもあります。使っている卸屋さんも地元資本の卸屋さんが多いですが、大規模ショッピングモールなど県外資本のお店は、県外の卸屋さんを使います。

(2) 固定資産税収の減少

次に困るのが固定資産税収の減少です。自治体の税収の3～4割は固定資産税収ですが、一番高い土地価格は中心商店街で形成されることが多いのです。この地域が衰退していくと、土地の価格が下がり、税収も減少していきます。

(3) 地域の個性の消失

中心商店街の経営者（特に老舗の経営者）はお祭りなど地域の文化や個性を形作る主要な担い手です。中心商店街が衰退していくと、文化の担い手が失われ、個性のない街になっていきます。

2. 新天町商店街の繁栄の仕組み

福岡市内の商店街が全て繁栄しているかということ、決してそのようなことはありません。福岡市営地下鉄の沿線にあり、周辺に住民も多い唐人町商店街や姪浜商店街は元気がありません。観光地でもある中洲川端の川端商店街は最近少し元気が出てきましたが、再開発の事業で建設した博多リバレインはうまくいかず、一度、倒産しました。人口が増えているからといって商店街が必ずしも発展しているわけではないのです。

ところが新天町商店街は、相変わらず人通りも多く空き店舗もありませんし、商店主同士のまとまりも強いのです。それは偶然ではなく、きちんと設計された仕組みに裏打ちされています。

(1) 回遊性を意識した新天町商店街の道路

戦前は、今の天神地区にほとんど店はなく、商店は博多地区に集中していました。敗戦直後は、福岡大空襲で天神も焼け野原でした。今では考えられませんが、当時は、イムズや福岡ビル（福ビル）のところに闇市すきがあって、とても荒んだ雰

囲気だったそうです。

そこへ、新たに商店街を作ることになり、3人のリーダーが街の仕組みの設計をしました。田中諭吉さん、原田平五郎さん、舟木卯一郎さんです。この商店街は、他の門前町や街道町の商店街のように歴史的・自然発生的にできた商店街ではないため、最初から買い物客がぐるぐると歩き回れるような道路動線の設計が行われています。いわゆる回遊性というものです。メインの通路に狭い通路を組み合わせてあり、ここが他の商店街との大きな違いの一つです。これを70年前に考えていたことに驚かされます。

他の商店街は、駅から家に帰るまでの一方通行の道（通路商店街）であることが多く、バス網の発展や自動車の普及により通路としての役割が無くなると、商店街に行く理由が無くなり、寂れていくのです。

この「意識的に道路を設計する」という精神は新天町商店街で今も受け継がれています。通路は、商店街組合の私有地にもかかわらず24時間開放されており、アーケード内には冷暖房が入っています。売り出しの時は、わざとワゴンを通路に出したりして、賑わいをつくり出しています。

(2) 商店街の土地・建物は組合の所有

次に、商店街の土地や建物の所有権についてです。一般的に商店街は、店の土地・建物の所有者はそれぞれ別々です。ところが、新天町商店街は土地も建物も商店街組合の所有なのです。そして入居希望者に組合が貸し出す方式を取っています。

この方式の何が良いかというと、まず空き店舗が出ないことです。多くの商店街では、売り上げ不振で店が撤退した場合、そのままずっと空き店舗になることがよくあります。土地や建物の所有者が家賃を下げるのが嫌だとかさまざまな理由がありますが、商店街にとって空き店舗は放置していくとだんだんと広がり



新天町大時計塔

ます。

新天町商店街では、空き店舗が出た場合には、組合の不動産部門が積極的に新規店舗の誘致を行い、家賃交渉も組合の判断で行うので、空き店舗が出ません。組合は、既存店と競合する店も誘致します。一般的な商店街は、同業の強力なライバルが入ってくるのを嫌がるものですが、新天町商店街は魅力的な店が複数あった方が、商店街としての魅力が高まり、結果として既存店にも良いという考え方をしています。風俗店など街の雰囲気を異にする業種が入ってくることもありません。適度に喫茶店や飲食店があるのも利用者にとってありがたいです。

(3) 広告宣伝費の支出を義務付け

次に広告宣伝の仕組みですが、一般的な商店街では、商店街全体で広告を出すにも、それぞれの店主の意見をまとめるのが一苦労です。また特にお金がかかるイベントになると、「そんなものはいらん」というようなさまざまな意見が出て、なかなかまとまりません。私の生まれた佐賀市では、1つの商店街のエリアに7つもの商店街組合があり、意見の調整にかなりの時間を要していました。

ところが新天町商店街は違います。出店の条件として、一定額の宣伝広告費を組合に支払うことが義務付けられているのです。ですから、組合が一手に引き受けて宣伝広告を積極的に行うことができます。「せいもん払い」というセールや、正月の大売り出しなど、四季折々にさまざまなイベントを仕掛けることができます。

(4) お祭りで店主同士の結束を強くする

多くの商店街では、商売上はライバルでもあるためか、意外と仲が悪いことがあります。商店街は店主のまとまりがないと発展はしません。そのために活用されているのが、お祭りです。5月の博多どんたくや7月の博多祇園山笠などに、各商店は積極的に参加しています。子供山笠などもあり、地域の人たちが広く参加しています。組合で旅行にも行かれるそうです。

3. 新天町商店街の課題

(1) 顧客層の変化への対応

新天町商店街を歩いてみると分かりますが、お客さまはシニア層が多いです。天神には福岡 PARCO や天神コアなどがあり、若者の街のような印象を持つ方もいらっしゃいますが、そうではありません。商店街には適度に喫茶店などが配

置され、シニア層にうまく対応できていると思います。

最近、外国人観光客が増えてきて、来客数の2～3割くらいを占めています。団体で来るのではなく、2～3人のグループで来ることが多いとのこと。福岡に来る外国人観光客の約6割は韓国からですが、台湾や香港の方も多く日本人よりも価格の高いものを買っていくそうです。これ以上外国人の割合が増えるのが良いのかということは、考えないといけないと思います。あまりに外国人が増えると日本人が来なくなる可能性があります。そのバランスをどう取るかは難しいところがあります。

新天町商店街全体としてウェブサイトやSNS対策はどうやっているかということ、ウェブサイトは多言語対応でしたが、インスタグラムなどはまだ組織的には行っていないようでした。

(2) インターネット通販との戦い

福岡市全体の域外収支を見ると、大部分の稼ぎが商業です。小売りと卸売産業です。博多や天神には、福岡市内はもとより九州各地から買い物客が訪れます。この買い物客がインターネットにどこまで奪われるのか。商業都市・福岡にとって、ネット通販との戦いは、九州内のどの都市よりも影響の大きな課題だと思います。

そしてこれから新たな段階に入ります。一つは、「スマートスピーカー」の日本への上陸です。すでに、グーグルからは「Google Home」が発売されており、2018年にはアマゾンの「Amazon ECHO」、アップルからも発売される予定です。音声でアマゾンなどのネット通販の商品が注文できるようになれば、さらにネット通販の利用が伸びていく可能性があります。

新天町商店街がどのような対抗策を打ち出すのかは分かりませんが、一つの策として、実際の店舗で、その商品に詳しい店員の説明を受けながら、自分に合った商品を選ぶ喜びを感じられるようなお店づくりをするというのが一つの方向性だと言われています。そして、ただ買い物だけでなく、そこに行くと何か落ち着く、何かよりどころを感じられる。今の新天町商店街はそんな魅力のある街ですが、それを消費者が次の世代に世代交代をしても、ネット通販では得られない、何かよりどころを感じられる街をどうつくるか。新天町商店街の今後の街づくりにも期待しています。

4. 新天町商店街に学ぶこと

今から商店街の土地や建物を組合の所有に集約していくことは現実的ではありません。しかし、新天町商店街は、商店街でありながら大規模ショッピングセンターのようにテナント誘致や広告宣伝を戦略的に行うことが可能な仕組みがつくり上げられています。それを可能にしているのは、所有権にかかわる仕組みとともに、店主のまとまりの強さであると思います。

大規模ショッピングセンターと比べると商店街は一斉に方向を変えることは難しいですが、どこが強みであるかを考えると、商店街は各店を即断即決のできるプロが運営しており、派遣店員の多いショッピングセンターや量販店と違う展開が可能であることではないでしょうか。まとまりができれば、広告宣伝費を一本化することや全体で空き店舗を埋めていく努力も始められます。

まず、まとまる。当たり前のことではありますが、新天町商店街の取り組みを見て、改めて感じたところです。

随筆

ミツバチと人

福岡大学理学部地球圏科学科助教 藍 浩之

執筆者紹介

藍 浩之 (あい ひろゆき)

1964年生まれ。福岡大学理学部地球圏科学科助教。博士(理学)。専門は神経行動学。大学構内にある雑木林で飼うミツバチを使って、ダンス言語の発達とその解読のメカニズムについて日々研究を行っている。



皆さんがミツバチと聞いて最初に心に浮かぶイメージは、野山でピクニックの時に、不意に針に刺され、せっかくの休みの日が台無しになってしまった記憶かもしれません。また、山の中で養蜂家が防護服を来て蜂蜜を採集している姿かもしれません。本稿では、ミツバチにまつわる「違い」をテーマに、ミツバチについて知ってもらいたいと思います。

1. 雄と雌

皆さんが外で目にするミツバチのほとんどは働きバチです。これは多くの方が知っていると思いますが、その全てが雌であることを知っている人は少ないかもしれません。また、働きバチは、われわれがむやみに捕まえようとする、尾端の針で刺します。実は、ミツバチの針は、産卵管が変化したものです。他の虫でいうと、秋に泣くエンマコオロギの雌の尾端には1.5~2cmの産卵管があり、土奥深くにそれを突き刺し、産卵管を構成する4本の産卵弁を交互に動かすことで、卵を土の奥底に生み落とします。産卵弁の内側にはうろこ状の「反し(かえし)」が多数あるので、このような左右の産卵弁の交互運動で卵を腹部から産卵弁先端

に送ることができるのです。ミツバチの針は、進化の過程で、この産卵弁が変化したものですので、雌にしかないということになります。

ミツバチは巣でさまざまな仕事を分業します。雌の働きバチは、巣の掃除をしたり、幼虫の世話をしたり、門番をしたり（巣の入り口で、自分の巣の仲間かどうかを見分けて、巣仲間以外は追い出す）、水汲みをしたり、蜜や花粉を集めたりしています。それでは、雄はどのような仕事をしているのでしょうか？雄は雌の働きバチの1.5倍ほどの大きさの体を持ち、一見強そうに見えます。しかし、何も仕事をせず、巣内でじっとしています。もちろん蜜を飲みますが、一生巣の中でのんびり過ごします（「わが家の誰かさんと同じ〜」という声が聞こえてきそうですが...）。そのため、“怠け者（drone）”と呼ばれています。しかしこの怠け者も、一生のうち、ただ一つだけ大事な仕事をします。それは春のある晴れた日に、大空に飛び上がり、新生女王バチが結婚飛行に飛び上がるのを待ち構え、交尾をすることです。大空で女王を見つけるために、雄バチの眼は顔の半分以上を覆うほど大きいのです。春の結婚飛行で役目を終えた雄バチは、秋までは巣の中で再び怠け者の生活を続けます。しかし、外が寒くなり、日が短くなってくると、働きバチは冬越しのための貯蔵蜜を無駄にすることができません。そのため、真っ先に巣から追い出されるのは雄バチなのです。雄バチは自分で花から採餌をする能力がないので、やむなく巣の外で短い一生を終えることとなります（読者の男性の皆さん、人間に生まれてよかったですね。私を含め 笑）。



採餌飛行に飛び立つミツバチ

このように、一匹の女王バチ、数千、数万匹の雌の働きバチ、数百の雄バチが、共同で分業しながら巣を形成しているのがミツバチの家族なのです。

2. ニホンミツバチとセイヨウミツバチ

われわれが口にする蜂蜜は養蜂家が採集したセイヨウミツバチのハチミツです。セイヨウミツバチは、西アジア（現在のアフガニスタン）発祥で、最初に人間に養蜂されたのが紀元前3,000~4,000年前という記録があります。そこからヨー

ロッパに広がり、アメリカ大陸にはコロンブスが最初に持ち込んだといわれています。その後、世界各地に広がり、日本には明治時代に輸入され、現代養蜂法の普及により養蜂が盛んに行われるようになりました。このようにセイヨウミツバチは、近年問題になっている外来生物なのですが、大きな問題にはなっていません。なぜでしょう？セイヨウミツバチは先にも述べたとおり、かなり古くから人間に養蜂され、その過程で品種改良され、蜜の収量が多く、さらに飼育しやすいようにおとなしい性格になり、今に至っています。このような家畜化された動物は自然環境の中では脆弱で、大型のスズメバチのような天敵のいる環境では生き残る可能性はほとんどありません。すでに日本に定着して問題になっているアルゼンチンアリ、セイヨウオオマルハナバチとは違うのです。

一方、ニホンミツバチは、古来から日本で生息する固有種です。セイヨウミツバチが草花から採餌する一方、ニホンミツバチは木花から採餌しますので、山に生息します。福岡と佐賀の県境の三瀬では、「三瀬和蜂研究会」が中心となり、ニホンミツバチの養蜂が始まっています。自然豊かな山間部で元気に飛び回るミツバチを見ると、福岡の自然はまだまだ捨てたものではないと嬉しくなります。ニホンミツバチはおとなしい性格ですが、セイヨウミツバチのように人間に飼慣らされていないので、巣の周りの環境が悪いと逃亡する傾向があります。また、日本に生息するオオスズメバチを代表とするスズメバチに対し、ニホンミツバチは熱殺蜂球（複数のミツバチが集まってスズメバチを取り囲み、飛翔筋を収縮させることで生じる熱で殺す。最近の研究で蜂球中は高温に加え、高湿、高濃度の二酸化炭素でスズメバチの致死温度を下げていることが分かってきた）を作り、巣の仲間を守ります。

セイヨウミツバチとニホンミツバチはお互い姿が似ていても、住む場所とヒトとの関わり方の違いにより、異なる運命をたどることになりました。しかし、いずれの種にも共通することは、やり方は違えども自分の能力を最大限に発揮し、必死で生き残ろうとしている点ではないでしょうか。

3. ミツバチとスズメバチ

ハチの仲間には、「ハナ蜂」と「狩り蜂」がいます。ミツバチやマルハナバチは「ハナ蜂」、オオスズメバチやアシナガバチは「狩り蜂」です。これらハチの仲間は共通して、腹部先端に針を持っています。しかしミツバチをはじめとする

ハナ蜂は、めったに人間を襲うことはありません。彼らが針を使うのは、自分のコロニーに危害を加える、またはその気配を感じた時のみです。また、ミツバチは一度針を刺すと、針と一緒に神経節が体から引きちぎられるため、死んでしまいます。一方狩り蜂であるスズメバチは、何度も針を使うことができます。



花粉餌を食べるミツバチ

スズメバチとミツバチの関係は、「捕食—被食」、つまり「食う—食われる」の関係で、秋になるとスズメバチはミツバチのコロニーを集団で襲いに來ます。先に述べた通り、ニホンミツバチはそれに対抗する行動を持っていますが、セイヨウミツバチはそれを持たないため、多くのコロニーが全滅させられます。これはセイヨウミツバチが日本で定着できない理由の一つです。

ミツバチから見れば、恐るべき天敵であるスズメバチですが、ただ捕食することが目的ではありません。彼らも、ミツバチと同様に女王バチを中心とした家族を形成し、春には自分の家族の食料として、秋には冬越しの女王を育てる食料として、ミツバチを襲いに來ます。彼らも自分の家族の生き残りのために必死で餌を集めているのです。

4. 天然林と人工林

ミツバチ、特にニホンミツバチが生息する天然林には、季節ごとにさまざまな花が咲きます。サクラやケヤキ、ブナなどの広葉樹は種類も豊富で、しかもその下部には草本も生えるため、花から採餌する昆虫には生活しやすい環境といえます。

では人工林とは何でしょう？人工林は、第二次世界大戦後の復興期から高度成長期にかけて、建築材としての価値が見込めるために、盛んに植林がなされた林のことで、スギ、ヒノキ、カラマツ、アカマツ、クロマツ、エゾマツ、トドマツなどの針葉樹林からなります。これらは単相林（樹冠の部分が均一になっている林。日光が地面に届きにくい）であるため、昆虫やさまざまな動物が好む植物が生育しにくい林です。また、人工林では、下草刈り、間伐、枝打ちなど、手入れ

が欠かせません。しかし、1991年のバブル崩壊を機に建築資材としての価値が下落すると人工林の手入れがされなくなり、土地がやせてしまい、人間にとっても動物たちにとっても使い道のない放置林として、大きな問題となっています。

かつては自然豊かであった日本の林のうち、現在その4割は人工林で、最近では山で生活できなくなった野生動物が人里に餌を求めて降りてくるようになり、社会問題になっています。国連の定めた「生物多様性条約」（1992年採択）、国が定めた「生物多様性基本法」（2008年に制定）、また福岡県や福岡市などの地方自治体でもこれらに対応した政策が定められ、産官民を挙げての活動が進められていますが、なかなか目に見えて結果が出ないのは、それだけ困難な問題であることの表れです。

花は、植物にとっては生殖器官であり、ここで種を作ります。つまり季節を通してさまざまな花が咲くことが、豊かな自然の源になります。では植物の多様性は自然界でどのように維持されているのでしょうか？実は、植物の多様性は、ミツバチのような「花粉媒介昆虫」が維持しています。逆に、植物が季節を通して多様な自然があれば、ミツバチを含む野生動物も生活することができるため、植物と花粉媒介昆虫は、共存共栄の関係にあります。われわれ人間は、自然の維持につながる生態系の循環を作り出すための地道な努力を続け、さらにそのアイデアを考えることが必要だと感じます。

5. 農家と養蜂家

ミツバチは、餌を取る際にさまざまな花の匂いを脳で学習・記憶し、再びその花を訪れます。しかし近年、ミツバチが女王や幼虫を置き去りに逃亡する蜂群崩壊症候群が世界中で問題になっています。これは複数の要因によるといわれていますが、そのひとつである日本の稲作農家で一般的に多く利用されている「ネオニコチノイド農薬」がミツバチの学習・記憶を阻害することや、ミツバチがこの農薬を好んで摂取する性質があることを近年、イギリスの研究者が報告し、話題となっています。また、2016年に同じくイギリスで、ネオニコチノイド系農薬の使用とミツバチの個体数減少には相関があるということが報告されました。

この問題は研究者以外からも注目されており、この件を取り上げた2017年2月の「ミツバチシンポジウム」（写真）には、全国から養蜂家を含む100人以上の参加者がおり、新聞でも報道されました。

ご存じのとおり、農薬はもともと作物を虫害から守るための薬品で、このネオニコチノイドも稲作農家には欠かせないものとなっています。環境に配慮した未来型農業では、薬品で駆除する方法に加え、害虫の住みにくい環境に改善したり、天敵による駆除、さらに害虫の特性に合わせたトラップを利用する等、総合的に有害生物を駆除する「総合防除 (IPM)」により、薬剤偏重による環境への悪影響を低減するなど、農作物を作る農家の方と、養蜂家が住み分けできる環境を提供するための技術が必要です。この技術として最近話題の室内農業はその一つの選択肢であろうと思います。

われわれ福岡大学の研究チーム（理学部地球圏科学科と工学部電子情報工学科の共同研究チーム）は、咲いている花の場所と種類を観測し、年間を通じて開花マップを作成する研究を進めています。



ミツバチシンポジウムは、福岡大学・兵庫県立大学・玉川大学の研究グループが、研究成果を広く知ってもらうことを目的に定期的に開催



ネオニコチノイド農薬の影響について講演する金沢大学の山田敏郎名誉教授（2017年2月）

6. ミツバチと人

先にも述べましたが、ミツバチは巣の周りのさまざまな花から蜜を集めてきます。ミツバチが一生で集める蜜量は10グラムほどですが、巣の中には数十キログラムのハチミツが貯め込まれます。これだけ多量の蜜を、ミツバチはどのように集めるのでしょうか？実は、



巣に蜜をため込むミツバチ

採餌から帰ってきたミツバチは、蜜を仲間に渡すだけでなく、蜜の場所を、特有の言語により仲間に教えます。「尻振りダンス」と呼ばれる行動がその言語で、お尻を左右に振る時間が蜜源への距離を、その時の体軸方向が花の方向を示しています（われわれが、友達に「福大の1 km 南に美味しいケーキ屋さんがあるから一緒に行こう！」と言っているように）。ミツバチが独自の言語で高度な社会を形成していることと、われわれ人間が言語を用いて高度な文明を発達させてきたことは、いずれも言語コミュニケーションのなせる業です。福岡大学では、ミツバチがダンスからどのように蜜源への距離と方向を解読しているのかを調べる研究を行っています。その結果、尻振りダンスに追従するミツバチの脳内で、蜜源への距離を検出するストップウォッチ型神経回路が見つかり、その論文が北米神経科学会誌 Journal of Neuroscience に掲載されました (<https://www.fukuoka-u.ac.jp/research/column/17/11/15135258.html>)。このように高度な言語を扱えないミツバチも、脳にあるストップウォッチを駆使して、仲間から大事な情報を受け取っているのです。一寸の虫にも五分の魂、人とミツバチは姿は違えども、高度なコミュニケーション能力を持ち、同じ地球で生きているのです。研究室ではミツバチの言語の世界を探求する若者たちが新たな挑戦を続けてくれています。

さて、ここまでミツバチにまつわるさまざまな「違い」を見てきました。これらの「違い」を理解し、価値を認めることで、われわれの知的視野は広がります。ミツバチは自然と真摯に向き合い、その小さな体で懸命に生きています。この小さな巨人は、われわれの身の回りの自然をモニタリングし、メッセージを送り続けています。その声に耳を傾けることで、人類の豊かな未来を切り開くことができると思います。これを機に、自然の声に耳を傾けてくださる方が増えることを切に願っています。

随筆

日本とドイツのさまざまな違いについて

福岡大学人文学部歴史学科1年次生 ラート・デニス・ミカエル

執筆者紹介

ラート・デニス・ミカエル

1996年ドイツのベルリン生まれ。2014年来日。現在、福岡大学人文学部歴史学科1年次生。趣味は日本史の勉強、自転車旅行。友人との飲み会も楽しみの一つ。



世界の国々はそれぞれに特徴があり、時とともに独特の文化を養ってきました。中でも非常に発展した文化があれば、そうでない文化もあります。私の母国であるドイツと、現在滞在している日本という2カ国のいずれも先進国として知られているのに対して、文化的な違いは数え切れないと言っても過言ではありません。今回、それらの違いについて具体的に述べていきたいと思います。私が来日して以来、どのような場面に出会ったか、驚いたことや面白いと思ったことのさまざまな例をあげようと思います。しかし、その前にひとまず自己紹介をさせていただきます。

福岡大学人文学部歴史学科1年次生のラート・デニス・ミカエルと申します。約3年前出身国のドイツ（ベルリン）で高校を卒業して、将来について一層深く考えるようになりました。これといった目的なくそこでの大学へ入学するのも良くないと判断し、まず人生の貴重な経験を集めることにしました。特に異文化やさまざまな人間性について学びたくて、子供の頃から興味津々だった国、日本へ留学することを決めました。最初の1年をワーキングホリデーという形で日本（概ね福岡）での日々を過ごして、日本語を習いながら毎日少しずつその文化に触れ合いました。いつの間にかこの国と人を大好きになって、日本の大学入学を



はじめとして、将来日本での就職を自分の目標として取り上げました。1年後、留学生として正式に日本語学校に入って、15カ月間勉強を重ねた結果、今年の4月ようやく福岡大学に入学することができました。それから半年が経過し、初めての定期試験も無事に終わりました。それではこの3年間私はどんな場面に遭遇して、どのようなことに気付いたか、具体的に見ていきましょう。

初めて日本へ来た時、実に驚きました。あまりに母国のドイツと違いすぎて、強い衝撃を受けました。例えばドイツにないものが日本には多種多様に存在していたからです。中でもコンビニ、居酒屋、ゲームセンター、お寺や神社など、数えようとしても一生かかるくらいのかなりの数です。食文化の違いも一目瞭然で、ドイツの主食はパンであるのに対し、日本での主食は紛れもなく白御飯にはかなりありません。続いて日本人は生魚（刺身、海鮮丼など）を食べる文化があります。最初はかなり抵抗していましたが、今ではもう大好物になりました。それと居酒屋のことはすぐに気に入りました。友達やアルバイト先の先輩と一緒に飲みながら美味しい料理を満喫できるその空間。最高の幸せでなくてなんなんだろう。そういった文化はドイツにはありませんでした。レストランで食事をするか、あるいはバーでお酒を楽しむか、どちらか一つです。それらを融合した天才に一度会っ

てみたいものです。また「おごる」という文化も忘れてはいけません。先輩が後輩に「おごる」だけではなく、友達同士でもよく「今日は俺のおごり」というように相手のために何かをしてあげたいという心優しさに感動しました。ドイツで相手の会計を払うことは、それが友達であろうと後輩であろうと関係なく、おごってもらう側にとって必ず気まずいです。相手に借りをつくることは好ましくないというような説明がつかかもしれませんが、「自分のビールはちゃんと自分で払える、余計なお世話」といった考え方を持つ人も少なくありません。



アルバイト先の仲間と

仕事やバイトだけではなく、日本の社会全体において上下関係というものが強く反映されているようです。その状態を表す最も代表的なものは、敬語に違いありません。相手の立場や権威によって使用する言葉をきちんと選ばないと目上の人に対して失礼な態度になる上、自分も社会人として失格です。偉くなればなるほど責任が重くなり、失敗をしたら会社に損害が生じるどころか倒産に至る可能性さえあります。つまり偉い人に対する敬語使いというのは、その人が年々に積み重ねた努力を認め、尊敬することになります。ドイツでは、上下関係自体は存在しないとは一概には言えませんが、日本ほど強くは見られないのは確かです。それ故、社内の人間関係はさほど複雑ではないし、気をつかうという習慣もあまり広く用いられていません。もちろん会社によりますが、若干曖昧な労働態度になりがちです。

お店の方も同様です。例えば日本の居酒屋のサービスは一言で言えば「凄い」です。お客様はまさに神様のような扱いを受けています。サービスや料理の質はお店によって異なるということも言うまでもありませんが、これまで行ったことがあるお店で失望させられたことは一度もありません。サービスを通して日本の「おもてなし」というのがよく伝わります。それに比べて、ドイツでのサービス

の概念は根本的に違います。店員のお客さまに対しての言葉使いは友達同士のような感じがして、できるだけフレンドリーな話し方をするように指導されるらしいです。

例えば次のような場面では、このようになります。

一般のレストランあるいは居酒屋で、お客さまに注文を聞く場面

日本：（店員） ご注文をお伺いしましょうか？

ドイツ：（店員） 君たちは何を頼むかい？

五つ星レストランでしたらドイツでのサービスもちろんより丁寧なものになりますが、基本的にこんな感じです。日本の丁寧なサービスや扱い方に慣れるまで多少時間がかかったにもかかわらず、今ではかなり気に入ってます。いつも客側にいるのも面白くないと考えながら、居酒屋でのバイトを始めました。覚えることは山ほどありますが、他の店員さんと共に働くことも楽しいし、社会勉強にもつながります。定休日に皆で飲みに行ったり普段できないような話をしたり、お互いよりよく知ることができるいい機会です。

次に、宗教という面について述べていきたいと思います。日本人の多くは「あなたの宗教は何ですか」と聞かれたら、「特に信じていない」とか「一応仏教ですがそこまでではない」というような曖昧な返答が恐らく出てきます。しかし、表では信仰していないのに対して、宗教的行為を行う習慣はあります。例えばお墓参りや初詣、七五三やお宮参りはその代表的なものです。これらは仏教または神道に属する行為ですが、キリスト教的な行動も見られます。例として、クリスマスや復活祭が挙げられます。またハロウィンのようなアメリカから入ってきたお祭りのような行事も注目を浴びています。要するにさまざまな宗教や異文化が日本に入ってきて、現在の日本の文化と共存するようになりました。特に宗教という極めて敏感なテーマに関して、日本人は非常に寛容であり、とにかく新しい何かを受け入れようとする積極性に私は感動しました。ドイツでは、キリスト教と他の宗教を必ず区別します。イスラム教の信者は絶対キリスト教の教会には行きません。もちろん強く信じる人もいれば曖昧な人もいます。ただし強い信者は曖昧

型の気持ちを決して理解できず、何でこの人は何々教信者を名乗っているくせにそのルールに従わないのかを疑問に思います。宗教はドイツにおいて相当敏感なテーマになりつつあり、相手を傷つけないように常に注意すべきです。

最後に日本とドイツの大学の違いを簡単に説明しておきたいと思います。まず入学試験からスタートです。ドイツのほとんどの大学において入学試験というのは実施されていません。それはなぜかと言うと、高校の最後のあたりに卒業するための「アビトウア資格」を取得しなければならないからです。この資格は卒業条件と同時に大学へ入るための資格でもあります。アビトウアの成績が良ければ良いほど大学へ入学できる可能性が高まります。また勉強したい専門ごとにそれぞれの履修条件があり、その中では医学部へ入る条件が最難関です。

それに加えてドイツの大学は、入学金も授業料もかからないと言っていいほど安いです（年に約2万円程度）。しかし、それは果たしていいことでしょうか？勉強に費やす時間は確かに増えるし、ストレスもさほどありません。とはいえ、大半の学生は勉強はおろか試験にしか大学へ行かないのが現状です。一人暮らしをしなければ、バイトをする必要もありません。バイトをする目的はお金を稼ぐことですが、社会勉強にもつながると私は思います。社会人になるにあたって貴重な経験を集める場になります。ただし、ある程度リスクも兼ねています。それは一言で言えばブラックバイトにはかなりませぬ。日本で極めて多いと聞き、驚きました。まだ未熟な学生に舌先三寸で給料が良さそうなバイトを勧めたり、労働法に違反するなど本当は違法なバイトのことです。流石にこんなことはドイツではめったに起こっていません。もう一つバイトの欠点について触れると、働きすぎという危険があります。授業料を自分で支払う学生もいるので、バイト代でそれを賄うことは相当大変なことです。やはり授業料が高すぎることもよくありません。従って、日本とドイツの間の制度を考えなくてはなりません。



大学の同級生と

安全に、ある程度のバイトが出来るような環境を作る必要があると私は思っています。

異文化というものに、われわれはこれからより多く触れ合うことになるでしょう。現代の日本にも沢山の外国人がやってきて、彼らの価値観や考え方を理解できれば一緒に社会を支えることもできます。相手の文化を尊重し、お互いの共通点や違いを認め合えば日本の社会だけではなく国際社会にまで影響を与えられます。皆で仲良く頑張りましょう！

随筆

私にとっての野球

—日本代表になったピッチャーとキャッチャー—

福岡大学附属大濠高等学校硬式野球部

1951年創部。部員54人（2017年12月現在）。八木監督の下、全国優勝を目標に日々練習に励んでいる。「学生コーチ」制度を取り入れていることが大きな特徴である。今回の執筆者2人を含むチームの戦績については116ページ参照。

勝つために

福岡大学附属大濠高等学校 3年生 三浦 銀二

私がこれまでの人生で最も時間と情熱をかけてきたもの。それが野球です。野球はこれまで私にさまざまなことを教えてくれました。

まず、私が一番感じていることは、「チーム」として戦うことの難しさと大切さです。野球は一人のできるスポーツではないので、チームワークが勝利の鍵になることは言うまでもありません。チームワークを生み出すために大事になってくるのは、チームメイト一人一人との人間関係、つまり信頼の在り方です。おのおのが中学まで違った環境で野球をしてきているので、考え方が違うのは当たり前です。チームというのは、その考え方を合わせていく過程でまとまっていくものです。一人一人を尊重し、認め合って、初めてチームで勝ち取れる「勝利」というものが見えてくるのだと思います。

私は幼い頃、野球チーム育成シミュレーションゲームをやっていました。そのゲームは、私の操作で選手が動き、選手の管理も全て私一人で行うので、当然そこには「人間関係」などというものはありません。しかし、現実の野球では、そこが最も重要だと私は考えます。これまで野球を通じてたくさんの仲間と巡り合い、たくさんの出会いを経験してきました。そんな仲間との練習や共に過ごした

時間は私にとって最高の宝物であり、何ものにも代え難いかけがえのないものとなっています。私たちは、幸いにも勝つことで遠征も多く経験でき、一人一人と触れ合える時間が長くあったのも幸運なことだと思います。

そして次に、私が野球において重要だと感じている点は、自身の調子を来る試合の日に合わせることです。これはスポーツに限らず、何かの本番を迎えた際に緊張してしまい、本来の力が発揮できないことはよくあることだと思います。しかし、野球において、本来の力が発揮できずに生じたミスはチーム全体に迷惑を掛けることとなります。先ほど述べたように、野球はチームで行うスポーツであるため、このような試練は選手全員に課せられます。大濠高等学校硬式野球部では、全員がそれぞれの与えられた仕事をきちんと責任を持ってやっています。1ピース1ピースがかみ合い、立派な一枚の絵になっていたと思います。ミスをしても、「誰かが取り返してくれる」と思えることで信頼は深まり、こういった試練の先に勝利があるのです。私は、野球の勝利に欠かせない要素は「テクニク」より、むしろ「メンタル」にあると考えています。



11月の神宮大会（左）と3月の選抜大会（右）での筆者
試合の日に向けて調子を合わせることは重要

私の夢は、野球というスポーツを通じて周りの人々にたくさんの夢と希望と感動を与えることができる選手になることであり、私は、これからもこの夢に向かって邁進していきます。そして、いつになるかは分かりませんが、必ず夢を実現できるように努力し続けます。

新チームになって

福岡大学附属大濠高等学校 3年生 古賀 悠斗

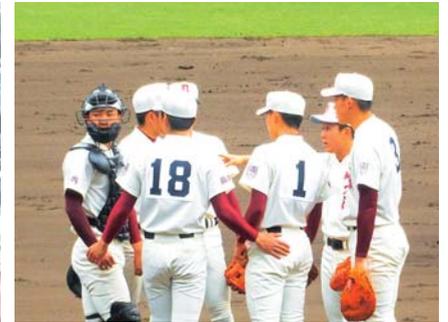
「お前、今日からキャッチャーやれ」、監督にそう言われたのは高校2年生の秋でした。それから、厳しい日々が続きました。その日からキャッチャーとして練習を始めましたが、何から始めていいのかも分からないまま時間だけが過ぎていきました。自分がしっかりしないとチームがまとまらないのも分かっていたし、チームの要であるキャッチャーが不安を抱えていてもダメなのも分かっていたのですが、右も左も分からない状態だったのです。チームのことを考える余裕なんてありませんでした。ノックの時は自分のことばかり考えてしまい、打撃練習の時ですえも、キャッチャーのことで頭がいっぱいでした。

その時の自分を振り返ってみると、全く周りが見えていなかったのでしょうし、ゲームキャプテンとしての役割が疎かになっていたのだと思います。その時に助けてくれたのは、やはりチームメイトでした。本当に周りも見えず自分のことで精一杯だった私を助けてくれたのは、最高の仲間でした。仲間たちから刺激をもらい、「ゲームキャプテン」という役を任せられている自分がこのままでいいのか、と3年生の部員全員に言われた気がしました。中でも特に助けてくれたのは、チームキャプテンであった亀井^(注)です。新チームがスタートしてから2人でずっとチームのことについて考えてきました。「どういうチームにするのか」「そのためにはこれから何をしなければいけないのか」という話をしていました。自分がチームのことを考えられていない時も、亀井は変わらずチームのことを一番に考えてくれていました。本来なら自分がしないといけない役割までもこなしてくれたので、本当に亀井には負担をかけてしまったし、助けられたなと思います。そういったチームメイトの助けが自分の励みになり、厳しい日々も乗り越えることができました。

それから、月日が経つごとにチームとしてまとまっていき、一体感が生まれ、まずは県大会で優勝という目標を立て、迎えた2年生の秋の大会で優勝できました。九州大会出場を決めたそのままの勢いで九州大会も優勝し、翌春の選抜大会と神宮大会への出場を決めました。その時は、本当に心の底から嬉しくて、真っ先に亀井のもとへ駆け寄り抱き合いました。“あの時”に助けてもらったので、結



神宮大会での筆者
この打席でホームランを打った



筆者(左)や三浦選手(背番号1)に
指示を伝える亀井選手(背番号18)

果で亀井に恩返ししようと思っていました。それが、最高のかたちで一緒に喜びを分かち合えて良かったなと思います。ずっと夢に見ていた甲子園に行けたことも、神宮球場でみんなで野球ができたことも、共に過ごした宿での時間も全て一生の思い出です。

入学してから2年半過ごした時間は私の中で一生の宝物です。また、この仲間とは大人になってもつながりを持ち続け、次は人生の助け合いもできたらいいなと思います。

(注) 福岡大学附属大濠高等学校硬式野球部では、「学生コーチ」制度を取り入れています。「学生コーチ」に任命された選手は、練習内容を選手に伝えたり、練習態度などに問題があれば監督に代わって注意したりします。亀井選手は「学生コーチ」かつ「主将」としてチームをまとめる役目を担っていました。

三浦・古賀両選手の主な戦績

とき	大会名	結果
2016年10月	第139回九州地区高等学校野球大会福岡県大会	優勝
10月	第139回九州地区高等学校野球大会九州大会	優勝
11月	明治神宮外苑創建90年記念第47回明治神宮野球大会	ベスト4
2017年3月	第89回選抜高等学校野球大会	ベスト8
4月	第140回九州地区高等学校野球大会	ベスト8
7月	第99回全国高等学校野球選手権大会福岡大会	準優勝
9月	第28回 WBSC U-18ベースボールワールドカップ	銅メダル



日本代表ユニホーム姿でメダルを披露する
三浦選手（右）と古賀選手（左）

随筆

津軽と三味線と私

福岡大学附属若葉高等学校 2年生 高野 夏美

福岡大学附属若葉高等学校津軽三味線部

2000年創部。部員14人（2017年12月現在）。部員全員が津軽三味線未経験で入部。保健体育科岩田英世教諭の指導の下、週に5日ほど練習を行っており、部員は1～2年のうちに全国大会で優勝するまでの実力に達する。
2017年5月、津軽三味線発祥の地である青森県五所川原町市金木町で行われた「第29回津軽三味線全日本金木大会」において、団体・中高生の部で3年連続の優勝を果たした。

私と津軽三味線の出合いは中学3年生の時に参加した若葉高校のオープンキャンパスでした。三味線に触ったこともない私には、先輩たちが奏でる津軽三味線の音が、初めて聴くはずなのにどこか懐かしいという、心地良い違和感として入ってきました。そして高校に入学して津軽三味線部に入部後は、日本人でありながら、日本の楽器のことを知らな過ぎる私の驚きと苦労が始まりました。

警女三味線をルーツに持つ津軽三味線は、盲目の男性（坊様）が屋外で三味線を弾きながら家々を回って、お金やお米などをもらってその日の糧にする（門付け）中で確立していったという歴史があります。どういうことかと言うと、玄関先から屋内の人に聞こえるよう、またはお祭りなどが集まる場所で多くの聴衆に注目されるよう、大きな音で、そして他人が真似のできない特殊な演奏方法を駆使することから培われてきたようです。津軽三味線というと、「日本海の荒波をバックに小雪ちらつく中、大岩に座って三味線をかき鳴らす」というイメージがありますが、実際は波や風の音で三味線本来の音が聞こえない上、湿度で三味線の皮が破れるし、寒いし、聴衆も耐えられないだろうし、全くあり得ないことだと思います。



津軽三味線は「叩いて」演奏します

津軽三味線はその奏法も独特です。津軽を代表する民謡の「津軽じょんから節」は、唄自体はさらに昔の150年以上前から存在し、農作業の効率を高めるためにリズム感を出したり、疲労感を取り除いたりするという意味合いで歌われていたようですが、伴奏の三味線は興業などが

始まった後世に、おのおのが歌手の唄を引き立たせるために作られたため、100人弾けば100人も違った弾き方となり、同じ人であっても、二度目の演奏では違った弾き方をするなど、即興性の高いものです。さらに、通常三味線を演奏することを「弾く」と表現しますが、津軽三味線に限っては、弾くではなく「叩く」といいます。そのため、通常の三味線には猫のお腹の薄い皮を使用しますが、津軽の太棹三味線は大きな音を出すために胴も作りが大きく、叩きつけることを考慮して、犬の背中中の皮を使用します。叩くのは見た目以上に難しく、中学時代に剣道をやっている腕力に自信があった私でも、なかなか大きな音を出せずに苦労しました。また、三味線の弾き方にも端唄、小唄、都々逸、新内、常盤津などにはそれぞれの弾き方の良さがありますが、津軽のそれとはかなりの違いを感じました。

叩けるようになると曲を覚えるのですが、これがまた厄介でした。歌謡曲や洋楽に慣れ親しんでいた私にとって、津軽民謡の唄に合わせて演奏する伴奏楽器の津軽三味線は、意味を理解するのに難解な津軽の方言での唄と独特の間を会得することが大変でした。余談となりますが、この“間”が外れている人のことを「間抜け」というそうです。間抜けにならないよう、先生の演奏を録音したCDを数百回聴き込んで覚え、曲が弾けるようになったらお声を掛けていただいた高齢者の福祉施設や地域のイベント等で実演します。

思うような演奏ができなかった私にも、「良かったよ」とか「感動した」などの温かい言葉をかけていただき、次はもっと上手に演奏できるようにと、日頃の練習にも熱が入りました。しかし、演奏を聴くために集まっていたいただいた方々の前で演奏をして温かい言葉を頂いた私と、聴くつもりもない人たちの足を止めさ

せ、門付けをしていた坊様とは、境遇の違いと生きることの厳しさを感じざるを得ませんでした。

全国大会に出場するために青森県の津軽に行き、初めて知ったことや考えが深まったことがありました。青森県の津軽地方は、津軽三味線の聖地なので、津軽の人にとって三味線は大阪のたこ焼き器のように、また沖縄の三線の^{さんしん}ように家庭の一つは存在し、慣れ親しんでいるものと思っていましたが、私の大きな勘違いでした。門付けをしていた坊様は目が不自由で、昔はそのような「障がい」を持った者が住んだ家は、「前世のたたり」であると蔑まれていたそうです。そのためか生家の近くでは門付けができないので、知り合いのいない遠方で門付けをしていたということを知りました。以上のことから津軽地方では健全者が三味線を弾くと、「お前は坊様になるのか？」と卑しまれていたことを知りました。現在ではそのようなことはないですが、その名残なのか、津軽に来てから津軽三味線の大会以外で三味線を弾いている人に出会うことはありませんでした。大会の出場者に津軽出身者も少ない上、お世話になっていた大会会場の近くの民宿のご夫婦も、三味線を直に聴いたことがないということでした。もしかしたら、津軽三味線は歴史の中で消え去っていく運命にあるのではないかと、当時の津軽の歴史を知らない県外の人たちが、その魂を揺さぶる音楽性だけを発掘してブレイクしたのではないかと、津軽の方々は複雑な心境なのではないかと、などいろいろと考えさせられました。

大会では津軽の匂いのする地元の高校の津軽らしい立派な迫力のある演奏もありましたが、先輩方や仲間の協力もあり、私たちは念願の三連覇を達成することができました。そのこと自体は大変うれしく思いますし、一生の思い出になると思います。しかし音楽は芸術であり、生意気な言い方をすれば絵画などと同じように好みであり、上手・下手はないと思います。具体的には、ゴッホとピ



「第29回津軽三味線全日本金木大会」で優勝

カソの油絵、安藤広重と写楽の浮世絵はどちらが上手かという問いと同じです。私たちの演奏が、有名な画家と同じレベルであるとは爪の先ほども思ってもいませんが、審査員や津軽の方々に高く評価していただいたことには大変感謝しています。

私は津軽三味線の成り立ちの精神に立ち返り、他人が真似のできないような、そして多くの方々に感動を与えられるような演奏を、今後も目指していきたいと思えます。

福大トピックス

「日本型」疾病管理手法と 糖尿病重症化予防への応用

福岡大学筑紫病院内分泌・糖尿病内科教授 小林 邦久

執筆者紹介

小林 邦久（こばやし くにひさ）

1962年生まれ。福岡大学筑紫病院内分泌・糖尿病内科教授。福岡大学筑紫病院副病院長、地域医療支援センター長（併任）。生活習慣病の疾病管理・重症化予防のための医療サービスの構築に取り組んでいる。



筆者が日ごろ診療を行っている糖尿病などの生活習慣病は、生活改善や治療を継続するモチベーションを患者に維持させることが困難な疾病であり、治療の中断・脱落から重大な合併症発症につながってしまうという面がある。そこで筆者は、患者に対する効果的な疾病管理サービスを構築することを目的に合同会社「カルナヘルスサポート」で研究を行っている。本稿においては、カルナヘルスサポート（以下筆者ら）が行っている疾病管理の手法と、「糖尿病重症化予防」への応用について紹介する。

糖尿病医療の現状

食生活の欧米化および運動不足による肥満の増加を一因として、糖尿病患者数は厚生労働省の2016年の推計では約一千万人に達したことが示されている¹⁾。糖尿病は、発症初期から厳格な血糖コントロールを行うことが糖尿病合併症の発症・進展予防のために極めて有効であるということが明らかになっているにもかかわらず、初期の糖尿病が多いと考えられる40歳代の患者の約6割が治療を受けていない現状がある²⁾。糖尿病診断者の未受診および治療中断の原因として、長

い待ち時間と短い診療時間によって治療意欲の維持が難しいこと、あるいは仕事や家事が忙しいことにより定期的な通院時間の確保が難しいことが考えられる。また激増している高齢糖尿病患者の中には脳梗塞後遺症や整形外科的疾患などによる歩行障害や認知症による通院困難例も多い。以上の問題を解決して糖尿病合併症の発症・進展を予防することは少子・超高齢社会を迎えているわが国の労働力や医療・社会資源を維持するための喫緊の課題と考えられる。

疾病管理手法とは

筆者らは、米国で開発・発展した疾病管理手法がその解決に寄与すると考えた。しかし、保険者が医療に対して強い影響力を持つ米国のシステムを、皆保険制度があり、どの医療機関でも自由に受診できる日本にそのままでは導入することはできない。そのため、現在までにガイドライン診療(学会で推奨されている診療)をサポートするサービスや、患者の通院意欲の維持増進、および患者-医療者間の信頼関係の構築を目的とした「日本型」疾病管理の試みを行ってきた。以下に、医療者と患者それぞれに対する疾病管理手法の概要を示す。

1. 医療者に対するサポート

(1) ガイドライン診療実施を容易にする外来クリティカルパスの作成

外来クリティカルパス(検査・教育計画表)を作成するに当たっては、合併症の状況や疾患に対する知識習得度が千差万別である上、各合併症は血糖コントロール状況や罹病期間と関係なく個別に増悪・寛解をみることから、全ての患者に同一のクリティカルパスを使うことが困難であることを考慮に入れる必要がある。すなわち「個々の患者の個々の時期に個々のクリティカルパス」が作成できるシステムを用意して、患者の個別性に即時に高度に対応することが要求される。筆者らは基本シートとオプションシートを組み合わせる「重ね合わせ法」を考案し、このようなクリティカルパス作成を可能とした³⁾。

(2) 疾患に対する理解度や合併症の徴候などをあらかじめ患者から聴取しておき、かかりつけ医に受診前に提供するサービス

患者からの電話を待つのではなく、患者へ電話をかけていくアウトバウン

ド型コールセンターで診療時に必要な情報収集(理解度・合併症徴候の有無など)をあらかじめ行って、事前にかかりつけ医に提供しておくことで、節約できた時間を診察・検査に有効に活用することを期待している。

(3) かかりつけ医と専門医との連携サポートシステム

コールセンターによる情報収集において、専門医受診が必要と判断された場合は、あらかじめ患者情報や既往歴・薬剤使用歴・検査結果などを記載した紹介状原本を作成し、かかりつけ医に送付しておく。かかりつけ医も受診が必要と判断した場合には、紹介状原本をチェックの上、適切であれば使用してもらうことで医療機関の間の連携強化や時間の節約に資することを目的としている。

2. 患者の通院意欲の維持・増進のためのサービス

採血検査が外部委託である場合、患者は前回受診時のデータに基づいて診療を受けることになるため、受診日近くの患者の努力との間に違いが生じる場合がある。これは患者のモチベーションを低下させる原因になりうるため、受診後なるべく早く患者に結果を医療者のコメントとともに伝えることが必要である。また予約日に受診しなかった場合には、そのまま脱落してしまうことが多いため、必ずすぐに患者に連絡し、通院継続の意思があれば予約日再設定も代行する。

以上のように、医療機関が行う月1日の診療に加え、残りの29日も含めて患者・医療者双方をサポートしようとするのが疾病管理手法である。

疾病管理手法の優位点

疾病管理手法が生活習慣病治療において優れている点としては、上記のように患者の個別性に高度に対応した上で提供する医療を標準化しているため、IT化可能であることが挙げられる。この手法により、かかりつけ医やコールセンターのオペレーターの知識や技量によらずに、患者に対して公平で適正な医療を提供でき、また同時に多くの患者にも対応できる。

データヘルス計画と重症化予防

「データヘルス計画」は2013年6月に閣議決定した日本再興戦略の中の「国民の健康寿命の延伸」を目指す新たな取り組みとして計画されたもので、全ての健康保険組合等の保険者がレセプト等のデータを活用し、PDCA(Plan、Do、Check、Act) サイクルに沿って、保険加入者の健康保持増進を行うためのものである。データヘルス計画で取り組む目標の1つとして、「生活習慣病の進行および合併症の発症を抑えるための重症化予防」が挙げられた。

疾病管理手法の重症化予防への応用

疾病管理手法をデータヘルス計画の中の重症化予防に適用するに当たって筆者らが留意したものが「PDCA サイクル」「経済性の重視」「行動変容」「客観的なアウトカム評価」である。

1. PDCA サイクル

データヘルス計画は、PDCA サイクルを回すシステムであるが、疾病管理手法の中にはもともとPDCA サイクルの考え方が含まれている。これは疾病管理プロセスの6要素と呼ばれるもので、①特定②評価③階層化④働きかけ⑤効果測定⑥再評価から構成されている。筆者らは、この疾病管理プロセスの6要素をデータヘルス計画のPDCA サイクルに組み込み、大きなPDCA サイクルの中で、小さな疾病管理プロセスの6要素が幾つも回るモデルを提唱している。

2. 経済性の重視

(1) クリティカルパスを活用したナビゲーションシステム

筆者らは、データヘルス計画や重症化予防における介入内容も、全て前述のクリティカルパスによって管理している。

具体的には、①フィジカルアセスメント(全身診察)②合併症などの徴候聴き取り③服薬・食事・運動指導④検査値の4カテゴリーにおいて、糖尿病・脂質異常症・高血圧・慢性腎臓病など7疾患とその重複罹患ごとに、指導項目や聞き取り項目とその結果による指導内容の変更を設定し、対象者の状態に即応するオーダーメイドクリティカルパスを作成している。これらの

指導や聴き取り項目は約一千項目存在し、全てITシステムにより管理され、ナビゲーションシステム(タブレット端末)で指導者(看護師や保健師)に提示される。さらに、項目提示の際、トークフローや基準値、判断方法なども同時に提示することで、指導を行いながら指導者自身も学んでいく「OJT(On the Job Training)システム」の機能も持たせている。これにより、指導者の育成期間が約10分の1程度となった。これは、指導者育成費用を削減することで費用対効果を向上させるという、疾病管理の経済性を重視する考え方による。

(2) ライフステージにおける優先度を考慮したプログラム

医療者は「健康より優先度の高いものはない」と考えがちであるが、実際の患者においては、親の介護や仕事で大きな問題を抱えているなど、ライフステージにおいて自身の健康より優先される問題が存在していることがあり得る。

筆者らは、このようなライフステージ上の健康優先度を、「心理的要因」「環境要因(家族や仕事上の問題)」「結果要因(実際の結果など)」の3カテゴリーについて評価して、一定の基準を超えた場合、本人や保険者と相談の上、対象者から除外することにしている。これは、経営資源の「選択と集中」により全体最適を追求する側面があり、全員に平等なサービスを提供する医療の考え方と異なり、疾病管理の考え方を応用したものと言える。

3. 行動変容

これまで医療機関では、生活習慣病患者に対し、診療や指導にさまざまな工夫を行ってきており、現在も多くの取り組みがなされている。しかしこれは、あくまで通院患者に対してのものであり、未通院患者に対しては何もできないのが実情であった。

しかし今回、データヘルス計画によりレセプトと健診結果を突合することによって、①通院状況②服薬遵守状況③健診・検査受診状況の状況把握が可能となった。

筆者らは、これらを「生活習慣による行動」とは異なるものの、「医療行動」と定義し、行動変容の介入対象としている。

なお、糖尿病患者でのHbA1c（平均血糖値）の悪化群と良化群を比較したところ、通院状況＞服薬状況＞健診・検査受診状況の順で影響が大きかったことから、医療行動変容の介入優先順位を上記のようにしている。

以上のように対象者を階層化し、階層に応じた介入を行い、介入結果を評価して階層化を再度行うことで介入内容を変更していくという手法は、典型的な疾病管理の手法である。

4. 客観的なアウトカム評価

糖尿病に代表される生活習慣病疾病管理の本来のアウトカム（結果・成果）は、「重大イベント（脳卒中や心不全など）や糖尿病合併症を発症しない」と筆者らは考えている。しかし、データヘルス計画や重症化予防はその制度上、単年度での評価が必要となることから以下の手法を用いている。

(1) 長期的評価……「重大イベントおよび合併症の新規発症数」

生活習慣病対策は、生活習慣病そのものというより、生活習慣病を基礎疾患とする合併症等の重大イベントを予防することにある。しかし、重大イベントが発生するのはある程度時間が経った後となるため、新規発症も長期的指標としている。

(2) 短期的評価……「検査値」

糖尿病：HbA1c、高血圧：収縮期／拡張期血圧、脂質異常症：LDL/HDL コレステロール＋中性脂肪、慢性腎臓病：クレアチニン（eGFR）など、疾患ごとの評価指標で改善／悪化を評価する。

(3) 医療的な行動変容……「医療行動」

通院状況、服薬状況、健診・検査受診状況で改善／悪化を評価する。

(4) 自己管理的な行動変容……「生活習慣の行動」

食事、運動、喫煙、飲酒、セルフモニタリング（血糖や血圧、体重など）で改善／悪化を評価する。

まとめと展望

疾病管理手法が重症化予防に有利な点としては、患者の個別性に高度に対応した上で提供する医療を標準化していることである。これにより容易にIT化できることで、医療者のOJTも可能となり、経験や技量によらずに同時に多くの患

者に介入できることになる。また、介入内容を項目化することにより介入程度に濃淡を付けることができ、費用の設定の根拠も示すことができる。さらにはアウトカムの達成評価も明確になり重症化予防を受注する業者の優劣も判定しやすくなる。今まで重症化予防は三次予防であり、医療者の「職人芸」が問われた分野であった。疾病管理手法はその一部を切り出して標準化することにより「医療の質の可視化」を目指していくものであり、この手法の応用範囲はさらに広がっていくものと考えられる。

〈参考文献〉

- 1) 厚生労働省：平成28年「国民健康・栄養調査」の結果
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000177189.html>
- 2) 厚生労働省：平成24年「国民健康・栄養調査」の結果
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000032074.html>
- 3) 糖尿病疾病管理のための地域医療連携クリティカルパスの開発 小林邦久，中島直樹，井口登與志，西田大介，田中直美，星乃明彦，濱田倫朗，小妻幸男，中熊英貴，松下龍之介，副島秀久，高柳涼一，名和田新 糖尿病49(10)：817-823, 2006)

福大トピックス

福岡大学の「あたたかい医療」を ここ博多駅で

—福岡大学博多駅クリニック—

福岡大学博多駅クリニック形成外科助教 西田 美穂

執筆者紹介

西田 美穂（にしだ みほ）

1975年生まれ。福岡大学形成外科助教（福岡大学博多駅クリニック女性医療部門責任者、美容・形成外科チーフ）。形成外科専門医。抗加齢医学専門医。「美しく年齢を重ねていく」ための非手術的美容医療を得意としている。育児と仕事の両立に日々奮闘中。



2016年4月、博多駅に直結するKITTE博多ビル8階に福岡大学博多駅クリニックがオープンし、2018年の春で2年が経過します。次第に近隣オフィスや地域住民の皆さまにも認知されるようになり、患者さんも増えてまいりました。

本クリニックは、福岡大学病院、福岡大学筑紫病院に次ぐ福岡大学3番目の医療施設として、好立地を生かした特色ある医療を展開しています。大きな特徴として挙げられるのは、本クリニックが女性専用スペースを設けていることです。

女性専用スペースで行われる「女性のための専門医療」

女性専用スペースでは、女性のさ



女性専用スペースの待合室

まざまな悩みに寄り添った総合的な医療が提供できるよう、形成外科、皮膚科、産婦人科、泌尿器科、肛門科、精神神経科、乳腺外科、といった診療科が連携して診療に当たっています。以下、各科について紹介します。

抗加齢美容医療（形成外科・皮膚科）

自由診療の分野では、抗加齢美容医療（非手術的）を中心とした治療を行っています。特に、しみ・しわ・たるみの改善を目的とした抗加齢美容医療に力を入れており、専門の医師が安全性の高い美容医療を提供しています。しみに対しては、スキンケア指導や外用療法、光治療、レーザー治療などを行っています。シワやたるみに対しては、ヒアルロン酸注入やボツリヌス注射、高周波治療などを行っています。

また、形成外科、皮膚科の保険診療も行っています。男性医師には相談しにくいデリケートな部位の皮膚の状態・形態のお悩み、デキモノの手術などにも対応が可能です。

産婦人科

保険診療として、月経不順、月経痛、不妊、不正出血、子宮や卵巣の病気、更年期症状などの診断や治療を行っています。これに加え、自由診療としてピルの処方や婦人科がん検診なども行っています。

泌尿器科

過活動膀胱、尿失禁、骨盤臓器脱、尿路感染症、泌尿器がん検診などの診療を行っています。必要に応じて腹部エコー、尿検査、尿流量測定、膀胱尿道鏡検査、膀胱鏡検査、X線検査、CT検査など各種検査も可能です。

肛門科（消化器外科）

女性医師が女性のおしりの悩み全般の診察・治療を行います。特に、いぼ痔(痔核)、切れ痔(裂肛)、肛門のかゆみ(肛門掻痒症)や肛門脱の診療を行います。上記疾患以外でも、肛門近くの異常(痛み、腫れ、脱出など)や排便に關してのお悩みに対処しています。

女性のこころ外来（精神神経科）

うつ病をはじめとした、不眠や不安の症状への診療を行っています。また、職場や学校でのストレスなど悩みがある方のご相談にも応じています。

乳腺外科

乳房にしこり、引きつれ、痛み、違和感がある方、乳頭からの分泌液、乳頭のただれ、腋の下のしこりなどの自覚症状のある方、乳がん検診を希望される方、また検診で精密検査が必要と言われた方などの診療を行っています。必要に応じて、マンモグラフィ検査や超音波検査も行っています。

このように、大学病院関連施設に女性医療を専門とする機関があるということは大変珍しいことで、また、博多駅直結の好立地であることから全国的にも注目を集めています。皆さまのお悩みをぜひご相談ください。

皆さまのかかりつけ医を目指して、一般診療も充実

一般の診療部門では、博多駅近郊にお住まいの方や周辺オフィスで働く方々の“かかりつけ医”としてお役に立てるよう、また、通勤や通学、買い物で来られた方などの急な体調不良の“駆け込み寺”となれるよう、総合診療部、循環器内科、脳神経外科が常駐して一般診療を行っています。

内科・循環器内科・総合診療科（常勤）

風邪や急な体調不良、どこの科で受診すべきか分からない場合の診察を行っています。

また、多くの方が気がかりな高血圧・糖尿病・高コレステロール血症などの生活習慣病や循環器疾患（狭心症、不整脈等）、睡眠時無呼吸症候群などの診療を行っています。ご自身の体調に不安のある方や、健康診断で詳しい検査や治療を行うよう指導された方のご相談も受け付けています。

脳神経外科（常勤）

頭痛や慢性の腰痛、下肢のしびれの治療に力を注いでいます。ひとことで頭痛といっても、偏頭痛や筋緊張性頭痛、群発頭痛、薬物乱用頭痛など、原因や症状

はさまざまです。意外と知られていませんが、眼瞼下垂症が原因で起こる頭痛もあります。本クリニックには、CT等の検査装置が設置されているほか、さまざまな診療科の医師が在籍していますので、他の診療科の医師とも連携しながら患者さんに合った診療を提案できます。頭痛にお悩みの方は、ぜひご相談ください。

その他、本クリニックでは、健康診断も積極的に行っています。女性診療ユニットでは、乳がんや子宮がんの検診を、一般診療ユニットでは、福岡市などが行っているワンコイン（500円）健診“よかドック”などの自治体健診や個人・企業向けの定期健康診断のほか、就職先に提出する“雇入時健康診断”や“海外渡航者健康診断”を実施しています。

本クリニックの公式ウェブサイトから予約が可能です。健康診断の受診を考えている方は、ぜひご検討ください。

福岡大学病院、福岡大学筑紫病院と連携した専門医療

また、福岡大学病院、福岡大学筑紫病院と連携した専門性の高い医療も行っています。

ロボットスーツ HAL[®]トレーニング

脳卒中の後遺症や脊髄障害、神経難病などにより、手足の麻痺や歩行障害、バランス障害に対して有効です。こうした疾患や症状でお悩みの方は実際に体験することもできます。トレーニングは、脳神経外科担当医と HAL[®]専属の理学療法士が担当します。

形成外科、義眼外来

眼瞼下垂症、乳房再建、皮膚腫瘍、あざ・血管腫・血管奇形、口唇口蓋裂、顔や顔、耳の形、義眼、およびリンパ浮腫に関する診療を行います。眼瞼下垂症や皮膚腫瘍に対する日帰り手術も行っています。

また、義眼外来では、無眼球症や義眼装着に伴う瞼の変形に関する診療を義眼士と共に行っています。

渡航（ワクチン）外来

交通の拠点である博多駅にふさわしい専門外来として、「渡航（ワクチン）外来」を行っています。アフリカや東南アジア、中南米などの国や地域、発展途上国などでは数多くの感染症が発生しており、時として命を落とす危険性があります。そういった地域へ渡航する方を対象に、渡航国（地域）の感染リスクに対する情報提供や、渡航時期、渡航期間に応じたワクチン接種を福岡検疫所と連携して行っています。また、海外渡航者向けの健康診断を実施しているほか、ワクチン接種歴に関しては英文証明書を発行します。

詳しくは、福岡検疫所のウェブサイトをご覧ください。

精神神経科

神経症とされる、不安や生きることのつらさに関連した診療を中心に行っています。また、専門外来として精神分析的な精神療法についてのご相談、適応に関する検討などコンサルテーションを行います。女性ユニットでも専門医による診療を行っています（130ページ参照）。

小児発育外来

発育は、小児の発達と成長を意味します。小児の発達に関しては、神経発達症（旧：発達障害）、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症などの問題を抱える子どもたちの診療を行います。

皮膚科

湿疹、皮膚炎、水虫、蕁麻疹など、日常的な皮膚疾患から皮膚科領域全般にわたって診療します。また、皮膚のお悩みについても気軽にご相談ください。その他、難治性皮膚疾患の診断と治療相談や、男性・女性の脱毛症診断、育毛および脱毛の治療相談を行っています。

泌尿器科

前立腺がん、腎細胞がん、膀胱がんの診断、治療に関するご相談を受け付けています。特に前立腺がんと腎細胞がんはロボットを用いた手術が保険適応となっており、ご相談やご希望のある方は受診をお勧めします。女性ユニットでも女性

専門医による診療を行っています（129ページ参照）。

整形外科

スポーツによる骨折や骨粗鬆症、運動器疾患まで、専門性の高い外来を行っています。脊椎、股関節、手関節、肩関節、膝関節、足関節からリウマチ性疾患まで多岐にわたり外来診療を行っています。

消化器内科

消化器内科では、下部消化管の炎症性消化器内科全般の診療を行います。お腹の症状や消化器の病気についてご心配な方は気軽にご相談ください。内視鏡検査等が必要な場合には、福岡大学病院や福岡大学筑紫病院、もしくは近隣施設をご紹介します。

呼吸器内科

あらゆる呼吸器疾患を診察します。咳・痰・息切れ・胸の痛みをはじめとして、さまざまな症状から呼吸器疾患が分かります。健康診断で胸部X線写真の結果、精密検査を受けるよう指摘された方は、ぜひ受診してください。また、難治性呼吸器疾患に関する専門的なセカンドオピニオンもお受けしています。

内分泌・糖尿病内科

糖尿病・内分泌疾患を専門にしていますが、広く生活習慣病全般、すなわち甲状腺疾患、高血圧・脂質異常症（高脂血症）・肥満・メタボリックシンドローム・痛風（高尿酸血症）も含めて総合的に診療を行っています。疾患によっては、総合診療部や循環器内科医と連携して診療にあたります。

セカンドオピニオン外来

腫瘍・血液・感染症内科では、がんや血液の病気の方に対して、心臓血管外科では、循環器疾患のうち冠動脈バイパス手術や弁置換術などの開胸手術を勧められている患者さんのご相談やセカンドオピニオンを受け付けています。セカンドオピニオンは**完全予約制**です。

その際、受診中の医療機関からの診療情報をお持ちになってください。

検査外来（医療機関対象）

本クリニックでは、近隣の医療機関と連携し検査外来を行っています。検査外来では、他の医療施設でCT検査(単純撮影)やマンモグラフィ検査が必要となった方の撮影を、本クリニックの装置で行います。撮影した画像は、福岡大学病院や福岡大学筑紫病院の医師が読影(撮影画像・映像を見て診断)します。インターネットを活用したオンラインでの検査予約や撮影した画像および読影報告書が参照できる仕組みもあります。

福岡大学博多駅クリニックは、一般診療はもとより女性医療、そして各種専門外来に至るまで多岐にわたり診療を行っています。また、大学病院を基盤とした医療や先進的予防運動療法を、アジアの玄関口である博多駅横で展開することで、福岡大学の医学・医療・健康への取り組みを地域に発信しています。今後も博多駅クリニックは、地域の医療と健康に寄与する施設として発展できるよう、スタッフ一丸となって取り組んでいきます。

なお、本施設は外来診療のみで、通院治療が難しい場合や大きな処置・手術が必要な場合は福岡大学病院や福岡大学筑紫病院、そして患者さんのご希望に応じた他施設をご紹介します。また、一般診療以外の女性医療や専門外来は、基本的に**予約制**となっています。担当医・診療時間などの詳細は福岡大学博多駅クリニックのウェブサイトでご確認ください。



福岡大学博多駅クリニック

福岡市博多区博多駅中央街9番1号 KITTE 博多8階
公式ウェブサイト URL : <https://www.fumc.fukuoka-u.ac.jp>
TEL : 092-435-1011

福岡大学の新施設を紹介

4号館（新工学部棟）

「次代の発展に貢献する人材育成のための交流と創造のイノベーション拠点」のコンセプトの下、4号館が2018年2月に竣工します。環境に配慮した設計で、新たな研究に取り組む先進性を象徴するデザインが印象的な建物です。

工学部電気工学科および電子情報工学科の教育研究施設のみならず、文理融合型の創造活動を支援する「ものづくりセンター」や「地域多目的支援室」など、専門の垣根を越えた交流や連携が加速する開放的な空間を備えています。



福岡大学西新病院

福岡市医師会が運営している「福岡市医師会成人病センター」（福岡市早良区祖原）を福岡大学が事業譲受し、2018年4月から「福岡大学西新病院」としてオープンします。

オープン後も成人病センターの医療機能を概ね維持し、新たに入院機能に特化した小児科病床を設置して、福岡市西部の小児の入院に対応できるようにしていきます。

七隈花便り

七隈キャンパスは百花繚乱

福岡大学広報課 吉住 誠司

たのしみは朝おきいでて昨日まで無かりし花の咲ける見る時 『独楽吟』

これは幕末に生きた歌人橘曙覧（たちばなあけみ）の一首である。私も福岡大学七隈キャンパスに昨日まで無かった花が咲くのを見るとき無上の楽しみを覚える。花は一つ一つがそれぞれ美しく、他の花との違いもお互いの美しさをさらに際立たせる。花は多様性そのものである。そしてその花の写真を、名前や英名、由来、特徴とともに週2～3回本学公式 Twitter の「#七隈花便り」というコーナーに掲載している。

最初は花の名前を知りたかった。福岡大学の広大なキャンパスには至る所でさまざまな花が見られるのであるが、その名前が分からないのは誠に残念だ。そこでスマートフォンで写真を撮っておき、その写真を頼りにインターネット上で花の名前を探す。幸い今は写真から名前が分かるアプリもある。あるが、実際にはそれが本当かどうかを、複数の植物図鑑などで確認し、確信を得たところでこの名前だろうというところに落ち着く。

本学には薬用植物園がある。しばしば通ううちにその責任者である薬学部の大川雅史先生に花の名前や生態などまるで課外授業のようにたくさんのお話を教えていただいた。季節外れの土筆を発見しテレビ取材も受けた後藤さんにもいろいろ教わった。薬用植物園は花の名前も分かり、楽園のような所である。

花の名前を調べていると、その来歴や原産地、日本への伝わり方、色や形の特徴なども次第に分かってくる。和歌や俳句に詠まれ昔から愛されてきた花、まだ和名がない花、英名がない花、変わらないと思っていた学名が変わることなどさまざまな分野に導かれることになる。

写真も一眼レフでボケさせたり高い樹上の花を望遠で狙ったりもしたくなるが、見つけたときに直ちに撮れるスマホの手軽さは捨てがたい。最近では花の写真を撮っていると、「花便りの撮影ですか」と声を掛けていただくこともある。

公式 Twitter への掲載には多くの方々のご助力がある。広大な敷地に四季を通じていろいろな花が咲き乱れる環境にいることは幸せなことだ。次ページ以降に掲載の花々は、「#七隈花便り」に2017年1月10日から1年間掲載したものの全てである。このコーナーを介して、多くの方々が見る世界に足を踏み入れ一瞬でも幸せを感じていただければと願っている。

1月



2月



3月



- 1 ロウバイ（蠟梅 Wintersweet） 蠟細工のように半透明で光沢がある梅に似た花。別名唐梅。
- 2 スイセン（水仙 Tazetta narcissus） 別名雪中花。一定の寒さに当たらないと開花しない。
- 3 ミツマタ（三桠、三叉 Oriental Paperbush）の蕾 枝が三つに分かれるため三枝とも。日本の紙幣や和紙の原料にもなる。
- 4 オウバイ（黄梅 Winter jasmine） 垂れさがる枝に梅に似た黄色い花。中国名迎春花。立春頃（旧正月頃）に咲く。
- 5 ウメ（梅 Plum blossom） 別名春告草。梅の花と香りは待ちわびた春の到来を告げる。大宰府天満宮の神紋。
- 6 ツバキ（椿 Japanese camellia） 欧米では「冬の薔薇」とも呼ばれる。油山の名称の由来は日本で初めて椿の実から椿油を精製したことによる。
- 7 ホトケノザ（仏の座 Henbit dead-nettle） 半円形の葉を仏像を載せる蓮華座に見立てた。春の七草の仏の座はキク科のコオニタビラコのことでも別のもの。
- 8 フクジュソウ（福寿草 Far East Amur adonis） 春を告げる花の代表。日光が当たると花が開き日が陰ると閉じる。
- 9 ジンチョウゲ（沈丁花 Winter Daphne） 香木の沈香のような芳香と丁子（ちょうじ）のような花を付ける木の意。葉の形が月桂樹（Daphne）に似ている。
- 10 ツクシ（土筆 Fertile shoots of Horsetail） スギナに付いて出てくるので「付く子」、袴の部分で継いでいるように見えるので「継子」など諸説ある。
- 11 ツバキカンザクラ（椿寒桜） 寒緋桜または寒桜と支那寒桜（唐寒桜）の自然交雑種。密集して次々に花を付け花期が長い。原木が松山市の椿神社にある。

3月



- 12 ヒイラギナンテン (柗南天 Japanese mahonia) 沢山の黄色い小花が甘い香りを放つ。葉は柗に似てトゲトゲ。小さなブドウのような実を付ける。
- 13 フキノトウ (蔦の臺 Fuki shoot) 早春に葉より先に伸び出す花茎を蔦の臺という。天ぷらには花が咲く前のものがベスト。ほろ苦さが春の味。
- 14 サンシュユ (山茱萸 Japanese cornel) 若葉に先立って鮮やかな黄色の小花を木一面に付ける。早春の空を黄金色に点描する。
- 15 シキミ (柿 Sacred anise tree) 葉の付け根から一つずつ出る花は淡い黄色で細長くややねじれる。日本特有の香木。鑑真和尚が日本にもたらしたとも言われる。
- 16 ハクモクレン (白木蓮 Yulan magnolia) 新葉が出る前に枝先に白い卵形の花を多数咲かせる。花には芳香があり、上向きで、全開しない。
- 17 ヒマラヤユキノシタ (ヒマラヤ山脈周辺原産で寒さに強く、冬でも常緑の葉を雪の下からのぞかせていることからこの名に。
- 18 ユキヤナギ (雪柳 Baby's breath spirea) 葉が柳の葉に似て細長く、枝いっぱい白い小花を雪が積もったように咲かせる。雪白の小枝が春風にうねる。
- 19 クロキ (黒木) 名前は樹皮が黒いことから。日本の固有種で比較的暖かい海岸付近に分布。芳香のある白色の小花。雄しべは長く花冠より突き出す。
- 20 スノーフレーク (Summer snowflake) 別名ズランスイセン (鈴蘭水仙)。水仙のような茎に鈴蘭のような白い花。花の先端に緑の斑点がある。
- 21 キブシ (木五倍子 Early Stachyurus) 実を染料の原料であるフシの代用として使った。淡い黄色の花が暖簾のように垂れ下がる。

4月



- 22 コブシ (辛夷 Kobushi Magnolia) 名前は果実がにぎりこぶしのようにデコボコしているためと言われる。花びらは純白で基部は桃色を帯びる。
- 23 レンギョウ (連翹 Forsythia) 黄色い4弁の小花が細い枝にびっしりと咲く。花が咲き終わる頃、入れ違いに緑色の葉が芽吹く。
- 24 ユスラウメ (梅桃、山桜桃 Nanking cherry) 桜に似た白色または淡紅色の花を咲かせる。「櫻」は元々ユスラウメを指す字であった。
- 25 サクラ (桜 Cherry blossom) 数百年種類の桜の中で江戸末期に出現した染井吉野は明治以降日本全国に広まった。
- 26 モモノハナ (桃の花 Peach flowers) Peachは「ペルシア」が語源。枝に沿って薄桃色の花を付ける。葉は花よりやや遅れて茂る。
- 27 ムスカリ (Grape hyacinth) 名前はギリシア語でジャコウの意。花がブドウの実のようにも見えることから英名ではブドウヒアシンス。
- 28 リキュウバイ (利休梅 Pearlbush) 名前は茶花として利用されていたため。梅に似た白花。おとなしく控えめな花で品がある。
- 29 シャガ (著菖 Fringed iris) 白っぽいアヤメに似た花。花弁に濃い紫と黄色の模様がある。人家近くの木陰など、やや湿ったところに群生。
- 30 カリン (櫻燻 Chinese quince)の花 白やピンクの5弁花。ボケの花に少し似ている。花も果実も楽しめ、樹皮・新緑・紅葉が美しい。
- 31 イチハツ (一初、一八 Roof iris) 和風のアヤメ類で一番初めに咲き出す。高さ30-50cm。乾いた土に生える。内側の花に白色のときか状の突起がある。

七隈花便り

4月



5月



- 32 シャクナゲ (石南花、石楠花 *Rhododendron*)。石南花の読みシャクナゲがシャクナゲに変化したという。
- 33 シラン (紫蘭 *Hyacinth orchid*) 花は紫紅色で白花もある。極めて丈夫で、半日陰から日向まで適応し、乾燥にも過湿にもよく耐える。
- 34 ボタン (牡丹 *Tree peony*) 中国西北部に自生し中国を代表する花。盛唐期以降牡丹の花が花の王として愛好され、白居易が楊貴妃を牡丹に例えた。
- 35 ツツジ (躑躅 *Azalea*) 一説には、花が連なって咲くためツツキサキギ(続き咲き木)からツツジになったという。万葉集の頃から親しまれている。
- 36 ヒトツバタゴ (一つ葉田子 *Chinese Fringingtree*)。 タゴはトネリコのこと。複葉のトネリコに対し、単葉のトネリコに似た木の意。別名ナンジャモンジャノキ。
- 37 シャクヤク (芍薬 *Chinese peony*) 花の王と呼ばれる牡丹に対して、芍薬は花の宰相と呼ばれる。牡丹は木であるが、芍薬は草である。
- 38 ナルコユリ (鳴子百合 *Scented Solomon's seal*) 稲を荒らす鳥などを追い払う目的で、板と竹をぶら下げ、揺らすと音がする鳴子という道具に似ているため。
- 39バラ (薔薇 *Rose*) 灌木、低木、または木本性のつる植物。北半球の温帯域に広く自生。チベット周辺、中国の雲南省、ミャンマーから中近東、ヨーロッパ等へ伝播。
- 40 ホタルブクロ (蛍袋 *Spotted bellflower*) 名前は、花に蜜を入れたことからとか、提灯 (火垂る袋) に似ているからとか諸説あり。淡紫色や白色の釣り鐘状の花。
- 41 ハコネウツギ (箱根空木 *Japanese Weigela*) 別名紅空木。海岸に近い山地に生える。花色が白から→ピンク→赤に変わっていく。日本固有種。
- 42 ツクシイバラ (筑紫茨 *Japanese Rose 'Tsukushi-ibara'*) 九州や四国の野原や草原、道端などに自生するノイバラの一種。花は淡紅色または白色。

5月



6月



- 43 ヤマボウシ (山法師 *Japanese dogwood, Kousa*) 中央の丸い花穂を坊主頭に、4枚の白い花びらを白い頭巾に見立て、比叡山延暦寺の山法師になぞらえた。
- 44 スイレン (睡蓮 *Water lily*) よく見られるスイレンは、幾つかの野生種を交配、品種改良し、作出された園芸種。日本にはヒツジグサ (未草) の1種類のみ自生。
- 45 ユスラウメ、ユスラ (山桜桃、梅桃 *Nanking cherry*) 梅雨の頃サクラランボに似た赤い小さな実を付ける。薄甘くて酸味が少ない。
- 46 アカンサス (*Acanthus, Bear's breeches*) 和名ハアザミ (葉薊)。古代ギリシャ建築に使われたコリント様式の柱の頭の部分は、アカンサスの葉を意匠化したもの。
- 47 ハマカンゾウ (浜草 *Coastal day-lily*) 暖地の海岸などに橙色の一日花を咲かせる。ノカンゾウに似ているが、葉が厚くて光沢があり、常緑なのが特徴。
- 48 ヤグルマギク (*Cornflower, Bachelor's button*) 野生種は青紫色。その美しさから、最高級のサファイアの色味をコーンフラワーブルーと言う。
- 49 キンシバイ (金糸梅 *Goldencup St. John's Wort*) 5弁の花が梅に似ており、黄色の雄しべを金の糸に例えた。ピヨウヤナギなどと混同されやすい。
- 50 ヤマアジサイ (山紫陽花 *Mountain hydrangea*) サワアジサイとも言う。花は中央部の両性花と周辺部の装飾花からなり、色や形は様々。
- 51 ハナショウブ (花菖蒲 *Japanese iris*) 葉が菖蒲に似ていて6月頃に咲く。湿地に生え、花びらの中央部に黄色い筋があるのが特徴。
- 52 ヒトツバエニシダ (一葉金雀枝 *Dyer's greenweed*) エニシダの名はスペイン語のイニエスタがなまったものと言われる。黄緑色の染料となる。
- 53 ザクロ (石榴 *Pomegranate*) の花 中国の詩人王安石が『万緑叢中紅一点』と詠んだのはザクロの花のこと。

七隈花便り

6月



7月



- 54 ベニバナ(紅花 Safflower) 別名スエツムハナ(末摘花)は源氏物語にも登場。花は、はじめ鮮やかな黄色で徐々に赤くなる。紅色の染料や口紅などの材料とされた。
- 55 ウツボグサ(靱草 Self-heal) 花穂が弓矢を入れる靱(うつば)に似ていることから。別名カコソウ(夏枯草)。七十二候では冬至に生じ、夏至に枯れるとされる特異な花。
- 56 クチナンシ(梔子 Gardenia, Cape jasmine) 名の由来は、一説には果実が熟しても割れないためという。一重と八重があり、強い芳香がある。
- 57 アガパンサス(Agapanthus, African lily) 名はギリシャ語の agape(アガペ 愛)と anthos(アントス 花)で愛の花。和名ムラサキクンシラン。
- 58 アンノコギリソウ(阿蘇鋸草 Chinese yarrow) 鋸草の亜種。大陸系遺存植物で阿蘇など九州の限られた地域に生育。ノコギリのような葉の切れ込みが浅い。
- 59 ハンゲショウ(半夏生、半化粧 Asian lizard's tail) 名は半夏生(7月2日頃)に花が咲くことに由来する説と一部を残して葉が白くなるので半化粧とする説がある。
- 60 ネムノハナ(含歓の花 Persian silk tree) ネムノキの花。名は夜になると葉が閉じることに由来。中国では夫婦円満の象徴。淡紅色の長いおしべが夏の風に揺れる。
- 61 ムラサキバレンギク(紫馬籬菊 Purple coneflower) 別名エキナセア。花の中央が盛り上がり、紫の舌状花が馬籬(まとい)に垂れ下がる細い草や紙)のように垂れ下がる。
- 62 ヒメヒオウギズイセン(姫檜扇水仙 Montbretia) ヒオウギズイセンとヒメトウショウブとの交配種。クロコスミアやモントブレチアとも呼ばれる。繁殖力旺盛。
- 63 ギンバイカ(銀梅花、銀盃花 Myrtle) 別名ギンコウバイ(銀香梅)。英名マートル、独名ミルテ。葉を揉むとユーカリに似た強い芳香を放つ。
- 64 オニユリ(鬼百合 Tiger Lily) 名前は花の色や形から赤鬼を連想させることから。英名では虎。暗紫色の斑点があるオレンジ色の花弁が強く反り返る。

7月



8月



- 65 ホテイアオイ(布袋葵 Water hyacinth) 別名ホテイソウ(布袋草)。浮き草の一種。葉は卵形で、ふくれて浮き袋になる部分を、七福神の布袋の丸いおなかに例えた。
- 66 ノウゼンカズラ(凌霄花 Chinese trumpet vine) 凌霄花は「霄(そら)を凌(しの)ぐ花」の意。オレンジ色の大きな花が高く這い登る。鳥媒花。
- 67 ガマノホ(蒲の穂 Bulrush, Cattail) 池や沼などの水辺に生え、円柱形の穂をつける。ガマノホは「かまぼこ」の語源。風媒花。
- 68 ササガニユリ(細蟹百合 Spider lily) ササガニとは蜘蛛のこと。アサガオの花のような副花冠(花弁の内側にある膜)と長く伸びた花弁が蜘蛛を思わせる。
- 69 オクラ(秋葵 Okra, Ladies' fingers) の花 オクラは英名で、秋葵という漢字が当てられている。黄色の花びらも食べられる。
- 70 ノカンゾウ(野萱草 Orange day-lily) 橙赤色の花。赤みの強いものは特に紅萱草と呼ばれる。やや湿った野原や川岸に生育。一日花。若葉は食用になる。
- 71 ムクゲ(木槿 Rose of Sharon, Rose mallow) 花は白、紫、赤など。庭木として広く植栽される。白の一重花に中心が赤い底紅種は千宗旦が好んだ。
- 72 カノコユリ(鹿の子百合 The Japanese lily) 花弁に鹿の子模様の斑点があることから。江戸時代にシーボルトが球根を日本から持ち出し西欧で知られるようになった。
- 73 アサガオ(朝顔、舜 Morning glory) 漢名は牽牛花。大きく開いた円錐形の花は真夏を象徴するが、朝顔は秋の季語。
- 74 ハブソウ(波布草 Coffee senna) 名前は江戸時代に毒虫や毒蛇、とくにハブに咬まれたときの民間薬として導入されたため。別名クサセンナ。
- 75 シコンノボタン(紫紺野牡丹 Princess flower, Purple glory bush) 名はノボタンに似た花形で花色が紫紺色であることから。雄しべの先まで紫。

七隈花便り

8月



9月



- 76 モミジアオイ (紅葉葵 Scarlet rosemallow) 名は葉がモミジのような形であることから。別名コウショッキ (紅蜀葵)。フヨウと違って花弁が離れている。
- 77 ナツズイセン (夏水仙 Resurrection lily, Naked lady) 名は葉がスイセンに似ていて花が夏に咲くことから。花期に葉がないため俗に裸百合とも呼ばれる。
- 78 キキョウ (桔梗 Balloon flower) 万葉集の中で秋の七草と詠われている「朝貌(あさがお)の花」はキキョウであるとされている。
- 79 シュウカイドウ (秋海棠 Hardy begonia) 貝原益軒の『大和本草』に「寛永年中、中華より初て長崎に来る。花の色海棠に似たり。故に名付く」と記されている。
- 80 フヨウ (芙蓉 Cotton rosemallow) 芙蓉はハスの美称でもあるため、区別する際には木芙蓉(もくふよう)と呼ばれる。朝咲いて夕方にはしぼむ一日花。
- 81 ハナシュクシャ (花縮紗 Ginger lily) 英名からジンジャーとも呼ばれるが、生姜の花ではない。夕方に香り豊かな白い花を咲かせる。
- 82 キツネノカミソリ (狐の剃刀 Orange spider lily) 葉が剃刀に似ていることから。春に伸びる葉は開花時期には落ちる。この特徴を「葉見ず花見ず」と言う。
- 83 サギソウ (鷺草 White egret flower, Fringed orchid) シラサギが翼を広げた様に似ていることから。別名サギリ(鷺蘭)。
- 84 キンミズヒキ (金水引 Hairy agrimony) 名は黄色い花穂を金色の水引に見立てた。実が三角形のとげ状で服などに引っ付くためヒツキグサとも。
- 85 ヒオウギ (檜扇 Leopard flower, Backberry lily) 扇形に開いた葉の形が檜扇に似ていることから。別名カラスオウギ(烏扇)。

9月



10月



- 86 センニンソウ (仙人草 Sweet autumn clematis) 果実には白い毛がありこれを仙人のヒゲに見立てた。多数の白い小花から甘い香りが漂う。
- 87 オミナエシ (女郎花 Patrinia) 秋の七草の一つ。オミナは女の意、エシは古語のへし(圧)で、美女を圧倒する美しさからと言われるが、エシを飯とする説もある。
- 88 ワタ (綿 Cotton plant) 栽培種には4大種(オーストラリア野生綿、アジア綿、アメリカ野生綿、アメリカ栽培綿)と呼ばれる栽培種の系統がある。
- 89 ヒガンバナ (彼岸花、曼珠沙華 Red spider lily) 彼岸花も花と葉が同時に出ることがないため「葉見ず花見ず」と言われる。韓国では「相思華」と呼ぶらしい。
- 90 ニラ (韭菜 Garlic chives) の花 白い小さな花が多数咲く。古事記や万葉集では美良(みら)、近世の女房言葉では二文字(ふたもじ)と呼ばれていた。
- 91 ザクロ (石榴、柘榴 Pomegranate) ザクロの呼称は、有力な原産地の近くと考えられるザクロ山脈を現地音に近い「石榴」の字で音訳したともいわれる。
- 92 シオン (紫苑 Tatarian aster) 別名オモイグサ(思い草)。『今昔物語集』に、見た人の心にあるものを決して忘れさせない花として紫苑が登場する。
- 93 トウワタ (唐綿 Tropical milkweed) 種に白い綿毛が付くことから外来のワタの意。日本には1842年(天保13年)に渡来したとされる。
- 94 ヘチマ (糸瓜 Sponge gourd) 本来の名前糸瓜(いとわり)が「とうり」となまった。「と」は『いろは歌』で「へ」と「ち」の間にあることから「へち間」の意で「へちま」。
- 95 ハギ (萩 Japanese clover) 秋の七草の一つで万葉の昔から親しまれてきた。草ではなく木なのだが根元から毎年新しい芽が出る。
- 96 フジバカマ (藤袴 Fragrant eupatorium) 秋の七草の一つ。淡い紫紅色の小さな花。山林、河畔などに自生。乾燥すると桜餅の葉のような芳香を放つ。

10月



- 97 クズ(葛 Kudzu vine) 大和の国(奈良県)の国栖(くず)というところが葛粉の産地であったところから。秋の七草の一つ。
- 98 ショウキズイセン(鍾馗水仙 Golden spider lily) 別名ショウキラン(鍾馗欄)。彼岸花に少し遅れて咲く鮮やかな黄色の花。
- 99 タイワンホトトギス(台湾杜鵑草 Toad lily) ホトトギスの名は、花にある紅紫色の斑点模様、鳥のホトトギスの胸にある模様と似ていることから。
- 100 キンモクセイ(金木犀 Orange sweet olive) 中国名で木犀は桂花、金木犀は丹桂。仲秋の頃橙色の多数の小花が一斉に甘い香りを放つ。
- 101 イヌサフラン(犬サフラン Autumn crocus, Meadow saffron) 園芸用のはコルチカムと呼ばれる。サフランやクロッカスはアヤメ科で別種。
- 102 ベンケイソウ(弁慶草 Garden stonecrop) 枯れにくい強い草を弁慶になぞらえた。山地の日当たりの良い草地に生える淡い紅色の花。
- 103 ニンニクカズラ(大蒜葛 Garlic vine) 葉をつぶすとニンニクに似た臭いがするため。触らなければ匂わない。赤紫色で内部が白い漏斗状の花。
- 104 コバノセンナ(小葉の旃那 Christmas Senna) センナはアラビア語の sana(耳)から。莢(さや)が耳の形に似ていることに由来。鮮やかな黄色の5弁花。
- 105 ローゼル(Roselle) ロゼリ草とも呼ばれる。クリーム色の花や赤い果実はハーブティー「ハイビスカス・ティー」として利用される。
- 106 シュウメイギク(秋明菊 Japanese anemone) 貴船菊など多くの別名がある。キクではなくアネモネの仲間。いびつな花弁に見えるのは萼(がく)で、本物の花弁はない。

11月



- 107 リンドウ(竜胆 Japanese gentian) 秋の代表的な山野草。釣り鐘型のきれいな青紫色の花が上向きに咲く。花は日が当たると開き、陰るとしぼむ。
- 108 サラシナショウマ(晒菜升麻、更科升麻 Bugbane) サラシナは若菜を茹でて水にさらして山菜として食したことに由来。白いブラシのような花。
- 109 ノコンギク(野紺菊 a Japanese Aster) 野生のコンギクの意。日当たりの良い路傍やあぜ、河川敷等によく見られる野菊の一つ。多くの変種がある。
- 110 ヒイラギモクセイ(柃木犀 Fortune's osmanthus) ヒイラギとギンモクセイの雑種と考えられている。花はクリームのような芳香がある。
- 111 ツブキ(石路 Green leopard plant) の花 名は艶(つや)のある葉の「つやぶき」が変化して「つわぶき」。葉は冬でも緑のまま。
- 112 チャノキ(茶ノ木 Tea plant) の花 白い花が下向きに咲く。博多に聖福寺を建立した臨済宗の開祖栄西が茶の種子を宋から持ち帰り日本に喫茶の習慣を広めた。
- 113 サフラン(泊夫藍 Saffron) 別名薬用サフラン。鮮やかな深紅の柱頭を花柱とともに摘み取って乾燥させ、食品の調味料や着色料に使用する。
- 114 ヒイラギ(柃 Holly rosmanthus) の花 名は葉の緑の刺に触るとヒリヒリと痛むことから「ヒリヒリと痛む」旨の古語「疼(ひいら)く」から。白色の小花が密生。
- 115 エアーポテト(Air potato, Bitter yam) 巨大なムカゴが空中に浮かぶようにぶら下がる姿から宇宙イモの流通名も。ムカゴは食用となる。
- 116 イソギク(磯菊 Gold-and-Silver Chrysanthemum, Ajanía) 名は海岸沿いに生えるため磯の菊ということから。黄色の小さい花がたくさん咲く。

12月



- 117 イチョウ (銀杏、公孫樹 Ginkgo tree) 特殊な針葉樹。古生代から中生代に世界的に繁栄し氷河期に絶滅したイチョウ科の植物の唯一の現存種。生きている化石として絶滅危惧種に指定。
- 118 ビワ (枇杷 Loquat) の花 初冬に香しい白い小花を咲かせる。目立たない風情が俳人などに好まれる。
- 119 レモン (檸檬 Lemon) 強い香りの白い5弁花を咲かせた半年後に果実が緑色から黄色に熟す。ラグビーボール形の実の先端に乳頭と呼ばれる突起がある。
- 120 サザンカ (山茶花 Sasanqua camellia) 山茶は中国語でツバキのこと。名は山茶花本来の読み「サンサカ」が「サンザカ」→「サザンカ」と訛った。
- 121 ヤツデ (八手 Japanese aralia) の花 黄白色の小花が球状に咲く。天狗の羽団扇といわれる大きな葉が7~9裂する。
- 122 カンツバキ (寒椿) サザンカとツバキの交雑種といわれる。桃紅色の八重咲き。枝が横方向に伸び背丈が高くならない。花弁は1枚ずつ散る。
- 123 ユズ (柚子 Yuzu) ユズは比較的大きく、果皮の表面はでこぼこしている。酸味は強く香りもある。冬至に柚子湯に入る習慣がある。

※解説は、インターネット等から複数の情報を基に筆者が作成。

「福岡大学公式ウェブサイト」が 全面リニューアル

2017年10月に、福岡大学公式ウェブサイトを全面リニューアルしました。
本学の概要や取り組み、最新情報はもちろん、豊富な写真とともに「ひとびと」のこだわりや想いをお伝えします。

<福岡大学公式ウェブサイト>

<https://www.fukuoka-u.ac.jp/>

福岡大学 検索



■写真を豊富に掲載



学生の生き生きとした表情が印象的なトップ画面



最新情報をトップ画面で随時更新



福岡大学の催しは「イベントスケジュール」で確認

■スマートフォンやタブレット等の画面サイズに最適化されたレイアウトで表示



■新コンテンツ「F-ACE」で福岡大学に関わる「ひとびと」のこだわりや想いを伝える



■SNS との連携を強化

＜福岡大学公式 SNS＞

- Twitter …… ID : @Fukuoka_Univ_PR
- Facebook …… ID : @FukuokaUniversity
- YouTube …… 福岡大学公式チャンネル
- Instagram …… ID : @fukuoka_university

第13回(平成29年度) 全国高校生川柳コンクール入選作品

福岡大学主催の第13回(平成29年度)全国高校生川柳コンクールには、全国208校の13,331人から32,468作品の応募がありました。

入選作品は次のとおりです。

- 金賞**〔福岡大学長賞〕 髪切って視線気になる登校日
福岡県 福岡大学附属若葉高等学校 1年 小林 優貴奈
- 銀賞**〔全日本川柳協会賞〕 夏祭り送信ボタンまだ押せず
兵庫県 兵庫県立猪名川高等学校 3年 中尾 美結
- 銅賞**〔西日本新聞社賞〕 買ったはずいつかスマホに飼われてる
神奈川県 神奈川県立逗葉高等学校 3年 相川 舞衣
- 銅賞**〔NHK福岡放送局長賞〕 絶望の三者面談二対一
兵庫県 姫路市立琴丘高等学校 2年 阿蘇 由城

福大生が選ぶ賞〔特別賞〕

- 夏祭り服の下では汗まつり 福岡県 福岡大学附属大濠高等学校 1年 内田 暖望
- クリスマス今日は手袋おいていこう 大阪府 大阪府立摂津高等学校 2年 杉本 夏実
- 落ちるなど二つの火玉に願い込め 福岡県 福岡大学附属若葉高等学校 2年 高場 葉月
- 好きなのに言葉と思いは反比例 神奈川県 横浜雙葉高等学校 2年 南雲ひかる
- 教科書の線引き結局全て引く 福岡県 福岡大学附属若葉高等学校 3年 山下 恵実

入賞

- ホテル見てかつての思い溢れだす 愛知県 愛知県立守山高等学校 3年 青山 賢人
- ペンだこができて安心夏の夜 大阪府 大阪市立汎愛高等学校 2年 青山 実
- 五メートル遠距離恋愛教室で 大分県 大分県立別府翔青高等学校 1年 安部 瑠美
- 君の横クラスのみんで争奪戦 兵庫県 姫路市立琴丘高等学校 2年 有馬 涼平
- この想い口で伝えず文字で打つ 愛知県 愛知県立東郷高等学校 2年 安藤 航輝
- ホームステイ母国の文化胸を張る 福岡県 福岡大学附属若葉高等学校 2年 石川 絢菜
- じいちゃんも読書の手段はiPad 福岡県 東福岡高等学校 1年 井尻 春樹
- たまに聞く祖母の方言外国語 秋田県 秋田県立秋田西高等学校 2年 伊藤 未桜
- 健康器具でうめつくされる家の中 福岡県 福岡大学附属若葉高等学校 2年 伊福 サラ
- 夏休み明日があるの繰り返し 長崎県 純心女子高等学校 3年 上野 夏鈴
- ラテアートインスタ上げて秒で飲む 福岡県 福岡大学附属大濠高等学校 2年 大谷 咲月
- 陽炎を踏みしめ向う通学路 群馬県 群馬県立安中総合学園高等学校 1年 岡林 愛佳

嫌なこと今となつては過去のこと
投票に行こうと決めた誕生日
記憶よりなんでもパシャリスマホ撮り
絆創膏持ってるだけで女子力に
緊張感オープンキャンパス一人旅
バスの中見渡す限りスマホなう
見上げると喜怒哀楽の夏の間
夏休み父に連れられ初選挙
家離れ逆に増えたね親の会話
あと一点この一球に全て懸け
競い合い切磋琢磨し得た絆
帰宅して「おかえり」聞こえる温かさ
「内緒だよ」次の日みんな知っている
朝起きておれにも必要アダプター
鳴りやまぬスマホの通知と蟬の声
会話中スマホじゃなくて私見て
赤点に「死んだ」とさわぐ生きた人
読めませんキラキラネーム君の名は
はなさない嫌いな人と好きな人
赤点は伸び代たっぷり希望有り
付度し我が家の平和守られる
パンケーキ味より量よりインスタ映え
心の芽目があう瞬間花開く
やめてよね若者というまとめかた
セミうるさい勉強しろと親うるさい
夏祭りりんごあめより君探す
スタンドの君の心にホームラン
受験生ポケモン追わず夢おった
一部屋に家族集まり皆スマホ
料理よりシェフの笑顔がフォトジェニック
おばあちゃん食べろ食べると太らせる
人生のすべてを知った祖父のしわ
制服にすけるTシャツ個性出る

大分県	大分県立別府翔青高等学校	1年	加藤 愛三
福岡県	福岡大学附属若葉高等学校	3年	金内 凜
佐賀県	早稲田佐賀高等学校	1年	金子 美羽
秋田県	秋田県立秋田西高等学校	2年	鎌田 真由
北海道	北海道稚内高等学校	2年	河合 勇樹
鹿児島県	樟南高等学校	2年	川畑賢太郎
福岡県	福岡大学附属若葉高等学校	3年	河邊 琴音
愛知県	愛知県立刈谷東高等学校	3年	鬼頭知絵理
長崎県	聖和女子学院高等学校	1年	楠富日菜乃
神奈川県	神奈川県立厚木東高等学校	2年	小島 明寛
福岡県	福岡常葉高等学校	3年	小柳 輝洋
愛知県	名古屋市立緑高等学校	1年	佐橋 茉莉
兵庫県	兵庫県立氷上高等学校	1年	清水 瞳
群馬県	高崎商科大学附属高等学校	2年	神宮 拓海
大阪府	大阪府立摂津高等学校	2年	杉本 雄飛
秋田県	秋田県立横手清陵学院高等学校	2年	杉山 新
愛知県	名古屋市立緑高等学校	1年	高田 皓介
東京都	東京都立江東商業高等学校	2年	高橋 柚惟
大分県	大分県立別府翔青高等学校	2年	武田 涼世
愛知県	愛知県立東郷高等学校	1年	谷倉 涼花
福岡県	つくば開成福岡高等学校	3年	内藤 喬
群馬県	高崎商科大学附属高等学校	3年	長尾 友香
神奈川県	神奈川県立厚木東高等学校	2年	中山 海斗
京都府	大谷高等学校	3年	橋本 里穂
神奈川県	橘学苑高等学校	3年	古川 昭浩
愛知県	愛知県立東郷高等学校	2年	松田 若菜
京都府	大谷高等学校	3年	松本 優史
福岡県	東福岡高等学校	1年	真名子健人
茨城県	茨城県立茨城東高等学校	1年	室積 篤志
熊本県	熊本県立第一高等学校	2年	元田紀代香
群馬県	高崎商科大学附属高等学校	2年	矢野 来夏
佐賀県	早稲田佐賀高等学校	1年	山本 安純
大分県	大分県立竹田高等学校	3年	米澤 弥央

(敬称略)

※作品は受賞者氏名の五十音順に記載

学校賞 (多数の入選作品を創作した学校を表彰)

愛知県立東郷高等学校(愛知県)	大分県立別府翔青高等学校(大分県)
高崎商科大学附属高等学校(群馬県)	姫路市立琴丘高等学校(兵庫県)
兵庫県立猪名川高等学校(兵庫県)	福岡大学附属若葉高等学校(福岡県)

福岡大学校歌

作詞/狩野 満 作曲/飯田 信夫 編曲/平井 哲三郎

ちくしのーはーげーんかいのしお ざいはるか せ ぶり ね
とうときーはーもーゆるひのあつ きいのちかけ い せい
ゆかしきーはーじーゆうなるがく のほこりか ゆうじょう

をーゆび さすところーう つくしーしーきーわれ
のーはた かざしつ つーた くーしーきーわれ
のーわか くさもえ てーた とーまーべー

ら が ぼ こ う わ れ ら が り そ う み ち こ そ は け
ら が ぼ こ う わ れ ら が ほ う い ゆ め こ そ は お
ら が ぼ こ う わ れ ら が し め と き こ そ は や

わ し か れ ひ と ら し き ー ひ と に あ る べ く ー か
お い な れ あ た ら し ー つ ち ふ と み し め て ー は
が て ゆ け う た ら し め ー ま こ と を む ね に ー つ

が や け る あ す を の ぞ み て わ か ー き ー ひ ー の ー き ー よ
な ー い ー う ー は る に は よ わ じ ひ た ら ー か ー な ー ー あ
ど い あ う き ー ー を う た わ ん ら ー け ー ひ ー く ー あ

うをまなば ん
きをいのら ん
すをうたわ ん

三、ゆかしきは

二、とうときは

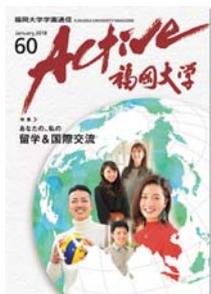
一、筑紫野は

自由なる学のほこりか
友情の若草もえて
讃うべきわれらが母校
時こそはやがて逝け
つどいあぬ誠を胸に
ひらけゆく明日を歌わん

花散るう春には酔わじ
ゆたかなる秋を祈らん
あたらしき土ふみしめて
夢こそは大いなる
われらが抱負
経世の旗かざしつ
たくましくわれらが母校
もゆる火の熱きいのちか
若き日の今日を望みば
輝ける明日を望みば
道こそはけわしけれ
人らしき人にあるべく
背振ねを指さすところ
うつくしきわれらが母校
玄海の汐ざいはるか



広 報 誌



■ 学園通信

大学の現況や取り組み、卒業生や在学生の活躍、教員の研究、医療活動等を掲載した広報誌です。年4回（4月、6月、10月、1月）発行しています。公式ウェブサイトではバックナンバーも読むことができます。（A4判約40ページ）



■ 大学案内

主に高校生やその保護者、高校教員等を対象にした広報誌です。学部学科の紹介をはじめ、卒業生の活躍や在学生の学びの様子等について紹介しています。入試情報も一部掲載しています。（A4判約180ページ）



■ 大学要覧

福岡大学の概要や取り組みを紹介している学外向けの広報誌です。本学の教育研究活動等の基本情報や各種データ（学生数や財務状況等）を分かりやすく掲載しています。（A5判約90ページ）

『七隈の杜』 2018／第14号

2018（平成30）年1月31日発行
 編集 福岡大学広報課
 発行 福岡大学
 福岡市城南区七隈八丁目19番1号
 TEL 092-871-6631（代）
 fupr@adm.fukuoka-u.ac.jp
 https://www.fukuoka-u.ac.jp

『七隈の杜』に対するご感想、ご意見をお寄せください。
 バックナンバーに関するお問い合わせもこちらにお電話ください。